HITACHI
Inspire the Next

JP1 Version 10

JP1/Data Highway - Server 管理者ガイド

解説・手引・操作書

3021-3-142-20

JP1 Version 10

前書き

■ 対象製品

適用 OS のバージョン，JP1/Data Highway - Server が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については，リリースノートを確認してください。

R-1523P-1AA4 JP1/Data Highway - Server 10-50（適用 OS：Windows Server 2008 R2, Windows Server 2012，Windows Server 2012 R2）

R-1S23P-1A81 JP1/Data Highway - Server 10-50（適用 OS：Red Hat Enterprise Linux）

R-1523P-3AA4 JP1/Data Highway - Server Starter Edition 10-50（適用 OS：Windows Server 2008 R2，Windows Server 2012，Windows Server 2012 R2）

R-1S23P-3A81 JP1/Data Highway - Server Starter Edition 10-50（適用 OS：Red Hat Enterprise Linux）

R-1523P-4AA4 JP1/Data Highway - Server Starter to Standard Upgrade 10-50（適用 OS：Windows Server 2008 R2，Windows Server 2012，Windows Server 2012 R2）

R-1S23P-4A81 JP1/Data Highway - Server Starter to Standard Upgrade 10-50（適用 OS：Red Hat Enterprise Linux）

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

Active Directory は，米国 Microsoft Corporation の，米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Firefox は Mozilla Foundation の登録商標です。

Intel は，アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Internet Explorer は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は，Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

OS X は，Apple Inc.の商標です。

Red Hat は，米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

RSA および BSAFE は，米国 EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Safari は，Apple Inc.の商標です。

Windows は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名，製品名は，それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/).

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/

This product includes software developed by Ralf S. Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (http://www.modssl.org/).

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/).

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

This product includes software developed by Daisuke Okajima and Kohsuke Kawaguchi (http://relaxngcc.sf.net/).

This product includes software developed by the Java Apache Project for use in the Apache JServ servlet engine project (http://java.apache.org/).

This product includes software developed by Daisuke Okajima and Kohsuke Kawaguchi (http://relaxngcc.sf.net/).

This product includes software developed by Andy Clark.

JP1/Data Highway - Server は，米国 EMC コーポレーションの RSA BSAFE(R)ソフトウェアを搭載しています。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは，マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

製品名称	略称	
Microsoft(R) Internet Explorer(R)	Internet Explorer	Windows
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise		
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard		
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard	Windows Server 2012	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter		
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard	Windows Server 2012 R2	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter		
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System	Windows XP Professional	
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional x64Edition		
Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Premium	Windows Vista	
Microsoft(R) Windows Vista(R) Business		
Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate		
Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise		
Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional	Windows 7	

製品名称	略称	
Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise	Windows 7	Windows
Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate		
Windows(R) 8 Pro	Windows 8	
Windows(R) 8 Enterprise		
Windows(R) 8.1 Pro	Windows 8.1	
Windows(R) 8.1 Enterprise		

■ 関連製品

JP1/Data Highway - Server の関連製品を次に示します。

・JP1/Data Highway - Automatic Job Executor

JP1/Data Highway - Server のファイル転送機能を，自動化するためのデータ送受信クライアント製品です。

■ 発行

2014 年 9 月　3021-3-142-20

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2012, 2014, Hitachi, Ltd.
All Rights Reserved. Copyright (C) 2012, 2014, Hitachi Solutions, Ltd.

変更内容

変更内容（3021-3-142-20）　JP1/Data Highway - Server　10-50

追加・変更内容	変更箇所
次の製品をサポートしました。 • JP1/Data Highway - Server Starter Edition • JP1/Data Highway - Server Starter to Standard Upgrade	1.3.2
次のクライアントの前提 OS をサポートしました。 • Windows(R) 8.1 Pro • Windows(R) 8.1 Enterprise • OS X Mavericks	1.4.3(1)，1.4.3(2)
次の前提ソフトウェアをサポートしました。 • Internet Explorer 11 • Mozilla FireFox ESR 24 • Mozilla FireFox ESR 31 • Safari 7	1.4.3(1)，1.4.3(2)
ディレクトリ・サーバで管理されているユーザ ID とパスワードを使用して，本製品にログインできるようになりました。	1.4.3(1)，1.4.4，3.2.1，3.2.4，3.4.2(2)，3.5.2(2)(a)，3.5.4(4)，付録 G
標準認証，または LDAP 認証のどちらかの認証システムを設定できるようになりました。	2.1，2.1.1，2.2，2.3.2，2.4，3.5.1，3.5.2(1)，3.5.5
監査ログの操作詳細に，ログインの種別が出力されるようになりました。	2.3.2
監査ログの操作種別に，パスワードの有効期限切れが出力されるようになりました。	2.3.2
次の監査ログのエラーコードを追加しました。 • SEND_CANCELED • DOWNLOAD_CANCELED	2.3.3
指定した日付までに受信者がファイルをダウンロードしていない場合に，受信者に通知メールを送信できるようになりました。	3.3.2(1)，付録 D
指定した日付までに承認者が承認，または却下していない場合に，承認者に通知メールを送信できるようになりました。	3.3.2(1)，付録 D
圧縮方式が［拡張］の配送ポリシーの場合のフォルダ送信時に，フォルダ内のファイルとフォルダの合計数が 262,144 個まで送信できるようになりました。	3.3.2(1)
配送ポリシーの作成で，次の機能を使用するかを指定できるようになりました。 • 指定日までに未ダウンロード時の通知設定項目	3.5.3(4)

追加・変更内容	変更箇所
• 指定日までに未承認時の通知設定項目	3.5.3(4)
代表ユーザに関する FAQ を追加しました。	4.1.2

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは，JP1/Data Highway - Server（以降，JP1/DH - Server と省略します）の使い方について説明したものです。

■ 対象読者

このマニュアルでは，次の方にお読みいただくことを前提としています。

- ドメインあるいはグループを管理・運用する代表ユーザ／グループ管理者

また，次の知識を持っていることを前提としています。

- 使用する OS の基本操作の知識
- ネットワークに関する基本的な知識

■ Windows の操作説明で使用する表記

Windows の操作説明で使用する表記を次に示します。

記号	意味
[ ]	ボタンやテキストボックスなど，画面に表示されている要素を示します。
[ ] − [ ]	画面に表示されるメニューやアイコンなどを選択する操作を示します。

このマニュアルで使用する画面は，前提 OS を Windows 7，ブラウザを Internet Explorer 8 で作成しています。ご使用の OS，ブラウザにより表示される画面がマニュアルと異なるときがあります。詳細は Windows のヘルプをご確認ください。

■ ディレクトリ・サーバ上のドメインについて

このマニュアルで，ディレクトリ・サーバ上のドメインを表す場合は，その旨説明しています。

特に断り書きがない場合の「ドメイン」は，JP1/DH - Server のグループの管理単位を意味します。

■ JP1/DH - Server の表記について

このマニュアルで，JP1/DH - Server と JP1/Data Highway - Server Starter Edition を区別する場合は，その旨説明しています。

特に断り書きがない場合，JP1/DH - Server の表記には，JP1/Data Highway - Server Starter Edition も含まれます。

目次

前書き　2
変更内容　6
はじめに　8

1　JP1/DH - Server の概要　13
1.1　JP1/DH - Server とは　14
1.2　JP1/DH - Server の特長　15
1.2.1　機能面での特長　15
1.2.2　導入・運用面での特長　16
1.3　JP1/DH - Server の機能概要　17
1.3.1　ファイル送受信機能　17
1.3.2　ユーザ／グループ管理機能　18
1.3.3　監査ログ機能　19
1.4　導入のための前提条件　21
1.4.1　前提ハードウェア　21
1.4.2　推奨ハードウェア　21
1.4.3　前提ソフトウェア　21
1.4.4　機能別／条件付き前提製品　23

2　JP1/DH - Server の運用　24
2.1　JP1/DH - Server の運用の流れ　25
2.1.1　認証システムの設定　25
2.1.2　システムの設定　26
2.1.3　ユーザ／グループの管理　27
2.1.4　配送ルールの設定　28
2.1.5　ユーザの招待　28
2.1.6　ファイルの送受信　29
2.1.7　履歴の監査　29
2.2　認証方法　31
2.2.1　JP1/DH - Server のユーザ管理情報を使用した認証　31
2.2.2　ディレクトリ・サーバと連携した認証　31
2.2.3　設定　33
2.3　監査ログ　35
2.3.1　監査ログの出力形式　35
2.3.2　監査ログの出力内容　35

2.3.3 監査ログのエラーメッセージ 42
2.3.4 監査ログの出力例 45
2.4 ユーザの種類と権限 47

3 操作説明 48
3.1 画面共通仕様 49
3.1.1 画面構成 49
3.1.2 アイコン一覧 50
3.1.3 注意事項 53
3.2 基本操作 54
3.2.1 操作の一覧 54
3.2.2 ［標準パスワード認証］で JP1/DH - Server にログインする 54
3.2.3 ［電子証明書認証］で JP1/DH - Server にログインする 56
3.2.4 ディレクトリ・サーバを使用してログインする 57
3.2.5 JP1/DH - Server からログアウトする 58
3.2.6 表示言語を変更する 58
3.3 一般ユーザが行う操作 60
3.3.1 操作の一覧 60
3.3.2 新規送信 60
3.3.3 メール記載 URL からファイルを受信する 70
3.3.4 受信ボックスからファイルを受信する 72
3.3.5 自分の利用履歴を確認／削除する 74
3.3.6 承認申請管理 78
3.3.7 招待者設定 81
3.3.8 オプション 86
3.4 グループ管理者が行う操作 88
3.4.1 操作の一覧 88
3.4.2 ユーザとグループ管理 88
3.4.3 ユーザ利用履歴 107
3.5 代表ユーザが行う操作 112
3.5.1 操作の一覧 112
3.5.2 ユーザとグループ管理（一括管理） 113
3.5.3 配送ルール設定 134
3.5.4 認証ルール設定 143
3.5.5 認証システム設定 150
3.5.6 オブジェクト定義 156
3.5.7 ログ 161

4 トラブルシュート 162

4.1 FAQ 163
4.1.1 グループ管理者ユーザに関する FAQ 163
4.1.2 代表ユーザに関する FAQ 163
4.2 一時的制限事項 165
4.2.1 グループ管理者に関する制限事項 165
4.2.2 代表ユーザに関する制限事項 165

付録 167

付録 A 配送ルール 168
付録 B 認証ルール 171
付録 C CSV エラーメッセージ一覧 173
付録 D メール一覧 179
付録 E 各バージョンの変更内容 181
付録 E.1 10-10 の変更内容 181
付録 F このマニュアルの参考情報 182
付録 F.1 関連マニュアル 182
付録 F.2 このマニュアルでの表記 182
付録 F.3 英略語 182
付録 F.4 デフォルトのインストール先フォルダ 183
付録 F.5 このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について 183
付録 F.6 KB（キロバイト）などの単位表記について 183
付録 G 用語解説 184

索引 189

1 JP1/DH - Server の概要

この章では，JP1/DH - Server の概要を説明します。

1.1　JP1/DH - Server とは

JP1/DH - Server とは，日本と海外を含む拠点間における大容量ファイルの受け渡しを高速に行うことができる製品です。

JP1/DH - Server を利用すると，インターネット回線が利用できる環境であれば，日本国内と比較して通信インフラの整備が遅れている海外地域へのファイル転送を，多重通信技術により高速に行うことができます。また，メールでは分割などしないと送れなかったギガバイトレベルの大容量ファイルも，既存のインターネット回線を利用して，分割することなくそのまま転送することができます。

1.2　JP1/DH - Server の特長

JP1/DH - Server の特長を次に示します。

機能面での特長

- 「遠距離・低品質」な状況下でも大容量データを「速く・確実に・安全に」転送できる
- 多言語に対応している

導入・運用面での特長

- 導入が簡単で運用負担が小さい
- いつ，だれが利用したかを確認できる

1.2.1　機能面での特長

(1)　「遠距離・低品質」な状況下でも大容量データを「速く・確実に・安全に」転送できる

JP1/DH - Server では，多重転送技術※によって，ファイルの転送の性能と確実性の向上を実現しています。このため，海外を含めた，回線が細い・通信が途切れやすい遠隔地へ，大容量のデータを速く・確実に・安全に届けることができます。

注※　複数の HTTP(S)通信を同時に利用する技術です。

(2)　多言語に対応

JP1/DH - Server のユーザインタフェースである Web 画面は，日本語のほか，英語と中国語（簡体字）に対応していますので，海外拠点の現地ユーザでも Web 画面を円滑に利用できます。

表 1-1　利用者ごとの対応言語

利用者	対応言語
一般ユーザ，招待者，未登録ユーザ	日本語，英語，中国語（簡体字）
代表ユーザ，グループ管理者	日本語

1.2.2　導入・運用面での特長

(1)　導入が簡単で運用負担が小さい

通信には既存のインターネット回線を利用しますので，専用の回線を用意する必要はありません。

利用者は JP1/DH - Server を利用するにあたり，クライアントに専用のソフトウェアを導入する必要がありません。Web ブラウザだけで運用できます。

(2)　いつ，だれが利用したかを確認できる

いつ，だれが，何のファイルを送信・受信したかをイベントとして参照できます。また，その他の操作履歴のログもダウンロードでき，システムの利用状況を監査することができます。

1.3　JP1/DH - Server の機能概要

JP1/DH - Server では，次の機能を提供しています。

- ファイル送受信機能
- ユーザ／グループ管理機能
- 監査ログ機能

1.3.1　ファイル送受信機能

JP1/DH - Server の利用者は，JP1/DH - Server を利用して大容量のファイルを送受信することができます。JP1/DH - Server では，ファイルの送受信を行うにあたり，以下の機能を提供しています。

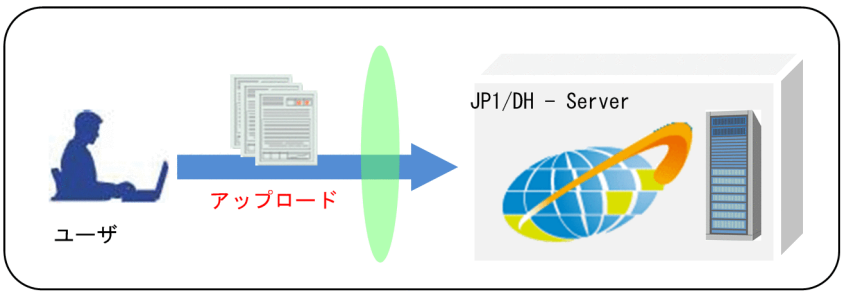
- ファイル送信
- ファイル受信
- 配送設定

(1)　ファイル送信

JP1/DH - Server を利用して大容量のファイルを送信できます。ファイルの送信では，複数のユーザに同時にファイルを送信したり，一度に複数のファイルを送信したりすることもできます。

ファイルの送信者は，受信者がファイルを受信したかどうかを確認できます。

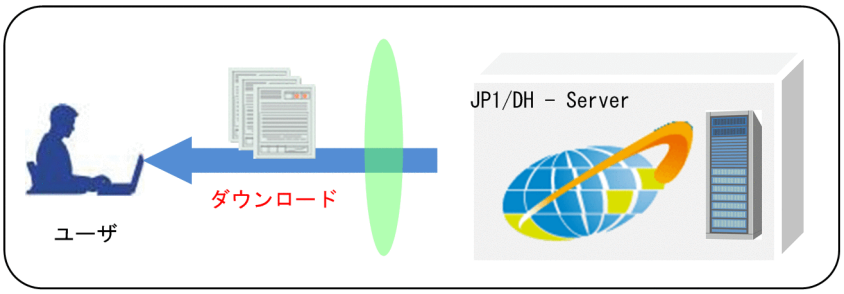
図 1-1　ファイルの送信



(2)　ファイル受信

JP1/DH - Server を利用して，大容量のファイルを受信できます。受信者は，JP1/DH - Server の Web 画面に用意された受信ボックスや，JP1/DH - Server からのメール通知によって，ファイルが送られてきたことを知ることができます。ファイルのダウンロードは，JP1/DH - Server の多重転送技術により，高速に，かつ安全に行うことができます。

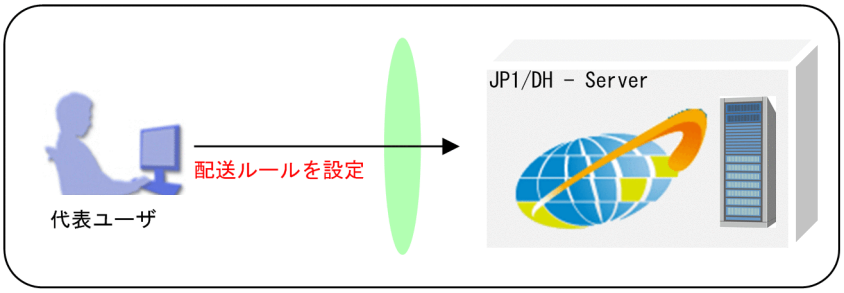
図 1-2　ファイルの受信



(3)　配送設定

送信するファイルの最大サイズの制限や，送信ファイルのサーバ保存期間など，ファイルの送信に関する規則を決めることができます。この規則のことを配送ルールと呼びます。配送ルールは，ファイルの送信経路ごとに定めることができます。

図 1-3　配送ルールの設定



1.3.2　ユーザ／グループ管理機能

JP1/DH - Server では，利用者の役割や権限をユーザおよびグループ単位で管理します。

ユーザおよびグループの管理を行うのは，代表ユーザ，またはグループ管理者です。代表ユーザは，ユーザに関してのルールを設定します。

JP1/DH - Server におけるユーザの種類を次の表に示します。

表 1-2　ユーザの種類

種類	説明
代表ユーザ	システム管理者が作成したドメインの管理を行うユーザです。 代表ユーザの主な役割を次に示します。なお，グループには招待者グループ，ユーザには招待者も含みます。 • 認証ルールの設定 • グループとユーザの作成※ • グループとユーザの管理（編集，削除，有効化／無効化） • 環境設定

種類	説明
代表ユーザ	ファイル送受信の配送設定，ネットワークセットの設定，承認ルート設定 • 履歴の監査
グループ管理者	代表ユーザが作成したグループのグループ内管理を行うユーザです。グループ管理者は，代表ユーザ，およびグループ管理者が作成します。 グループ管理者は，［グループ編集］画面でグループ内のユーザを指定して，グループ管理者の権限を委譲できます。グループ管理者の主な役割を次に示します。なお，グループには招待者グループ，ユーザには招待者も含みます。 • 管理対象グループ内のグループとユーザの作成※ • 管理対象グループ内のグループとユーザの管理（編集，削除，有効化／無効化） • 管理対象グループ内のファイルの送受信履歴の監査
一般ユーザ	ファイルの送受信を行うユーザです。代表ユーザ，またはグループ管理者が作成，管理します。ユーザのできる操作を次に示します。なお，オプション機能，招待者機能はユーザの権限により利用できない場合があります。 • ファイルの送信と受信 • 招待者機能の利用 • オプション機能の利用
招待者	招待者グループに所属するユーザです。 代表ユーザ，グループ管理者，および招待者作成権限を持つユーザにより作成されます。招待者自身が招待者を作成することはできません。 招待者のできる操作を次に示します。 • ファイルの送受信
未登録ユーザ	JP1/DH - Server のシステムに登録されていないユーザです。 JP1/DH - Server 上で未登録宛先への送信が許可されているユーザは，システムに登録されていないユーザ宛てにファイルの送信ができます。 未登録ユーザはファイルの受信以外の機能は使用できません。また，システムに登録されているユーザからの受信がない状態で，JP1/DH - Server にアクセスすることもできません。

注※

JP1/Data Highway - Server Starter Edition の場合に登録できるユーザ数は，代表ユーザとグループ管理者，および一般ユーザを合わせてシステム全体で 30 までです。各ドメイン内で登録できるユーザ数の上限については，システム管理者にお問い合わせください。

1.3.3 監査ログ機能

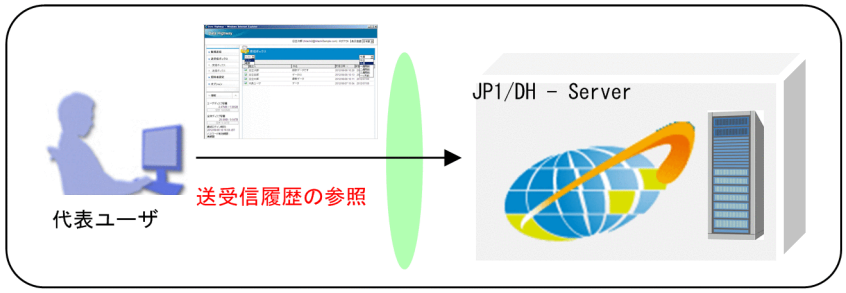
JP1/DH - Server では，システムの利用状況を記録しています。JP1/DH - Server の Web 画面を利用することで，システムの利用状況を監査できます。監査を行うにあたり，以下の機能を提供しています。

- ファイル送受信履歴の参照
- 監査ログのダウンロード

(1)　ファイル送受信履歴の参照

ファイル送受信の履歴を，JP1/DH - Server の Web 画面上で確認できます。一般ユーザは，自身が送信したファイルの送受信の履歴を，グループ管理者は管理対象となっているグループのファイル送受信履歴を，代表ユーザはドメイン内のすべてのユーザのファイル送受信の履歴を確認できます。だれが，いつ，どのようなファイルを送受信したかを簡単に監査することができます。

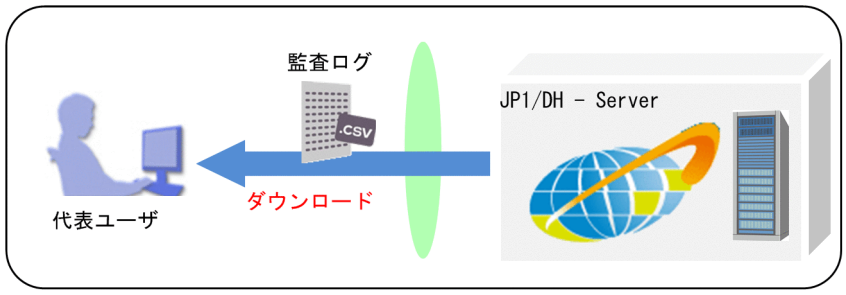
図 1-4　送受信履歴の参照



(2)　監査ログのダウンロード

代表ユーザは，ドメイン内のすべてのユーザの利用の履歴を，CSV 形式のテキストファイルに出力できます。このファイルを監査ログと呼びます。監査ログには，ファイルの送受信履歴だけでなく，JP1/DH - Server で行われるユーザ／グループの管理操作などの操作履歴が記録されていますので，ドメイン全体の監査を行うことができます。

図 1-5　監査ログのダウンロード



1.4　導入のための前提条件

JP1/DH - Server をご利用するにあたり，クライアント PC に必要な前提条件を次に示します。

1.4.1　前提ハードウェア

- PC/AT 互換機
  50GB のファイルを受信するには，900MB 程度の空きメモリ容量が必要です。
- ファイルをダウンロードする場合，そのファイルの 2 倍のハードディスク空き容量が必要です。

1.4.2　推奨ハードウェア

クライアント PC の推奨ハードウェアを次に示します。

表 1-3　クライアント PC の推奨ハードウェア

推奨ハードウェア	
CPU	Intel Core 2 Duo 2.4GHz 相当以上
メモリ	3GB 以上
空きディスク容量	送受信するファイルの 2 倍以上
ネットワークカード	100Mbps 以上

1.4.3　前提ソフトウェア

クライアント PC の前提ソフトウェアを次に示します。

なお，提供元のサポートが終了したソフトウェアを使用した際の不具合については，そのお問い合わせに回答できないことがあります。

(1)　Windows の場合

クライアント PC の OS が Windows の場合に使用できる OS とブラウザを，次の表に示します。

表 1-4　クライアント PC の前提 OS とブラウザ（Windows の場合）

前提 OS／ソフトウェア	
OS	次のどれかが必要です。※1 • Windows(R) XP Professional (32bit 版)(Service Pack 3 以降) • Windows(R) XP Professional (64bit 版)(Service Pack 2 以降)

前提 OS／ソフトウェア	
OS	• Windows Vista(R) Home Premium (32bit 版)(Service Pack 2 以降) • Windows Vista(R) Business (32bit 版)(Service Pack 2 以降) • Windows Vista(R) Ultimate (32bit 版)(Service Pack 2 以降) • Windows Vista(R) Enterprise (32bit 版)(Service Pack 2 以降) • Windows(R) 7 Professional (32bit 版/64bit 版)(Service Pack 1 以降) • Windows(R) 7 Enterprise (32bit 版/64bit 版)(Service Pack 1 以降) • Windows(R) 7 Ultimate (32bit 版/64bit 版)(Service Pack 1 以降) • Windows(R) 8 (32bit 版/64bit 版)※2 • Windows(R) 8 Pro (32bit 版/64bit 版)※2 • Windows(R) 8 Enterprise (32bit 版/64bit 版)※2 • Windows(R) 8.1 (32bit 版/64bit 版)(Update あり/なし)※2 • Windows(R) 8.1 Pro (32bit 版/64bit 版)(Update あり/なし)※2 • Windows(R) 8.1 Enterprise (32bit 版/64bit 版)(Update あり/なし)※2
ブラウザ	次のどれかが必要です。 • Internet Explorer 7※3 • Internet Explorer 8※3 • Internet Explorer 9※3 • Internet Explorer 10※3※4 • Internet Explorer 11※3 • Mozilla FireFox ESR 24 • Mozilla FireFox ESR 31

注※1

各 OS の日本語版，英語版，中国語簡体字版に対応しています。ただし，日本語/中国語で登録された項目を正しく表示するには，アジアンフォントがインストールされている必要があります。

注※2

Modern UI での動作はサポート対象外です。

注※3

Internet Explorer について，次の機能を有効にする必要があります。

- クッキー（Cookie）
- JavaScript（Ajax 機能および DOM 機能を含む）
- カスケーディング・スタイル・シート（CSS）
- SSL
- Java アプレット

なお，Internet Explorer 8 以降を使用している場合で，画面表示が崩れるなど正しく表示されないときは，上記に加えて「互換表示」機能を有効としてください。

注※4

Internet Explorer 10 を使用する場合のブラウザの設定は，次のとおりです。

- 拡張保護モード：無効
- 本サーバ URL を信頼済みサイトに登録する（保護モード：無効）

(2) Mac OS の場合

クライアント PC の OS が Mac OS の場合に使用できる OS とブラウザを，次の表に示します。

表 1-5 クライアント PC の前提 OS とブラウザ（Mac OS の場合）

前提 OS／ソフトウェア	
OS	OS X Mavericks
ブラウザ	Safari 7

(3) Java ソフトウェア

クライアント PC に使用できる Java ソフトウェアを次に示します。

次のどれかが必要です。

- Java Runtime Environment Version 6.0 (32bit 版) (Update24 以降)
- Java Runtime Environment Version 6.0 (64bit 版) (Update41 以降)
- Java Runtime Environment Version 7.0 (32bit 版) (Update51 以降)
- Java Runtime Environment Version 7.0 (64bit 版) (Update51 以降)※

注※

クライアント PC の OS が Mac OS の場合は，このバージョンのソフトウェアを使用してください。

1.4.4 機能別／条件付き前提製品

本製品へのログインの際に，ディレクトリ・サーバを使用して認証する場合，システム上の前提製品として次のどれかが必要です。

- Windows Server 2008 R2 の Active Directory サーバ
- Windows Server 2012 の Active Directory サーバ
- Windows Server 2012 R2 の Active Directory サーバ
- OpenLDAP V2.4

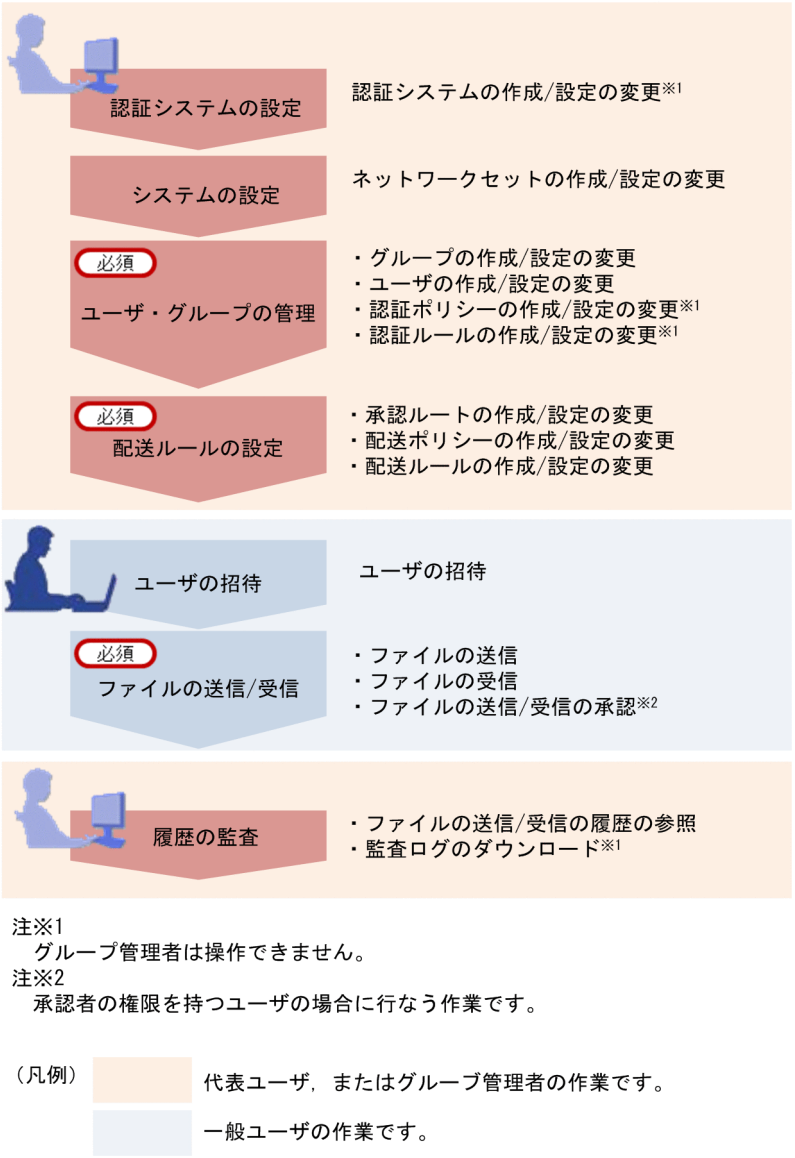
2 JP1/DH - Server の運用

この章では，JP1/DH - Server の運用手順を説明します。

2.1　JP1/DH - Server の運用の流れ

JP1/DH - Server の一般的な運用の流れを次に示します。

図 2–1　JP1/DH - Server の運用の流れ



上記の図に記載した，各運用操作の概要について説明します。なお，代表ユーザは，一般ユーザが行うすべての操作を行うことができます。

2.1.1　認証システムの設定

JP1/DH-Server にログインする際に使用する，認証基盤に関する情報を定義・管理する認証システムを設定します。

認証システムには「標準認証システム」と「LDAP 認証システム」があります。

インストール時には「標準認証システム」が定義されています。「標準認証システム」は，JP1/DH - Server で定義・管理するユーザ ID/パスワード，または電子証明書を使用して認証するための認証システムです。

「LDAP 認証システム」は，ディレクトリ・サーバを使用して認証するための認証システムです。ディレクトリ・サーバに登録されているユーザ ID とパスワードを使用して，JP1/DH - Server にログインできます。JP1/DH - Server でパスワードを管理する必要はありません。ただし，本製品の認証ルールや配送ルールの管理などは，JP1/DH - Server に登録されているユーザ情報を使用するため，ディレクトリ・サーバに登録されているユーザ ID を持つユーザを，JP1/DH - Server に登録する必要があります。

「LDAP 認証システム」は，インストール時には定義されていません。連携対象のディレクトリ・サーバごとに作成する必要があります。また，JP1/DH - Server の標準パスワード認証，電子証明書認証を使用したログインはできません。

認証システムの設定は代表ユーザが行います。認証システムの設定に関する画面の操作方法については，次の表を参照してください。

表 2-1　認証システムの設定に関する画面の操作方法

項目	内容	参照先
認証システムを作成する	認証システムを作成します。	3.5.5(1)
認証システムを編集する	認証システムを編集します。	3.5.5(2)
認証システムを削除する	認証システムを削除します。	3.5.5(3)

2.1.2　システムの設定

認証ルールや配送ルールで選択するネットワーク範囲（ネットワークセット）を設定します。ネットワークセットの設定をしなくても，JP1/DH - Server は利用できます。ネットワークセットを設定すると，JP1/DH - Server の利用をネットワークごとに制限できます。

システムの設定は代表ユーザが行います。システムの設定に関する画面の操作方法については，次の表を参照してください。

表 2-2　システムの設定に関する画面の操作方法

項目	内容	参照先
ネットワークセットを作成する	ネットワークセットを作成します。	3.5.6(1)
ネットワークセットを編集する	ネットワークセットを編集します。	3.5.6(2)
ネットワークセットを削除する	ネットワークセットを削除します。	3.5.6(3)

2.1.3　ユーザ／グループの管理

JP1/DH - Server を利用するユーザや，その管理単位であるグループを設定します。管理下のユーザをグループ管理者に設定すると，グループ管理を委任できます。

また，ユーザの認証パスワードの設定規則（認証ポリシー）や，認証ポリシーをどの範囲に適用するかを定めたルール（認証ルール）を設定します。

ユーザ／グループの管理は，代表ユーザまたはグループ管理者が行います。ただし，CSV ファイルによるユーザ／グループの一括管理については，代表ユーザだけが利用できます。

ユーザ／グループの管理に関する画面の操作方法については，次の表を参照してください。

表 2-3　ユーザ／グループ管理に関する画面の操作方法

項目	内容	参照先
グループを作成する	グループを新規に作成します。	3.4.2(8)
グループを編集する	グループの情報を編集します。 グループ管理者を設定します。	3.4.2(9)
グループを有効化／無効化／削除する	グループを有効化または無効化したり，削除したりします。	3.4.2(10)
ユーザを作成する	一般ユーザを新規に作成します。	3.4.2(2)
ユーザを編集する	一般ユーザの情報を編集します。	3.4.2(3)
ユーザを有効化／無効化／削除する	一般ユーザを有効化または無効化したり，削除したりします。	3.4.2(4)
ユーザ／グループを一括して作成する	CSV ファイルを利用してユーザ／グループを作成（インポート）します。	3.5.2(2)
ユーザ／グループを一括して参照する	CSV ファイルを利用してユーザ／グループを参照（エクスポート）します。	3.5.2(3)
ユーザを一括して削除する	CSV ファイルを利用してユーザを削除します。	3.5.2(4)
認証ポリシーを作成する	認証ポリシーを新規に作成します。	3.5.4(4)
認証ポリシーを編集する	認証ポリシーの情報を編集します。	3.5.4(5)
認証ポリシーを削除する	認証ポリシーを削除します。	3.5.4(6)
認証ルールを作成する	認証ルールを新規に作成します。	3.5.4(1)
認証ルールを編集する	認証ルールの情報を編集します。	3.5.4(2)
認証ルールを有効化／無効化／削除する	認証ルールを有効化または無効化したり，削除したりします。	3.5.4(3)

2.1.4　配送ルールの設定

ファイルの送受信に関する規則を，どの範囲に割り当てるかを定める，配送ルールを設定します。配送ルールには，以下に示す 2 つの規則と，その規則の適用範囲である配送ルートを設定します。

- 承認者と承認時の条件を定めた規則（承認ルート）
- 送受信するファイルの最大サイズや，ファイルの保存期間などの，ファイル配信に関する規則（配送ポリシー定義）

配送ルールの設定は代表ユーザが行います。

配送ルールの設定に関する画面の操作方法については，次の表を参照してください。

表 2-4　配送ルールの設定に関する画面の操作方法

項目	内容	参照先
承認ルートを作成する	承認ルートを新規に作成します。	3.5.6(4)
承認ルートを編集する	承認ルートの情報を編集します。	3.5.6(5)
承認ルートを削除する	承認ルートを削除します。	3.5.6(6)
配送ポリシーを作成する	配送ポリシーを新規に作成します。	3.5.3(4)
配送ポリシーを編集する	配送ポリシーの情報を編集します。	3.5.3(5)
配送ポリシーを削除する	配送ポリシーを削除します。	3.5.3(6)
配送ルールを作成する	配送ルールを新規に作成します。	3.5.3(1)
配送ルールを編集する	配送ルールの情報を編集します。	3.5.3(2)
配送ルールを有効化／無効化／削除する	配送ルールを有効化または無効化したり，削除したりします。	3.5.3(3)

2.1.5　ユーザの招待

ファイルを受信するユーザを一時的に追加するケースなど，JP1/DH - Server を利用するユーザを一般ユーザが設定したい場合，ユーザの招待を行います。

ユーザの招待は一般ユーザが行います。ただし，ユーザの招待を行うには，代表ユーザによって招待権限を割り当てられている必要があります。

ユーザの招待に関する画面の操作方法については，次の表を参照してください。

表 2-5　ユーザの招待に関する画面の操作方法

項目	内容	参照先
招待者を作成する	招待者を新規に作成します。	3.3.7(1)

項目	内容	参照先
招待者を編集する	招待者の情報を編集します。	3.3.7(2)
招待者を有効化／無効化／削除する	招待者を有効化または無効化したり，削除したりします。	3.3.7(3)

2.1.6　ファイルの送受信

JP1/DH - Server を利用して，ファイルの送信／受信を行います。配送ルールで承認者が設定されている場合は，ファイル送信の承認を実施します。

ファイルの送受信は一般ユーザが行います。

ファイルの送受信に関する画面の操作方法については，次の表を参照してください。

表 2-6　ファイルの送受信に関する画面の操作方法

項目	内容	参照先
ファイル／メッセージを送信する	アドレス帳から宛先を選択して，ファイルやメッセージを送信します。	3.3.2(1)
	システムに未登録の宛先を直接入力して，ファイルやメッセージを送信します。	3.3.2(2)
メール記載 URL からファイルを受信する	システムに登録済みのユーザが，メールに記載された URL からファイルを受信します。	3.3.3(1)
	システムに未登録のユーザが，メールに記載された URL からファイルを受信します。	3.3.2(2)
受信ボックスからファイルを受信する	受信ボックスからファイルを受信します。	3.3.4
メール記載 URL から承認申請を許可／却下する	JP1/DH - Server より受け取ったメールに記載された URL から承認申請を許可または却下します。	3.3.6(1)
承認申請一覧から承認申請を許可／却下する	承認申請一覧から承認申請を許可または却下します。	3.3.6(2)

2.1.7　履歴の監査

JP1/DH - Server を利用して，操作履歴の監査を行います。ファイルの送受信の履歴は，JP1/DH - Server の Web 画面上で確認できます。また，その他の操作履歴については，監査ログをダウンロードして確認できます。

履歴の監査は代表ユーザ，またはグループ管理者が行います。代表ユーザは，全ユーザの送受信したファイルの監査，および監査ログの取得ができます。グループ管理者は管理対象グループで送受信したファイルの監査ができます。また，自身が送信したファイルについては，一般ユーザも監査を行うことができます。

履歴の監査に関する画面の操作方法については，次の表を参照してください。

表 2-7　履歴の監査に関する画面の操作方法

項目	内容	参照先
自分の利用履歴を確認／削除する	自分のファイル利用履歴を確認または削除します。	3.3.5
ファイル送受信履歴を確認／削除する	ユーザのファイル送受信履歴を確認または削除します。	3.4.3(1)
監査ログを取得する	監査ログを取得します。	3.5.7(1)

2.2 認証方法

JP1/DH - Server にログインする際の認証方法には，次の 2 つの方法があります。

- JP1/DH - Server のユーザ管理情報を使用した認証
- ディレクトリ・サーバと連携した認証

ここでは，認証方法について説明します。

2.2.1 JP1/DH - Server のユーザ管理情報を使用した認証

JP1/DH - Server にログインする際のユーザ認証を，JP1/DH - Server に登録されているユーザ ID とパスワードを使用して行う認証方法です。標準認証システムといいます。

標準認証システムでは，ユーザ ID とパスワードを JP1/DH - Server が管理します。

標準認証システムには，次の認証方式があります。

- ユーザ ID とパスワードを使用して認証する「標準パスワード認証」
- 電子証明書とパスワードを使用して認証する「電子証明書認証」

2.2.2 ディレクトリ・サーバと連携した認証

JP1/DH - Server にログインする際のユーザ認証を，ディレクトリ・サーバで行う認証方法です。

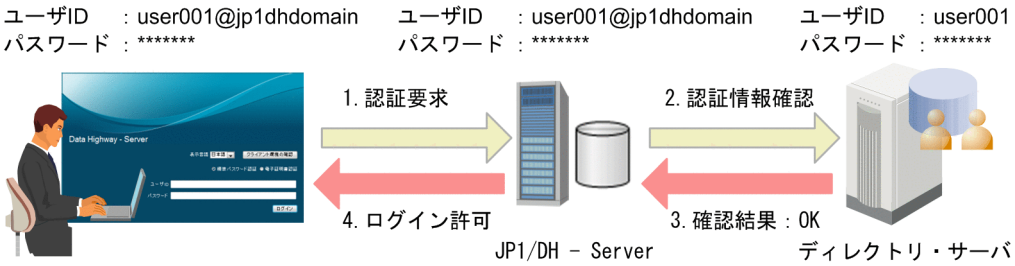
この認証方法では，JP1/DH - Server のユーザのパスワードはディレクトリ・サーバが管理します。

パスワードをディレクトリ・サーバで管理するため，ユーザは JP1/DH - Server でパスワードを更新する必要がありません。ディレクトリ・サーバと認証を連携する他のシステムと共通のパスワードで，JP1/DH - Server にログインできます。

(1) 認証の流れ

JP1/DH - Server にディレクトリ・サーバと連携した認証でログインする際の，認証の流れを次の図に示します。

図 2-2　認証の流れ



図の意味を次に示します。

1. ユーザ「user001@jp1dhdomain」が JP1/DH - Server にログインします。
2. JP1/DH - Server はユーザ「user001@jp1dhdomain」がシステムに登録されていることを確認します。ディレクトリ・サーバと連携した認証を使用するユーザと判断した場合，ディレクトリ・サーバと連携して認証情報を確認します。
3. JP1/DH - Server はディレクトリ・サーバと連携した認証の結果を受け取ります。
4. ディレクトリ・サーバで認証情報の正当性を確認すると，システムへのログインが許可されます。

(2)　運用時の注意

ディレクトリ・サーバと連携した認証を使用する場合は，次の点に注意して運用してください。

- ディレクトリ・サーバと連携した認証を使用する場合でも，あらかじめ JP1/DH - Server にユーザを作成しておく必要があります。
- JP1/DH - Server でユーザを作成する際のユーザ ID は，ディレクトリ・サーバで管理されているユーザ ID を指定してください。
- JP1/DH - Server でユーザを作成する際に，JP1/DH - Server で管理するユーザ情報としてパスワードの指定が必須となりますが，このパスワードは，ディレクトリ・サーバと連携した認証では使用されないため，任意のパスワードを指定してください。

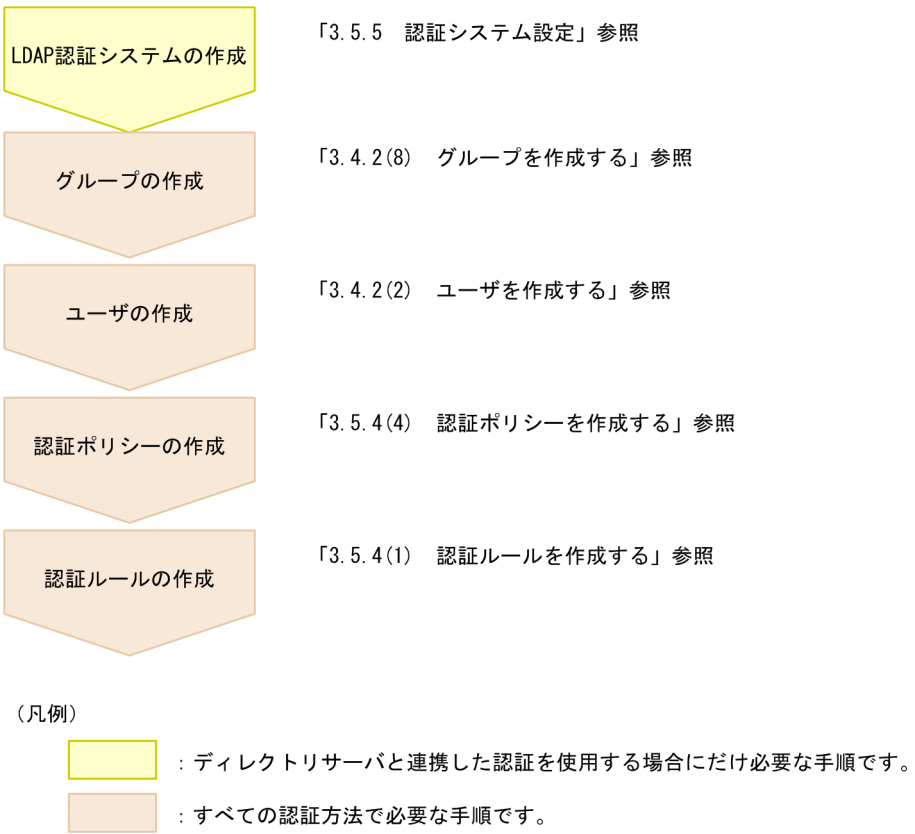
  なお，JP1/DH - Server 上のパスワードを変更しても，ディレクトリ・サーバで管理されているパスワードの変更はできません。
- ディレクトリ・サーバと連携した認証を使用する最小単位は，グループ単位です。
- JP1/DH - Server にログインする際のログイン ID は，**＜ディレクトリ・サーバで管理されているユーザID＞@＜JP1/DH - Server上での所属ドメイン名＞**です。
- JP1/DH - Server へのログイン時にディレクトリ・サーバへの通信が発生するため，ネットワークトラフィックなどの影響によりログインに時間が掛かることがあります。

2.2.3　設定

JP1/DH - Server にログインする際の認証方法は，ログイン時に適用される認証ポリシーによって決定されます。

使用したい認証方法を認証ポリシーとして定義し，その認証ポリシーが適切に適用されるように認証ルールを定義します。設定の流れを次の図に示します。

図 2-3　設定の流れ



(1)　LDAP 認証システムの作成

ディレクトリ・サーバと連携した認証を使用する場合，ディレクトリ・サーバの接続先 URL などの接続情報を定義する LDAP 認証システムを作成します。複数のディレクトリ・サーバと連携する場合は，連携するディレクトリ・サーバごとに LDAP 認証システムを作成します。

JP1/DH - Server のユーザ管理情報を使用した認証の場合は，あらかじめ定義されている標準認証システムを使用するため，LDAP 認証システムを作成する必要はありません。

(2)　グループの作成

グループを作成します。

認証ポリシーは，ドメイン単位およびグループ単位で適用されます。あとから作成する認証ポリシーの種類と数に応じて，適切なグループを作成してください。

(3) ユーザの作成

ドメイン，またはグループに所属するユーザを作成します。

ディレクトリ・サーバと連携した認証を使用するユーザのユーザ ID は，ディレクトリ・サーバで管理されているユーザ ID を指定します。

(4) 認証ポリシーの作成

認証ポリシーを作成します。

認証ポリシーの作成で選択する認証システムの種類で，認証ポリシーが適用された際の認証方法が決まります。

JP1/DH - Server のユーザ管理情報を使用した認証を行う場合は「標準認証システム」，ディレクトリ・サーバと連携した認証を行う場合は，「(1) LDAP 認証システムの作成」で作成した LDAP 認証システムを選択します。

(5) 認証ルールの作成

「(2) グループの作成」で作成したグループに所属するユーザが，JP1/DH - Server にログインする際に，「(4) 認証ポリシーの作成」で作成した認証ポリシーが適用されるように認証ルールを作成します。

2.3　監査ログ

JP1/DH - Server の監査ログについて説明します。

2.3.1　監査ログの出力形式

監査ログは CSV ファイルです。監査ログの出力形式を次に示します。

```
”処理日時”，”クライアントIPアドレス”，”ログレベル”，”操作対象オブジェクト識別子”，
”監査ログの操作種別”，”監査ログの操作詳細”
```

2.3.2　監査ログの出力内容

監査ログの出力内容を次に示します。

表 2-8　監査ログの出力内容

項番	項目	内容
1	処理日時	ログが書き込まれた日時（サーバ時間）です。 次の形式で出力されます。 *年4桁-月2桁-日2桁T時2桁:分2桁:秒2桁.ミリ秒3桁+09:00L遅延時間* 遅延時間は，イベントが発生してからログに書き込むまでの時間です。 （単位：秒）
2	クライアント IP アドレス	アクセスしたクライアントの IP アドレスを出力します。 クライアント IP アドレスを隠ぺいするプロキシサーバを経由している場合は，プロキシサーバの IP アドレスを出力します。
3	ログレベル	ログの重大度を示すログレベルを出力します。 次のどれかが出力されます。重大度が高いものから順に記載しています。 • ERROR：ユーザ操作やシステムオペレーションでの復帰不可能な障害です。 • WARN：ユーザ操作やシステムオペレーションでの復帰可能，または処理の継続に影響がない障害です。 • NOTICE：正常に完了したユーザ操作やシステムオペレーションです。 • INFO：NOTICE レベルを補う詳細情報です。 • DESC：管理上重要ではない項目や参考情報です。
4	操作対象オブジェクト識別子	操作の対象となったオブジェクトに関連する ID 情報を出力します。 操作種別によって，出力されるパラメータが異なるため，パラメータが複数存在する場合があります。 また，操作の状況により出力されたり，されなかったりする場合があります。 詳細な出力内容については「表 2-9　監査ログの操作対象オブジェクト識別子の詳細」を参照してください。

項番	項目	内容
5	操作種別文字列	操作の種別を示す文字列を出力します。 詳細な出力内容については「表 2-10　監査ログの操作種別の詳細」を参照してください。
6	操作詳細	操作に関連する各種情報を出力します。 操作種別によって出力されるパラメータが異なるため，パラメータが複数存在する場合があります。また，操作の状況により出力されたり，されなかったりする場合があります。 詳細な出力内容については「表 2-11　監査ログの操作詳細の詳細」を参照してください。

表 2-9　監査ログの操作対象オブジェクト識別子の詳細

操作対象オブジェクト識別子	パラメータ補足	補足
uid=<No.*シリアル番号*#*ユーザ ID*>	シリアル番号： ユーザに付与される一意の番号	ログイン／ログアウトを行ったユーザを示します。
fid=*ファイル番号*	ファイル番号： ファイルに付与される一意の番号	ファイルを示します。
did=*配送番号*	配送番号： ファイル送信イベントに付与される一意の番号	ファイル送信イベントを示します。
rid=*受信番号*	ファイル受信イベントに付与される一意の番号	ファイル受信イベントを示します。
user=<No.*シリアル番号*#*ユーザ ID*>	シリアル番号： ユーザに付与される一意の番号	一般ユーザや招待者を示します。
group=<*グループ名*>	−	グループを示します。
rsn=*ルール番号*	ルール番号： 配送ルール，または認証ルールに付与される一意の番号	配送ルールまたは認証ルールを示します。
accept=<(true|false)>	true：Accept false：Deny	配送ルールまたは認証ルールの Accept または Deny を示します。
policy=<*ポリシー名*>	−	配送ポリシーまたは認証ポリシーを示します。
from=<*グループ名*>	−	配送ルールの場合，配送元グループを示します。 認証ルールの場合，適用対象グループを示します。
to=<*グループ名*>	−	配送ルールの配送先グループを示します。
from-net=<*適用対象ネットワーク*>	適用対象ネットワーク： "ANY"またはネットワークセット名	認証ルールの適用対象ネットワークを示します。
network-set=<*ネットワークセット名*>	−	ネットワークセットを示します。

操作対象オブジェクト識別子	パラメータ補足	補足
approval-route=<*承認ルート名*>	−	承認ルートを示します。
src=<*IP アドレス*>	IP アドレス： 認証されたクライアントの IP アドレス	クライアントを示します。
system=<*システム名*>	−	認証システムの英語名称を示します。

表 2-10　監査ログの操作種別の詳細

操作種別	操作種別文字列	説明
ログイン	LOGIN	JP1/DH - Server にログインした際に記録されます。
ログアウト	LOGOUT	JP1/DH - Server からログアウトした際に記録されます。
新規送信	SEND_DELIVERY	ファイルを新規送信した際に記録されます。
送信失敗	CONNECTION_ABORTED	ファイル送信の開始直後に失敗した場合記録されます。
受信ファイルの詳細表示，または 開封パスワード	OPEN_DELIVERY	次のどれかの場合に記録されます。 • 受信ボックスからファイルを詳細表示した。 • 受信メールの URL から開封した。 • 未登録宛先のユーザが開封パスワードでの開封に成功，または失敗した。
ログイン	RECV_LOGIN	受信メールの URL からログインした際に記録されます。
受信，または 画面アクセス	RECV_DELIVERY	次のどちらかの場合に記録されます。 • 受信メールの URL から開封した。 • 未登録宛先のユーザが，JP1/DH - Server の画面にアクセスした。
ファイルの削除	DELETE_DELIVERY	ファイルが削除された際に記録されます。
送信失敗ファイルの削除	DELETE_FAILURE_DELIVERY	送信に失敗したファイルが削除された際に記録されます。
受信ファイルのダウンロード	DOWNLOAD_FILE	ファイルをダウンロードした際に記録されます。
招待者の作成	CREATE_GUEST	招待者を作成した際に記録されます。
招待者の編集	UPDATE_GUEST	招待者を編集した際に記録されます。
招待者の有効化	ACTIVATE_GUEST	招待者を有効化した際に記録されます。
招待者の無効化	INACTIVATE_GUEST	招待者を無効化した際に記録されます。
招待者の削除	DELETE_GUEST	招待者を削除した際に記録されます。

操作種別	操作種別文字列	説明
一般ユーザの作成	CREATE_USER	一般ユーザを作成した際に記録されます。
一般ユーザの編集	UPDATE_USER	一般ユーザを編集した際に記録されます。
一般ユーザの有効化	ACTIVATE_USER	一般ユーザを有効化した際に記録されます。
一般ユーザの無効化	INACTIVATE_USER	一般ユーザを無効化した際に記録されます。
一般ユーザの削除	DELETE_USER	一般ユーザを削除した際に記録されます。
グループの作成	CREATE_GROUP	グループを作成した際に記録されます。
グループの編集	UPDATE_GROUP	グループを編集した際に記録されます。
グループの有効化	ACTIVATE_GROUP	グループを有効化した際に記録されます。
グループの無効化	INACTIVATE_GROUP	グループを無効化した際に記録されます。
グループの削除	DELETE_GROUP	グループを削除した際に記録されます。
電子証明書の発行	CREATE_CERT	電子証明書を発行した際に記録されます。
電子証明書の無効化	REVOKE_CERT	電子証明書を無効化した際に記録されます。
配送ルールの作成	CREATE_DELIVERY_RULE	配送ルールを作成した際に記録されます。
配送ルールの編集	UPDATE_DELIVERY_RULE	配送ルールを編集した際に記録されます。
配送ルールの順序を下へ移動	DOWN_DELIVERY_RULE	配送ルールの一覧にて配送ルールの順序を下へ移動した際に記録されます。
配送ルールの順序を上へ移動	UP_DELIVERY_RULE	配送ルールの一覧にて配送ルールの順序を上へ移動した際に記録されます。
配送ルールの有効化	ACTIVATE_DELIVERY_RULE	配送ルールを有効化した際に記録されます。
配送ルールの無効化	INACTIVATE_DELIVERY_RULE	配送ルールを無効化した際に記録されます。
配送ルールの削除	DELETE_DELIVERY_RULE	配送ルールを削除した際に記録されます。
配送ポリシーの作成	CREATE_DELIVERY_POLICY	配送ポリシーを作成した際に記録されます。
配送ポリシーの編集	UPDATE_DELIVERY_POLICY	配送ポリシーを編集した際に記録されます。
配送ポリシーの削除	DELETE_DELIVERY_POLICY	配送ポリシーを削除した際に記録されます。
認証ルールの作成	CREATE_AUTH_RULE	認証ルールを作成した際に記録されます。
認証ルールの編集	UPDATE_AUTH_RULE	認証ルールを編集した際に記録されます。
認証ルールの順序を下へ移動	DOWN_AUTH_RULE	認証ルールの一覧にて認証ルールの順序を下へ移動した際に記録されます。
認証ルールの順序を上へ移動	UP_AUTH_RULE	認証ルールの一覧にて認証ルールの順序を上へ移動した際に記録されます。
認証ルールの有効化	ACTIVATE_AUTH_RULE	認証ルールを有効化した際に記録されます。
認証ルールの無効化	INACTIVATE_AUTH_RULE	認証ルールを無効化した際に記録されます。

操作種別	操作種別文字列	説明
認証ルールの削除	DELETE_AUTH_RULE	認証ルールを削除した際に記録されます。
認証ポリシーの作成	CREATE_AUTH_POLICY	認証ポリシーを作成した際に記録されます。
認証ポリシーの編集	UPDATE_AUTH_POLICY	認証ポリシーを編集した際に記録されます。
認証ポリシーの削除	DELETE_AUTH_POLICY	認証ポリシーを削除した際に記録されます。
認証システムの作成	CREATE_AUTH_SYSTEM	認証システムを作成した際に記録されます。
認証システムの編集	UPDATE_AUTH_SYSTEM	認証システムを編集した際に記録されます。
認証システムの削除	DELETE_AUTH_SYSTEM	認証システムを削除した際に記録されます。
LDAP 認証システム連携エラー	FAILED_LDAP_AUTHENTICATION	LDAP 認証システムを使用した認証に失敗した際に記録されます。
認証システムで該当するユーザが 2 件以上ヒットした	DUPLICATE_LDAP_USER_EXISTS	LDAP 認証システムを使用した認証のときに，検索先のディレクトリ・サーバで該当するユーザが 2 件以上ヒットした際に記録されます。
認証システムで該当するユーザがヒットしなかった	LDAP_USER_DOES_NOT_EXISTS	LDAP 認証システムを使用した認証のときに，検索先のディレクトリ・サーバに該当するユーザがヒットしなかった際に記録されます。
ネットワークセットの作成	CREATE_NETWORK_SET	ネットワークセットを作成した際に記録されます。
ネットワークセットの編集	UPDATE_NETWORK_SET	ネットワークセットを編集した際に記録されます。
ネットワークセットの削除	DELETE_NETWORK_SET	ネットワークセットを削除した際に記録されます。
承認ルートの作成	CREATE_APPROVAL_ROUTE	承認ルートを作成した際に記録されます。
承認ルートの編集	UPDATE_APPROVAL_ROUTE	承認ルートを編集した際に記録されます。
承認ルートの削除	DELETE_APPROVAL_ROUTE	承認ルートを削除した際に記録されます。
承認ルートのスキップ	SKIP_DELIVERY_APPROVAL	JP1/Data Highway - AJE で送信を実行した際に，承認処理をスキップした場合に記録されます。
監査ログのダウンロード	DOWNLOAD_LOG	監査ログをダウンロードした際に記録されます。
配送通知	NOTIFY_DELIVERY	ファイルの新規送信によって，受信者または承認者へメールが送信された際に記録されます。
承認許可通知	NOTIFY_DELIVERY_ACCEPTED	ファイル送信が承認され，送信者へメールが送信された際に記録されます。

操作種別	操作種別文字列	説明
承認却下通知	NOTIFY_DELIVERY_REJECTED	ファイル送信の承認が却下され，送信者へメールが送信された際に記録されます。
開封通知	NOTIFY_OPEN_DELIVERY	開封通知設定を行ったファイルが開封されたことを通知するメールが送信された際に記録されます。
パスワード変更	UPDATE_PASSWORD	ユーザのパスワードを変更した際に記録されます。
パスワード有効期限切れ	PASSWORD_EXPIRED	ログイン時に，パスワードの有効期限が切れていた場合に記録されます。
ユーザ言語変更	UPDATE_USER_LANG	ユーザ言語の設定を変更した際に記録されます。
クライアント認証受理	SERVER_ACCEPT_CLIENT	JP1/DH - Server のサーバが Java アプレットの認証を受理した際に記録されます。
権限のない操作	ILLEGAL_INTERFACE_CALL	権限のない操作を実行しようとし，その操作が中断された際に記録されます。 また，JP1/Data Highway - AJE を利用して，アドレス帳に表示されていないユーザへ送信した際に記録されます。

表 2-11　監査ログの操作詳細の詳細

操作詳細	パラメータ補足	補足
application-type=(web|command)	• web：Web 画面でログイン • command：コマンドでログイン	ログイン時のインタフェースを示します。
succeeded=(0|1)	• 0：失敗 • 1：成功	操作の成功／失敗を示します。
token-type={password, local-stored-private-key}	• password：標準パスワード認証 • local-stored-private-key：電子証明書認証	ログイン時の認証タイプを示します。
auth-methods={std-pw-auth, cert-auth}	• std-pw-auth：標準パスワード認証 • cert-auth：電子証明書認証	認証ポリシーで許可されている認証方式を示します。 複数許可されている場合は，カンマ(,)区切りで出力します。
operator=<No.*シリアル番号*#*ユーザ ID*>	シリアル番号：ユーザに付与される一意の番号	操作を行ったユーザを示します。
operator=<*ユーザID*>	−	操作を行ったユーザのユーザ ID を示します。
account=(unlock|lockout)	• unlock：アカウントロックが解除された • lockout：アカウントロックされた	ログイン時のアカウントロック状況を示します。

操作詳細	パラメータ補足	補足
operator-group=<*操作ユーザプライマリグループ名*(英語)>	−	操作ユーザの所属するプライマリグループを示します。
filesize=*ファイルサイズ*	−	ファイルのサイズを示します。
mime-type=*MIME タイプ*	−	ファイルの MIME タイプを示します。
compressed-by= (NONE|ZIP/9|ZIP/5|ZIP/1)	• NONE：圧縮なし • ZIP/9：標準圧縮方式［強］ • ZIP/5：標準圧縮方式［中］ • ZIP/1：標準圧縮方式［弱］	ファイル送信で［標準］圧縮方式を選択した場合の，圧縮強度を示します。
compressed-by= (NONE|GCP/0|GCP/9|GCP/5|GCP/1)	• NONE：圧縮なし （ファイルの場合） • GCP/0：圧縮なし （フォルダの場合） • GCP/9：拡張圧縮方式［強］ • GCP/5：拡張圧縮方式［中］ • GCP/1：拡張圧縮方式［弱］	ファイル/フォルダ送信で［拡張］圧縮方式を選択した場合の，圧縮強度を示します。
filename=*ファイル名*	−	ファイル名を示します。
transfered=*送信バイト数*	−	送信バイト数を示します。
received-time=受信時間	−	ファイル送受信に掛かった時間を示します。
start-time={開始日時(JST)}	−	送信/受信開始時刻（サーバ時間）を示します。
end-time={終了日時(JST)}	−	送信/受信終了時刻（サーバ時間）を示します。受信量による課金はこの時間に基づいています。
throughput=*スループット*	−	ファイル送受信でのスループットを示します。
from=*送信元メールアドレス*	−	ファイル送信者を示します。
to=*送信先メールアドレス*	−	ファイル受信者を示します。
notify-opening-delivery= (0|1)	• 0：ファイルの開封通知を行っていない • 1：ファイルの開封通知を行った	ファイル開封時に，開封通知を送信者に行ったかどうかを示します。
end-time=*終了日時*	−	操作の完了日時（サーバ時間）を示します。
email=<*メールアドレス*>	−	メールアドレスを示します。
delivery-policy=<No.*シリアル番号#ポリシー名（英語）*>	−	配送ポリシーを示します。 同一のポリシー名の場合はシリアル番号で区別します。
max-per-delivery=*最大配送データ量（1 送信あたり）*	−	配送ポリシーでの最大配送データ量（1 送信あたり）を示します。（単位：バイト）

操作詳細	パラメータ補足	補足
max-per-file=*最大配送データ量（1ファイルあたり）*	−	配送ポリシーでの最大配送データ量（1ファイルあたり）を示します。（単位：バイト）
max-expire-date=*最大保存期間*	−	配送ポリシーでの最大保存期間を示します。（単位：日）
protocol=LDAP	−	LDAP 認証システムを使用した認証をした場合に，ディレクトリ・サーバとの通信プロトコルを表示します。
server-type=(LDAP_V3|ACTIVE_DIRECTORY)	• LDAP_V3：Active Directory 以外のディレクトリ・サーバ • ACTIVE_DIRECTORY：Active Directory	連携するディレクトリ・サーバの種類を表示します。
directory-servers=<*ディレクトリ・サーバのホスト名*>:<*ポート番号*>	−	連携するディレクトリ・サーバのサーバを表示します。
auth-methods=<<SIMPLE/finderDn=*検索ユーザ名*>>	−	ディレクトリ・サーバで検索したユーザ名を表示します。
period=<*開始日* - *終了日*>	−	監査ログ取得時の，ログ取得期間を示します。
code=*エラー種類*	−	エラー発生時のエラーの種類を示します。

2.3.3 監査ログのエラーメッセージ

監査ログのエラーメッセージを次の表に示します。

表 2-12 監査ログのエラーメッセージ

項番	大項目	ログ種別	エラーコード	発生原因
1	送信	SEND_DELIVERY	PERSISTENCE_ERROR	ファイルのアップロード中に，次のどれかが発生した。 • ユーザがアップロードを中断した。 • ユーザがブラウザを終了した。 • ネットワークが切断された。 • Java プロセスが終了した。 • データベースの障害が発生した。
2			NETWORK_IO_ERROR	送信をキャンセルした。 • ファイル送信準備中にエラーが発生した。 • ファイル送信完了直前にエラーが発生した。 送信中のほとんどのエラーはこのエラーコードになります。

項番	大項目	ログ種別	エラーコード	発生原因
3	送信	SEND_DELIVERY	DELETE_FAILED	送信に失敗し，かつ失敗した配送の削除に失敗した（データベース障害）。
4			SEND_REJECTED	不正な手順で送信処理が行われた。 通常の運用時は発生しません。
5			SEND_CANCELED	ユーザがファイルのアップロードを中断した。
6	受信	DOWNLOAD_FILE	DATA_VERIFICATION_ERROR	ダウンロードしたファイルのハッシュ値が送信時と一致しなかった。
7			DOWNLOAD_LIMITS	ダウンロード制限を超えてダウンロードしようとした。
8			PERSISTENCE_ERROR	ファイルのダウンロード中に，次のどれかが発生した。 • ユーザがダウンロードを中断した。 • ユーザがブラウザを終了した。 • ネットワークが切断された。 • Java プロセスが終了した。 • データベースの障害が発生した。
9			NETWORK_IO_ERROR	• 圧縮ありのファイルダウンロードをキャンセルした。 • ハッシュ値の計算中にキャンセルした。
10			DOWNLOAD_REJECTED	不正な手順で受信処理が行われた。 通常の運用時は発生しません。
11			DOWNLOAD_CANCELED	ユーザがファイルのダウンロードを中断した。
12	認証ポリシー	CREATE_AUTH_POLICY	POLICY_OPERATION_FAILED	認証ポリシー［作成］に失敗した。
13		UPDATE_AUTH_POLICY	POLICY_OPERATION_FAILED	認証ポリシー［更新］に失敗した。
14		DELETE_AUTH_POLICY	POLICY_OPERATION_FAILED	認証ポリシー［削除］に失敗した。
15	認証ルール	DELETE_AUTH_RULE	RULE_OPERATION_FAILED	認証ルール［削除］に失敗した。
16		ACTIVATE_AUTH_RULE	RULE_OPERATION_FAILED	認証ルール［有効化］に失敗した。
17		INACTIVATE_AUTH_RULE	RULE_OPERATION_FAILED	認証ルール［無効化］に失敗した。
18		UP_AUTH_RULE	RULE_OPERATION_FAILED	認証ルール［上へ］移動に失敗した。

項番	大項目	ログ種別	エラーコード	発生原因
19	認証ルール	DOWN_AUTH_RULE	RULE_OPERATION_FAILED	認証ルール［下へ］移動に失敗した。
20	配送ポリシー	CREATE_DELIVERY_POLICY	POLICY_OPERATION_FAILED	配送ポリシー［作成］に失敗した。
21		UPDATE_DELIVERY_POLICY	POLICY_OPERATION_FAILED	配送ポリシー［更新］に失敗した。
22		DELETE_DELIVERY_POLICY	POLICY_OPERATION_FAILED	配送ポリシー［削除］に失敗した。
23	配送ルール	DELETE_DELIVERY_RULE	RULE_OPERATION_FAILED	配送ルール［削除］に失敗した。
24		ACTIVATE_DELIVERY_RULE	RULE_OPERATION_FAILED	配送ルール［有効化］に失敗した。
25		INACTIVATE_DELIVERY_RULE	RULE_OPERATION_FAILED	配送ルール［無効化］に失敗した。
26		UP_DELIVERY_RULE	RULE_OPERATION_FAILED	配送ルール［上へ］移動に失敗した。
27		DOWN_DELIVERY_RULE	RULE_OPERATION_FAILED	配送ルール［下へ］移動に失敗した。
28	ネットワークセット	UPDATE_NETWORK_SET	OBJECT_OPERATION_FAILED	ネットワークセット［更新］に失敗した。
29		DELETE_NETWORK_SET	OBJECT_OPERATION_FAILED	ネットワークセット［削除］に失敗した。
30		CREATE_NETWORK_SET	OBJECT_OPERATION_FAILED	ネットワークセット［作成］に失敗した。
31	承認ルート	UPDATE_APPROVAL_ROUTE	OBJECT_OPERATION_FAILED	承認ルートの更新に失敗した。
32		DELETE_APPROVAL_ROUTE	OBJECT_OPERATION_FAILED	承認ルートの削除に失敗した。
33		CREATE_APPROVAL_ROUTE	OBJECT_OPERATION_FAILED	承認ルートの作成に失敗した。
34	開封	OPEN_DELIVERY	PASSWORD_MISMATCH	未登録宛先送信で，開封パスワードを間違えた。

項番	大項目	ログ種別	エラーコード	発生原因
35	開封	OPEN_DELIVERY	DELIVERY_NOT_FOUND_OR_EXPIRED	受け取り URL へアクセスした。 • 削除済みの配送にアクセスした。 • 配送期限を超過している配送にアクセスした。
36			NOTIFICATION_FAILED	通知メールの送信に失敗した。 • 通知宛先が存在しないメールアドレスである。 • メールサーバが正しく設定されていない。 • その他
37	通知メール	NOTIFY_DELIVERY	APPROVAL_ROUTE_ILLEGAL_STATUS_DETECTED	新規送信時，承認ルートの状態が不正である。(verifyApprovalRouteStatus()が false)
38			NOTIFICATION_FAILED	メール通知に失敗した。
39			PERSISTENCE_FAILED	データベース障害が発生した。
40	招待者設定	ACTIVATE_GUEST	ACTIVATE_FAILED	招待者の有効化に失敗した。
41		INACTIVATE_GUEST	INACTIVATE_FAILED	招待者の無効化に失敗した。
42		DELETE_GUEST	DELETE_FAILED	招待者の削除に失敗した。
43	オプション	UPDATE_PASSWORD	UPDATE_FAILED	標準パスワードの更新に失敗した。
44		UPDATE_USER_LANG	UPDATE_FAILED	ユーザ言語の更新に失敗した。

2.3.4 監査ログの出力例

監査ログの出力例を次に示します。

```
”2010-09-22T19:25:41.674+09:00L0.131”,”123.123.123.123”,”NOTICE”,
”uid=<No.1#admin@testdomain>”,”LOGIN”,”succeeded=1, token-type=local-stored-private-key,
operator=<No.2496#admin@testdomain>, operator-group=</test>,application-type=web”,””,↓
”2010-09-22T29:28:09.251+09:00L0.43”,”123.123.123.123”,”NOTICE”,
”user=<No.2#testuser@testdomain>”,”CREATE_USER”,”operator=<No.1#admin@testdomain>,
operator-group=</test>, email=<testuser@test.jp>”↓
”2010-09-22T19:33:43.681+09:00L0.44”,”123.123.123.123”,”NOTICE”,
””,”DOWNLOAD_LOG”,”operator=<No.1#admin@testdomain>, operator-group=</test>,
period=<2010/1/1 - 2010/12/31>”↓
”2010-09-22T19:34:26.923+09:00L0.26”,”123.123.123.123”,”NOTICE”,
”uid=<No.1#admin@testdomain>”,”LOGOUT”,”operator=<No.1#admin@testdomain>”
operator-group=</test>↓
”2010-09-23T11:13:35.200+09:00L0.609”,”111.111.111.111”,”NOTICE”,
```

```
"did=123","SEND_DELIVERY", succeeded=1,"operator=<No.2#testuser@testdomain>,
operator-group=</test>, from=<admin@test.jp>, to=<admin@test.jp>"↓
```

2.4　ユーザの種類と権限

JP1/DH - Server の各ユーザが使用可能な機能の一覧を次の表に示します。

表 2-13　使用できる機能一覧

項目	代表ユーザ	グループ管理者	一般ユーザ	招待者※1	未登録ユーザ	参照先
送信※2	○	○	○	○	×	3.3.2
受信	○	○	○	○	○	3.3.3 3.3.4
承認・却下処理	○	○	△	×	×	3.3.6
招待者設定	○	○	△	×	×	3.3.7
オプション	○	○	△	△	×	3.3.8
ユーザとグループ管理	○	○	×	×	×	3.4.2
ユーザとグループ管理（一括管理）	○	×	×	×	×	3.5.2
ユーザ利用履歴	○	○	×	×	×	3.4.3
配送ルール設定	○	×	×	×	×	3.5.3
認証ルール設定	○	×	×	×	×	3.5.4
認証システム設定	○	×	×	×	×	3.5.5
オブジェクト定義	○	×	×	×	×	3.5.6
ログ	○	×	×	×	×	3.5.7

（凡例）

○：使用可

△：代表ユーザ，またはグループ管理者が利用を許可したユーザの場合は使用可

×：使用不可

注※1

付与されたアカウントには，期限，および送信回数の制限が設定されています。

注※2

ユーザによっては，アドレス帳に未登録の宛先にも送信できます。

注　意

- グループ管理者は，自分が所属するグループとその配下の「ユーザとグループ管理」，「ユーザ利用履歴」機能が使用できます。ただし，自分が所属するグループのグループ管理者を変更することはできません。
- グループ管理者は，管理対象となるグループの直下に所属するユーザである必要があります。
- 1 人のユーザを複数のグループのグループ管理者とすることはできません。ユーザが複数のグループに所属している場合でも，どれか 1 つのグループのグループ管理者として設定してください。

3 操作説明

この章では，JP1/DH - Server の操作手順を説明します。

3.1　画面共通仕様

JP1/DH - Server で使用する画面の共通仕様について説明します。

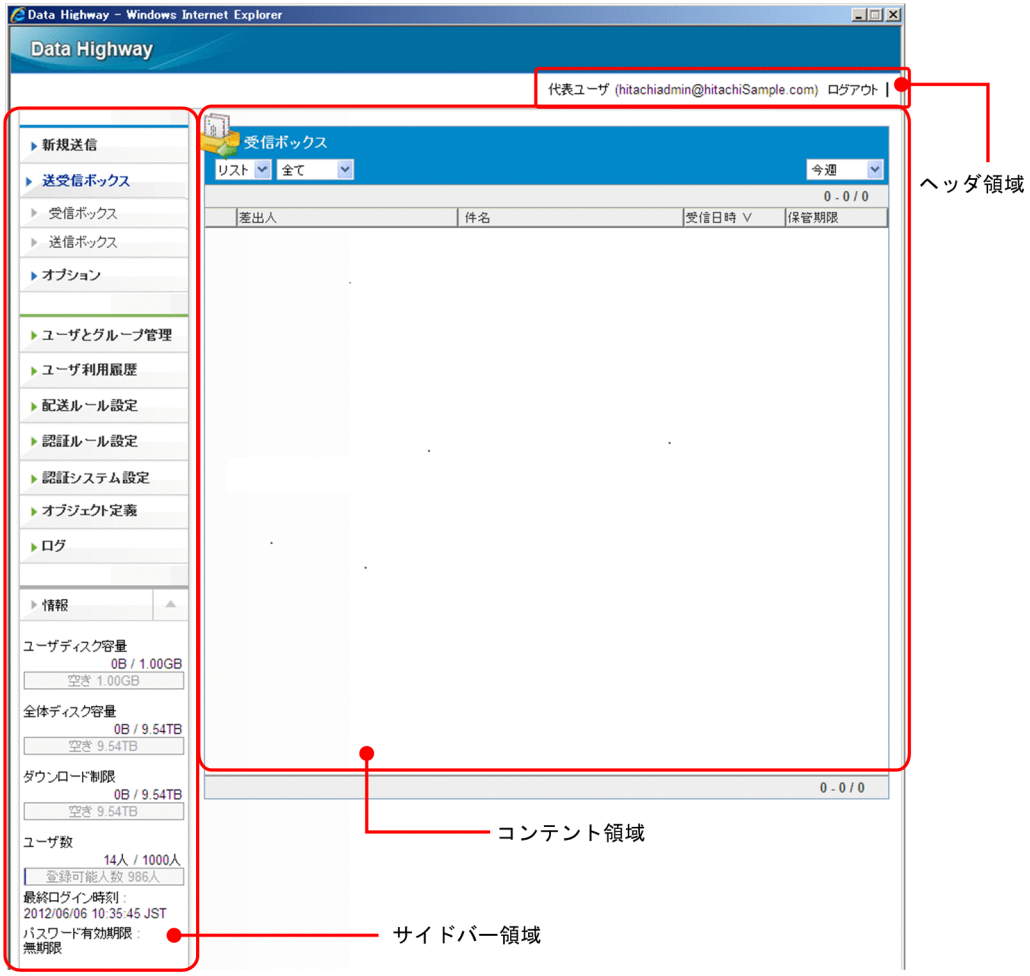
3.1.1　画面構成

JP1/DH - Server の画面構成を次に示します。

(1)　画面例

JP1/DH - Server のメイン画面の例を次に示します。初期の表示言語はブラウザの言語設定に依存します。ブラウザの言語設定が日本語であれば日本語，中国語であれば中国語，それ以外であれば英語で表示されます。

図 3-1　JP1/DH - Server の画面構成



(2)　構成

JP1/DH - Server で使用する画面は，主に次の 3 つの領域で構成されます。

表 3-1　JP1/DH - Server で使用する画面の領域

項目	内容
ヘッダ領域	ログインユーザの表示，ログアウトを行います。
サイドバー領域	操作メニューとユーザ／全体のディスク使用量を表示します。 なお，代表ユーザでログインした場合は，登録できる最大ユーザ数と現在のユーザ数，およびダウンロード制限が表示されます。
コンテント領域	ファイルの送受信や各種設定を行います。

3.1.2　アイコン一覧

JP1/DH - Server で使用する画面に表示されるアイコンの一覧を次に示します。

表 3-2　JP1/DH - Server の画面に表示されるアイコン一覧

画面		アイコン	説明
［新規送信］画面			送信設定が完了したことを表します。 ファイル／メッセージの送信設定が完了した場合に，このアイコンが表示されます。［送信開始］ボタンのクリックでファイル／メッセージを送信できます。
			送信設定に未入力項目があることを表します。 必要な送信設定に未入力項目がある場合に，このアイコンが表示されます。
			送信設定にエラーがあることを表します。 送信設定に不正な項目がある場合に，このアイコンが表示されます。
			アイコンをクリックすると，設定した宛先を削除します。
			設定した宛先にファイル／メッセージを送る際に，承認処理が必要であることを表します。
－	［アドレス帳］タブ • アドレス一覧		グループを表します。
			ユーザを表します。
	［アドレス帳］タブ • 送信アドレス履歴 • 受信アドレス履歴		ユーザを表します。
			アイコンをクリックすると，一覧から履歴を削除します。
［送信ボックス］画面 ［送信履歴］画面 ［受信ボックス］画面 ［受信履歴］画面			配送期限切れであることを表します。ファイルはまだ削除されていません。なお，このアイコンの配送は，ユーザディスク容量・全体ディスク容量に含まれません。 アイコンをクリックすると［送信ボックス］画面/［送信履歴］画面の場合は［詳細表示］・［削除］メニューが，［受信ボックス］画面/［受信履歴］画面は［詳細表示］メニューが選択できます。

画面	アイコン	説明
［送信ボックス］画面 ［送信履歴］画面 ［受信ボックス］画面 ［受信履歴］画面		配送期限切れであることを表します。ファイルはすでに削除されています。なお，このアイコンの配送は，ユーザディスク容量・全体ディスク容量に含まれません。 アイコンをクリックすると［送信ボックス］画面/［送信履歴］画面の場合は［詳細表示］・［削除］メニューが，［受信ボックス］画面/［受信履歴］画面は［詳細表示］メニューが選択できます。
［送信ボックス］画面 ［送信履歴］画面		配送中，または配送待機中であることを表します。 アイコンをクリックすると［詳細表示］・［削除］メニューが選択できます。
		配送が失敗したことを表します。配送先のユーザに配送は届いていません。 アイコンをクリックすると［詳細表示］・［削除］メニューが選択できます。
		配送済みであることを表します。 アイコンをクリックすると［詳細表示］・［削除］メニューが選択できます。
		承認者が配送を却下したことを表します。受信ユーザには配送されていません。 アイコンをクリックすると［詳細表示］・［削除］メニューが選択できます。
		承認者による承認（許可/却下）がまだ行われていないことを表します。受信ユーザには配送されていません。 アイコンをクリックすると［詳細表示］・［削除］メニューが選択できます。
		JP1/Data Highway - AJE で送信した配送を，システム管理者が一時停止したことを表します。受信ユーザには配送されていません。 アイコンをクリックすると［詳細表示］・［削除］メニューが選択できます。
［受信ボックス］画面 ［受信履歴］画面		未開封であることを表します。 アイコンをクリックすると［詳細表示］メニューが選択できます。
		開封済みであることを表します。 ファイルのダウンロードを行っていない場合，または一部のファイルをダウンロード済みの場合に表示されます。 アイコンをクリックすると［詳細表示］メニューが選択できます。
		ダウンロード済みであることを表します。 受信ユーザが配送を開封し，配送内のすべてのファイルのダウンロードが完了している場合に表示されます。 アイコンをクリックすると［詳細表示］メニューが選択できます。
［承認申請一覧］画面※		承認を申請したユーザを表します。

画面	アイコン	説明
［ユーザとグループ管理］画面		有効なユーザグループを表します。
		有効な招待者グループを表します。
		無効なユーザグループを表します。
		無効な招待者グループを表します。
		有効な一般ユーザを表します。
		無効な一般ユーザを表します。
		アカウントロックされた一般ユーザを表します。
［招待者設定］画面※		有効な招待者を表します。
		無効な招待者を表します。
		アカウントロックされた招待者を表します。
［配送ルール一覧］画面 ［認証ルール一覧］画面		有効な許可配送／認証ルールを表します。 アイコンをクリックすると，［編集］・［上へ］・［下へ］・［有効化］・［無効化］・［削除］メニューが選択できます。
		有効な禁止配送／認証ルールを表します。 アイコンをクリックすると，［編集］・［上へ］・［下へ］・［有効化］・［無効化］・［削除］メニューが選択できます。
		無効な配送／認証ルールを表します。 このアイコンの配送／認証ルールは無視されます。 アイコンをクリックすると，［編集］・［上へ］・［下へ］・［有効化］・［無効化］・［削除］メニューが選択できます。
［配送ルール一覧］画面 ［認証ルール一覧］画面		配送／認証ポリシーを表します。 アイコンをクリックすると，［編集］・［削除］メニューが選択できます。
［ネットワークセット］画面		ネットワークセットを表します。 アイコンをクリックすると，［編集］・［削除］メニューが選択できます。
［承認ルート］画面		承認ルートを表します。 アイコンをクリックすると，［編集］・［削除］メニューが選択できます。

注※

代表ユーザ，またはグループ管理者が利用を許可したユーザの場合に表示されるメニューです。

3.1.3　注意事項

JP1/DH - Server で使用する画面の注意事項を次に示します。

- 画面の操作には，画面内のボタンやアンカーを使用してください。Web ブラウザの［戻る］ボタン，［進む］ボタン，［更新］ボタンや Web ブラウザの履歴から操作すると，画面が正しく動作しない場合があります。
- 画面操作を行う際に，ボタンの連打をしないでください。ボタンの連打を行うと，画面が正しく動作しない場合があります。
- 画面上部に「Loading…」と表示されている間は画面を操作しないでください。「Loading…」と表示されている間に画面を操作すると，画面が正しく動作しない場合があります。

- ログイン操作で何度も（通常 5 回）認証に失敗した場合は，アカウントがロックされます。その場合，しばらくの間（通常 10 分）は正しいユーザ ID とパスワードを入力してもログインできません。時間をおいてから再度ログインを行ってください。ログインに成功すると，アカウントロックが解除されます。

  なお，アカウントロックされるのは，ログイン ID とパスワードを利用してログインする場合だけです。電子証明書を利用した場合で認証に失敗したときは，アカウントロックはされずにメッセージダイアログが表示されます。

- JP1/DH - Server で表示されるすべての日時は，JP1/DH - Server が配置されているサーバのタイムゾーン設定に従った時間になります。このため，保管日時や送信日時などが JP1/DH - Server を利用しているクライアント PC の現地時間と異なるときがあります。
- 各種入力項目の先頭と末尾にスペースを入力しないでください。先頭または末尾にスペースを入力すると正しく認識されない場合があります。
- ご利用 JRE マシンの JRE6 のマイナーバージョンが古い場合（Update 18 以前），Java アプレット使用開始時に警告ダイアログが表示されます。この場合は詳細情報を確認し［はい］を選択してください。なお，JRE6 は推奨環境である Update 24 以降を使用してください。

- ヘッダ領域で言語設定を変更すると，表示中の画面で入力途中の内容はクリアされます。入力の途中では，言語設定を変更しないでください。

3.2　基本操作

JP1/DH - Server の基本操作について説明します。

3.2.1　操作の一覧

基本操作の一覧を次に示します。

表 3-3　基本操作の一覧

操作	参照先
［標準パスワード認証］で JP1/DH - Server にログインする。	3.2.2
［電子証明書認証］で JP1/DH - Server にログインする。	3.2.3
LDAP のユーザ認証でログインする。	3.2.4
JP1/DH - Server からログアウトする。	3.2.5
表示言語を変更する。	3.2.6

なお，ログイン画面で，［クライアント環境の確認］リンクをクリックすると，クライアントの環境が正しいかどうかを確認できます。クライアント環境の詳細については，「JP1/Data Highway - Server ユーザーズガイド」を参照してください。

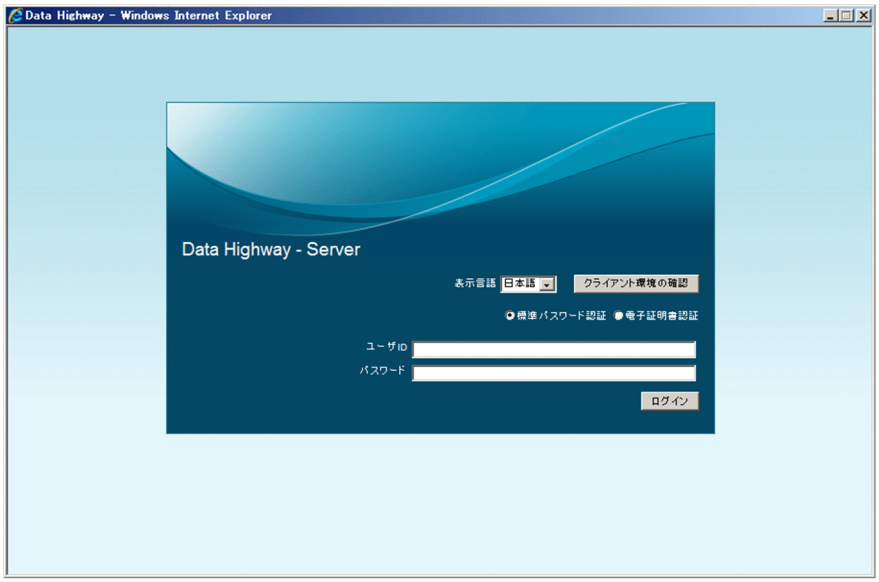
3.2.2　［標準パスワード認証］で JP1/DH - Server にログインする

ユーザ ID とパスワードを利用した［標準パスワード認証］で JP1/DH - Server にログインする手順について説明します。

1. JP1/DH - Server の URL にアクセスします。

   ログインページの URL については，システム管理者にお問い合わせください。

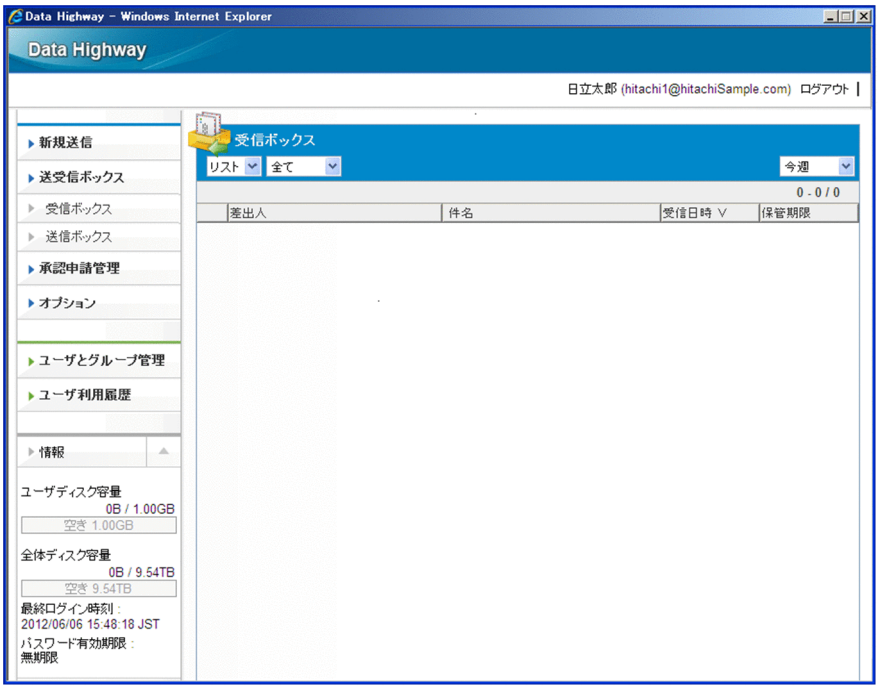
   ［ユーザ認証］画面が表示されます。



2. [標準パスワード認証] ラジオボタンを選択します。

3. ユーザ ID およびパスワードを入力し，[ログイン] ボタンをクリックします。

JP1/DH - Server にログインします。[メイン] 画面が表示されます。



注　意

代表ユーザの設定により，前回パスワードを変更してから一定期間が経過したユーザがログインしようとした場合は，[パスワード変更] 画面が表示されるときがあります。この場合は，パスワードを変更しないとログインできません。パスワードの変更については「3.3.8　オプション」を参照してください。なお，[パスワード変更] 画面が表示された場合でも，電子証明書ではログインできます。

参　考

電子証明書認証でのログインについては，「3.2.3　［電子証明書認証］で JP1/DH - Server にログインする」を参照してください。

3.2.3　［電子証明書認証］で JP1/DH - Server にログインする

電子証明書を利用して JP1/DH - Server にログインする手順について説明します。なお，電子証明書を利用してログインした場合は，パスワードの変更はできません。

注　意

- 電子証明書を利用して JP1/DH - Server にログインするには，代表ユーザ，またはグループ管理者による電子証明書の発行が必要です。また，ユーザには事前に発行済みの認証ファイルの送信と電子証明書のパスワードを連絡しておく必要があります。なお，招待ユーザの場合は電子証明書を利用したログインはできません。
- ユーザが電子証明書のパスワードを間違えた場合でも，監査ログにログイン失敗情報は出力されません。ただし，アカウント期限切れや認証ルールの設定によって，認証ができない状態の場合でユーザが正しいパスワードを入力したときは，ログイン失敗情報が出力されます。

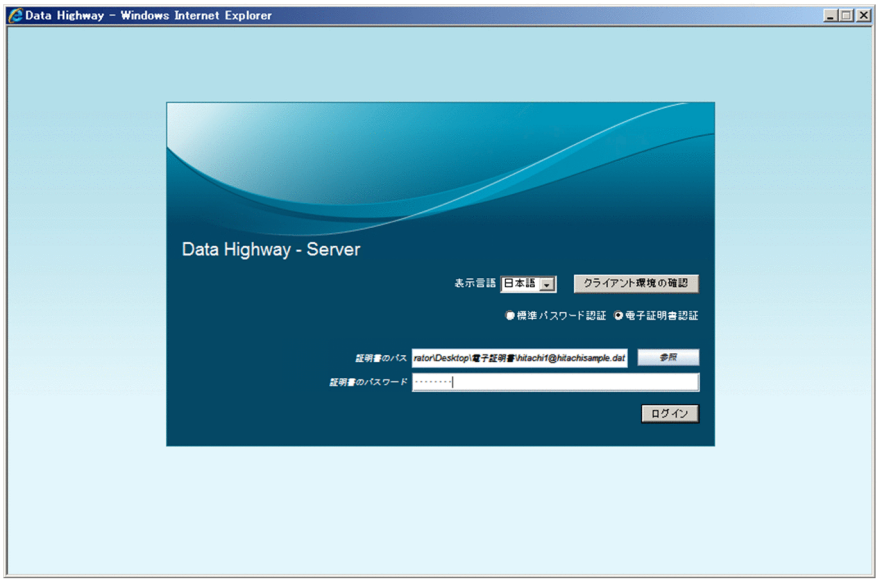
1. JP1/DH - Server の URL にアクセスします。

   ログインページの URL については，システム管理者にお問い合わせください。［ユーザ認証］画面が表示されます。

2. ［電子証明書認証］ラジオボタンを選択します。

3. ［参照］ボタンをクリックして，電子証明書を格納したパスを指定します。

4. ［証明書のパスワード］に電子証明書を保護するパスワードを入力します。

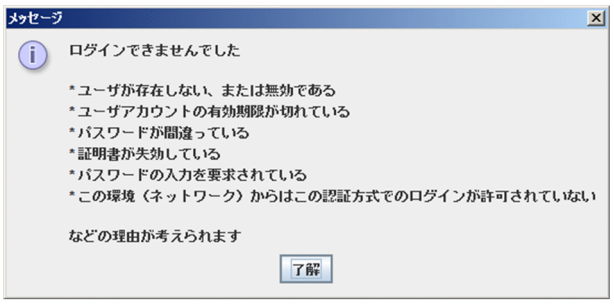


5. ［ログイン］ボタンをクリックします。

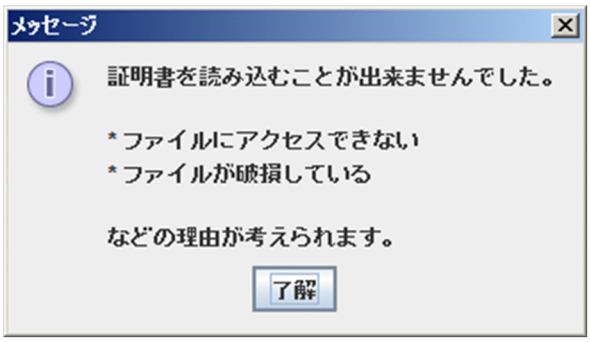
JP1/DH - Server にログインできます。

注　意

ログインできない場合は，次のダイアログが表示されます。
［了解］ボタンをクリックすると，［ユーザ認証］画面に戻ります。



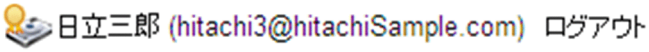
また，指定したパスに電子証明書が存在しない場合は，次のダイアログが表示されます。
［了解］ボタンをクリックすると，［ユーザ認証］画面に戻ります。



上記のエラーが解決しない場合は，システム管理者に連絡してください。

参　考

電子証明書を使用してログインした場合，ユーザ情報に次のアイコンが表示されます。



3.2.4　ディレクトリ・サーバを使用してログインする

JP1/DH - Server にディレクトリ・サーバのユーザ認証でログインする場合は，次の形式でユーザ ID を指定してログインしてください。

<ディレクトリ・サーバで管理されているユーザID>@<JP1/DH - Server上での所属ドメイン名>

認証に失敗した場合は，エラーメッセージが表示されます。

3.2.5　JP1/DH - Server からログアウトする

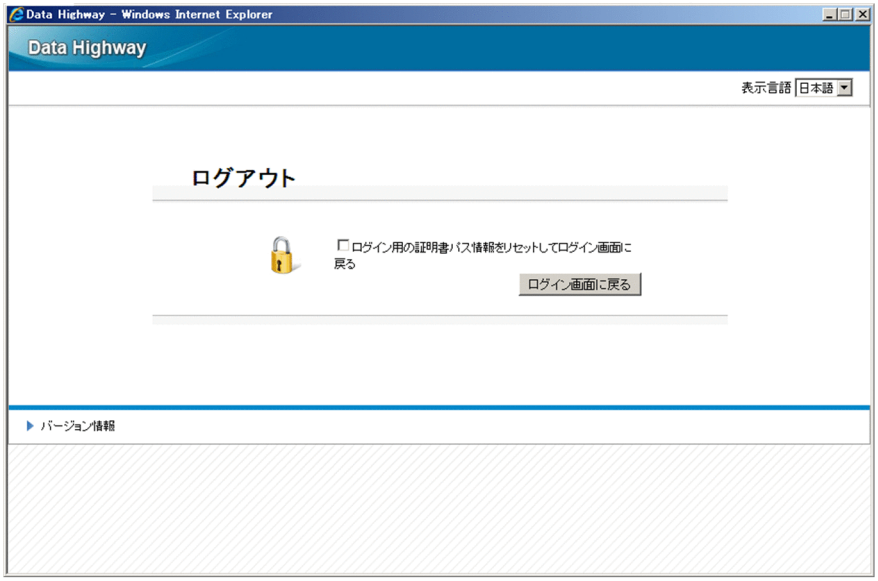
JP1/DH - Server からログアウトする手順について説明します。

1. ヘッダ領域の［ログアウト］アンカーをクリックします。

   JP1/DH - Server からログアウトして，［ユーザ認証］画面が表示されます。

参　考

電子証明書を利用して JP1/DH - Server にログインした場合，ログアウトしたあとに次の画面が表示されます。



［ログイン用の証明書パス情報をリセットしてログイン画面に戻る］をチェックして［ログイン画面に戻る］ボタンをクリックすると，ログインに使用する電子証明書の情報をリセットします。リセットした場合は次回ログイン時に，電子証明書を格納したパスの指定から行う必要があります。

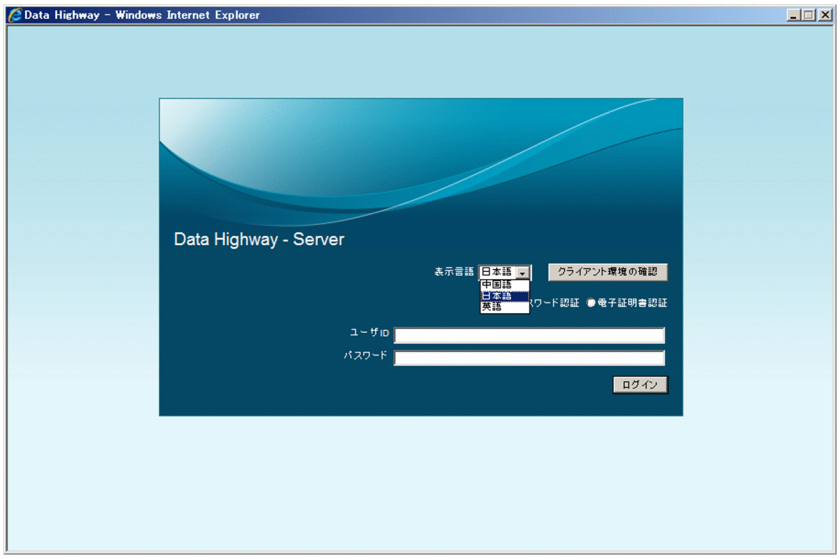
リセットしない場合は，電子証明書認証のパスワード入力画面が表示されます。

3.2.6　表示言語を変更する

画面に表示する言語を変更する手順について説明します。

JP1/DH - Server の画面に表示できる言語は，日本語，英語，中国語のどれかです。

1. ログイン画面の［言語］ドロップダウンリストボックスで言語を選択します。
2. ログインすると，選択した言語で画面が表示されます。



注　意

一般ユーザの場合は，ログインしたあとの画面でも表示言語を切り替えることができます。

3.3　一般ユーザが行う操作

ここでは，一般ユーザが行う操作について説明します。これらの操作は，グループ管理者や代表ユーザでも行うことができます。

3.3.1　操作の一覧

一般ユーザが行う操作の一覧を次に示します。

表 3-4　一般ユーザの操作一覧

メニュー項目	操作内容	参照先
新規送信	ファイル／メッセージを送信する。	3.3.2(1)
	システムに未登録の宛先を指定してファイル／メッセージを送信する。	3.3.2(2)
送受信ボックス	システムに登録済みのユーザがファイルを受信する。	3.3.3(1)
	システムに未登録のユーザがファイルを受信する。	3.3.3(2)
	受信ボックスからファイルを受信する。	3.3.4
	送受信履歴を確認／削除する。	3.3.5
承認申請管理※	メール記載 URL から承認申請を許可／却下する。	3.3.6(1)
	承認申請を許可／却下する。	3.3.6(2)
招待者設定※	招待者を作成する。	3.3.7(1)
	招待者を編集する。	3.3.7(2)
	招待者を有効化／無効化／削除する。	3.3.7(3)
オプション	パスワードを変更する。	3.3.8(1)
	メール言語を変更する。	3.3.8(2)

注※

代表ユーザ，またはグループ管理者が利用を許可したユーザの場合に表示されるメニューです。

3.3.2　新規送信

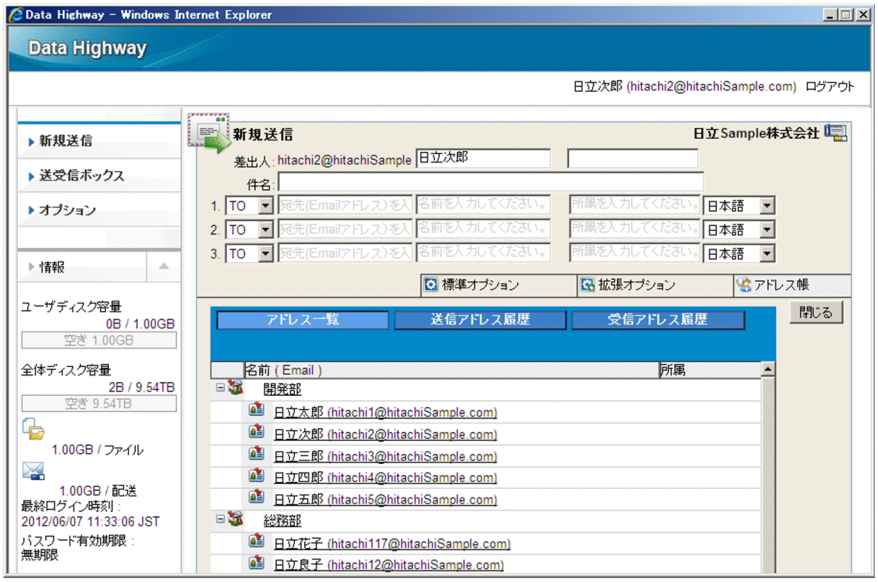
新規送信の操作について説明します。

(1)　ファイル／メッセージを送信する

ファイルやメッセージを送信する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［新規送信］をクリックします。

コンテント領域に［新規送信］画面が表示されます。



2. 差出人の名前，所属などの差出人情報を指定します。次の項目を指定してください。

表 3-5　差出人情報の指定項目

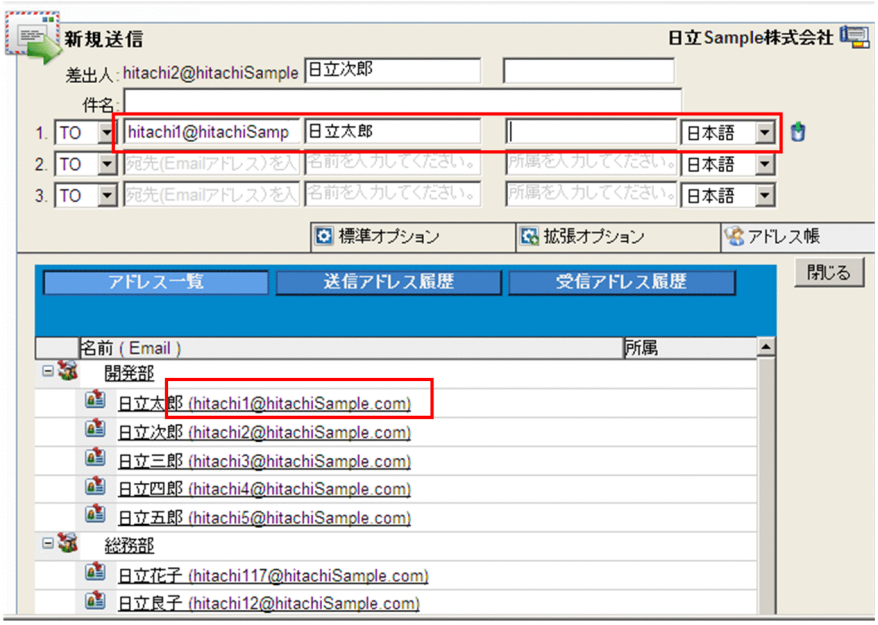
項目	説明
［差出人］テキストボックス (名前)	配送元ユーザの名前を入力します。 ここで入力した値は，配送メールの差出人情報に記載されます。 空欄にした場合は，JP1/DH - Server のシステムに登録された名前が差出人の名前として送信されます。
［差出人］テキストボックス (所属)	配送元ユーザの所属を入力します。 ここで入力した値は，配送メールの差出人情報に記載されます。 ただし，「［差出人］テキストボックス(名前)」が空白の場合は記載されません。入力できる文字数は 1024 文字以内です。
［件名］テキストボックス	配送メールの件名を入力します。入力できる文字数は 100 文字以内です。

3. ファイル／メッセージの宛先をアドレス一覧から指定します。

アドレス一覧で配送先ユーザのアンカー，または配送先グループのアンカーをクリックすると，宛先欄にクリックしたユーザ，またはグループが追加されます。［TO］，［CC］，または［BCC］を選択します。

配送先ユーザのアンカーをクリックした場合，［送信先］テキストボックスに，選択したユーザの Email アドレスおよび名前が設定されます。配送先グループのアンカーをクリックした場合，［送信先］テキストボックスに選択したグループの名前が設定されます。

「名前」欄を空欄とした場合は，JP1/DH - Server のシステムに登録された名前が配送先の名前として送信されます。



注　意

代表ユーザ，またはグループ管理者が任意の宛先への送信を許可しているユーザの場合は，宛先欄に直接宛先を入力できます。この場合の手順については「3.3.2(2)　システムに未登録の宛先を入力してファイル／メッセージを送信する」を参照してください。

なお，任意の宛先を許可するためには，ユーザが所属するグループの設定で［宛先の任意入力］を許可しておく必要があります。詳細については「3.4.2(8)　グループを作成する」を参照してください。

4. 必要に応じて，所属と配送メールの言語を設定します。

表 3-6　配送先情報の指定項目

項目	説明
［所属］テキストボックス	配送先ユーザの所属を入力します。 ここで入力した値は，配送メールの宛先情報に記載されます。 ただし，名前が未登録などの理由で名前欄が空白の場合は記載されません。入力できる文字数は 1024 文字以内です。
［言語］ドロップダウンリストボックス	配送メールの言語を選択します。 ここで選択した言語でメールが送信されます。

補足説明

名前，および所属の入力欄は，メール言語の日本語または中国語を選択した場合と，英語を選択した場合で別に扱われます。日本語または中国語を選択したときに変更した内容は，英語を選択したときには反映されません。

アドレス一覧から宛先を選択した場合はユーザの登録内容，履歴から宛先を選択した場合は送受信時の入力内容，直接入力した場合は空白を初期状態として名前，および所属の入力欄に表示します。

5. 指定した宛先を削除する場合は，宛先の右に表示されるゴミ箱アイコン( )をクリックします。

注　意

一度に送信できる宛先数の上限は，システム管理者の設定によって異なります。なお，承認ルートを利用する場合，［宛先］で指定したユーザ数と承認ルート内の承認者の合計数が，一度に送信できる宛先数となります。

6. ［新規送信］画面には，デフォルトでは［アドレス一覧］画面が表示されます。送信アドレス履歴，受信アドレス履歴から配送先に設定するユーザを選択する場合は，［送信アドレス履歴］ボタン，または［受信アドレス履歴］ボタンをクリックして，それぞれの画面でユーザを選択してください。

補足説明

- ［送信アドレス履歴］画面には，過去に送信したアドレスの履歴が表示されます。［受信アドレス履歴］画面には，過去に受信したアドレスの履歴が表示されます。履歴はそれぞれ最大で 10 件を，最終利用日時が新しいものから順に表示します。
- 履歴には一般ユーザ，未登録宛先ユーザが記録され，グループで指定された宛先は記録されません。また名前，メールアドレスは送信時に使用したものが表示されます。このため，登録ユーザが名前，メールアドレスを編集して変更した場合でも，履歴の名前，メールアドレスは更新されません。
- 代表ユーザ，またはグループ管理者が任意の宛先への送信を許可しているユーザの場合にだけ，履歴から未登録宛先ユーザを選択できます。
- 任意の宛先への送信が許可されていないユーザの場合は，アドレス帳に未登録のユーザが，過去に送受信して［送信アドレス履歴］または［受信アドレス履歴］に名前があっても，非活性となり選択できなくなります。また，アカウント期限の過ぎたユーザを選択した場合は送信エラーとなります。

7. ［標準オプション］タブの項目を指定します。

タブをクリックすると設定画面が表示されます。宛先を指定していない場合，本項目の指定はできません。

- ［標準オプション］タブ

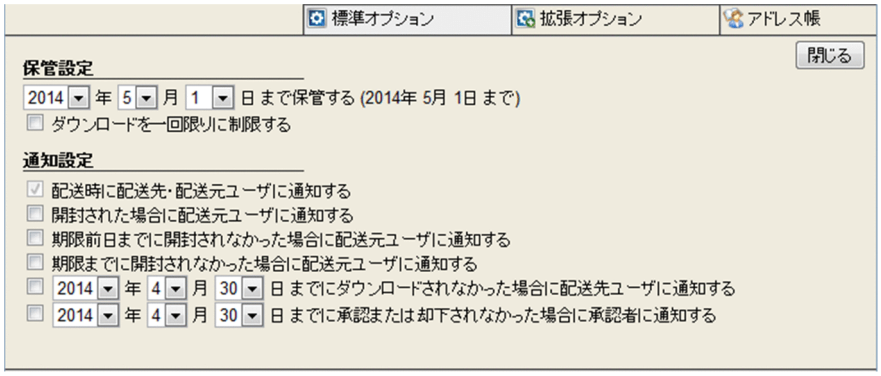


表 3-7　標準オプションタブの項目

分類	項目名	説明
保管設定	［[ ] 年 [ ] 月 [ ] 日まで保管する］	送信したファイルの保管期限を，年月日で指定します。 保管期限の上限日数には，システム管理者が設定した値が表示されます。また，日付はサーバに設定された日付を基準としています。

分類	項目名	説明
保管設定	［ダウンロードを一回限りに制限する］チェックボックス	チェックすると，受信者，および承認ルートが設定されている場合の承認者は，ファイルのダウンロードを 1 回しか行えないようになります。
通知設定※	［配送時に配送先・配送元ユーザに通知する］チェックボックス	チェックすると，ファイルのアップロードまたはメッセージの送信が行われた場合に，配送先ユーザと配送元ユーザに通知メールが送信されます。
	［開封された場合に配送元ユーザに通知する］チェックボックス	チェックすると，配送データが開封された場合に，配送元ユーザに対して通知メールが送信されます。
	［期限前日までに開封されなかった場合に配送元ユーザに通知する］チェックボックス	チェックすると，配送データが期限前日までに開封されなかった場合に，配送元ユーザに対して通知メールが送信されます。
	［期限までに開封されなかった場合に配送元ユーザに通知する］チェックボックス	チェックすると，配送データが期限までに開封されなかった場合に，配送元ユーザに対して通知メールが送信されます。
	［［ ］年［ ］月［ ］日までにダウンロードされなかった場合に配送先ユーザに通知する］チェックボックス	チェックすると，配送データに含まれるファイルが指定日までにダウンロードされなかった場合に，配送先ユーザに対して通知メールが送信されます。 なお，配送データに複数のファイルが含まれている場合は，1 つでもダウンロードされていないファイルがあると通知の対象となります。 日付には，デフォルトで保管期限の前日が表示されます。 通知メールは指定された日付の翌日に送信されます。ただし，保管期限が切れている場合は送信されません。
	［［ ］年［ ］月［ ］日までに承認または却下されなかった場合に承認者に通知する］チェックボックス	チェックすると，配送データが指定日までに承認または却下されなかった場合に，承認者に対して通知メールが送信されます。 日付には，デフォルトで保管期限の前日が表示されます。 通知メールは指定された日付の翌日に送信されます。ただし，保管期限が切れている場合は送信されません。

注※

代表ユーザの設定によって，表示される項目は異なります。

8. ［拡張オプション］タブの項目を指定します。

タブをクリックすると設定画面が表示されます。宛先を指定していない場合，本項目の指定はできません。

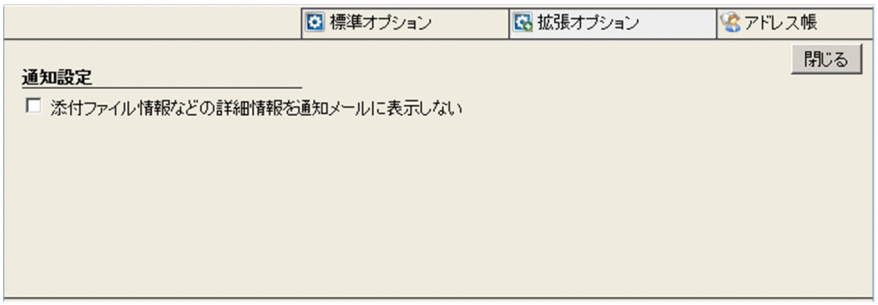
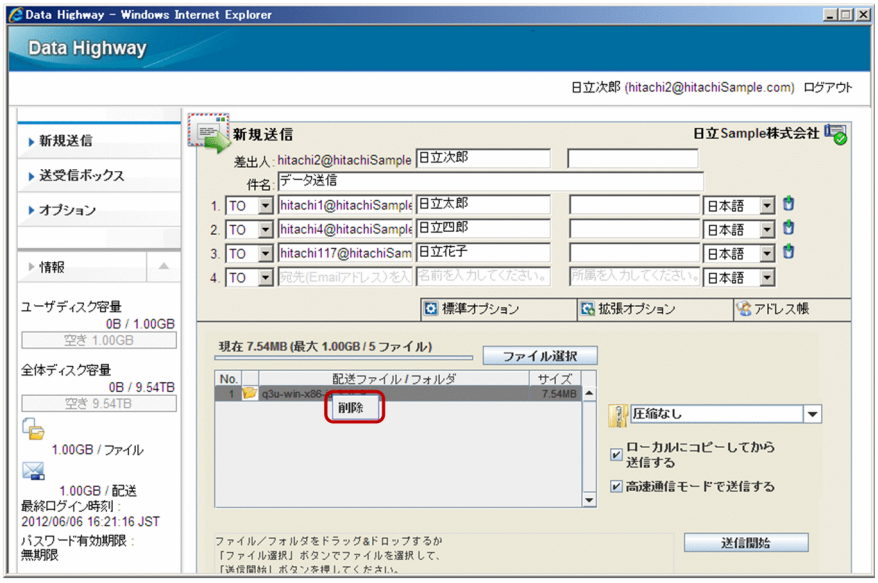


表 3-8　拡張オプションタブの項目

分類	項目	説明
通知設定	[添付ファイル情報などの詳細情報を通知メールに表示しない] チェックボックス	チェックすると，配送メール，および承認依頼メール内に差出人情報，保管期限情報，ファイル一覧情報などが記載されなくなります。

9. 送信するファイル，またはフォルダを指定します。

[ファイル選択] ボタンをクリックしてファイルを選択するか，リストボックス内にファイル，またはフォルダをドラッグ＆ドロップします。ドライブをドラッグ＆ドロップした場合，配送ファイル/フォルダ欄の名前は「Drive」となります。



補足説明

リストボックスに追加されたファイルを削除する場合は，削除するファイルを選択して，キーボードの［Delete］キーを押すか，右クリックで表示される［削除］メニューをクリックしてください。

注　意

- フォルダ内のファイルとフォルダの合計数は，圧縮方式が［標準］の配送ポリシーの場合は 65,534 個以下，圧縮方式が［拡張］の配送ポリシーの場合は 262,144 個以下としてください。
- 送信できるファイルのサイズは，配送ルールや送信元ユーザの空き保管容量により制限されます。

- ファイル，またはフォルダを選択したあとは，送信が完了するまでファイル，またはフォルダを参照したり，データや名前を変更したりしないでください。参照，または変更する場合は，いったん選択済みリストから削除してから行い，もう一度選択し直してください。

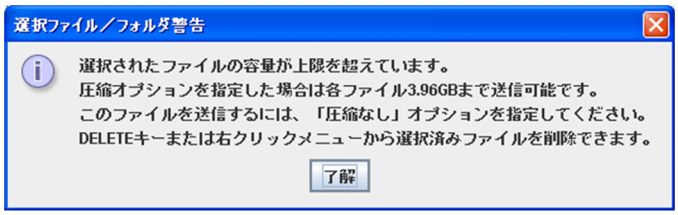
  なお，選択後に変更した結果，データサイズが増減した場合は送信できません。また，データサイズにかかわらずデータが変更されている場合は，受信時に検証エラーとなります。
- ファイルへのアクセス方法によっては，ファイルを参照するだけでデータが変更される場合があります。このような場合も，データを変更したときと同様に送受信時にエラーとなります。

10. **ドロップダウンリストボックスで圧縮強度を選択します。なお，代表ユーザが設定した配送ポリシー定義によっては，圧縮強度を選択できない場合があります。**

    次の形式を選択できます。

    - ［圧縮なし］：ファイルを圧縮しません。
    - ［強］：最も圧縮率が高い方式でファイルを圧縮します。
    - ［中］：圧縮率が中程度の方式でファイルを圧縮します。
    - ［弱］：最も圧縮率が低い方式でファイルを圧縮します。

    圧縮方式が［標準］の配送ポリシーの場合，圧縮して送信できるファイルは 1 ファイルあたり 3.96GB（4,252,017,623 バイト）までです。上限を超えている場合は，次に示すダイアログが表示されます。3.96GB を超えるファイルを送信する場合は，圧縮なしで送信してください。

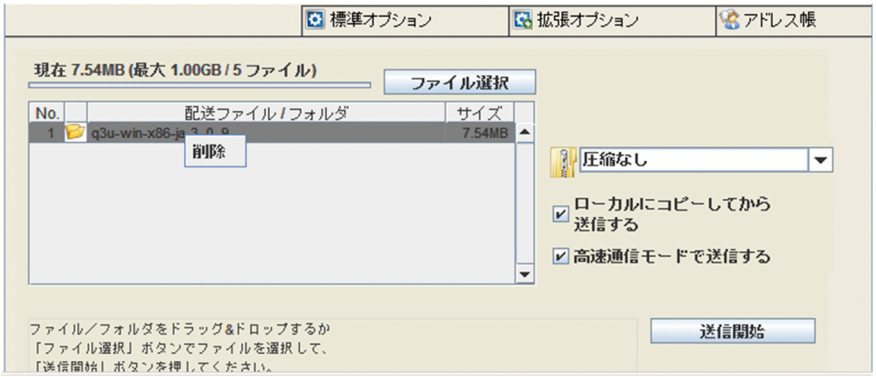


注　意

- 送信対象がフォルダの場合で，フォルダ内のファイルサイズの合計が 3.96GB（4,252,017,623 バイト）を超えるときは，圧縮方式が［拡張］の配送ポリシーを使用してください。圧縮方式が［標準］の配送ポリシーの場合は，3.96GB を超えるフォルダを送信できません。配送ポリシーに設定する圧縮方式については，「3.5.3(4) 配送ポリシーを作成する」を参照してください。
- この機能を用いてファイルを圧縮して送信した場合でも，ログなどに記録されるダウンロード量は圧縮前のファイルサイズとなります。
- 圧縮したファイルの送信に失敗した場合にサーバ上に不完全なファイルが残っている状態でダウンロードを行うと，本来のファイルサイズ分のダウンロード量がログに記録されます。不完全なファイルは約 3 分後に自動で削除されます。この間，送信者の送信ボックスからのダウンロードはしないでください。また，自動的に削除されない場合は，配送を送信ボックスから削除してください。

11. **ローカルフォルダ以外のファイル/フォルダや，アクセス速度が遅いドライブ（SD カードなど）に存在するファイル/フォルダを送信対象に指定する場合は，送信するファイル/フォルダを指定する前に［ローカルにコピーしてから送信する］チェックボックスを選択します。**

    このチェックボックスを選択すると，ファイル/フォルダを送信画面に表示する時間，および送信時間を短縮できる可能性があります。



注　意

- 送信対象にローカルフォルダ以外のファイル/フォルダとローカル環境のファイル/フォルダが混在している場合でも，このチェックボックスを選択できます。ただし，混在している場合に，ローカルフォルダ以外のファイル/フォルダ，またはアクセス速度が遅いドライブ上のファイル/フォルダに対してだけ［ローカルにコピーしてから送信する］を選択することはできません。
- ［ローカルにコピーしてから送信する］チェックボックスを選択して，ローカルフォルダ以外のファイル/フォルダを指定した場合は，対象のファイル/フォルダをローカル環境にコピーします。コピー中は「ファイルをコピーしています。」とメッセージが表示され，他の操作はできません。
- ［ローカルにコピーしてから送信する］チェックボックスは，送信対象にファイル/フォルダを選択済みの場合は操作できません。チェックボックスの指定を変更する場合は，送信対象のファイル/フォルダをすべて削除してください。
- ［ローカルにコピーしてから送信する］チェックボックスを選択するときは，対象のファイル/フォルダをローカル環境にコピーするための空き容量が必要です。事前に，環境変数 TEMP で指定されているフォルダ内の空き容量が充分かを確認してください。空き容量が不足している場合は，エラーとなります。環境変数 TEMP には実在するフォルダが指定されている必要があります。なお，環境変数 TEMP の場所はご使用のマシンの［システムのプロパティ］で確認できます。

12. 送信量に応じて［高速通信モードで送信する］チェックボックスを選択します。

デフォルトでは，チェックボックスが選択されています。

補足説明

プロキシサーバやファイアウォールの設定により，ファイルの送信に失敗する場合は，この項目のチェックを外すことで解決できるときがあります。

13. ［メッセージ］テキストエリアに送信するメッセージを入力します。

入力できる文字数は 4,096 文字以内です。

14. ［送信開始］ボタンをクリックします。

送信中は［中止］ボタン以外の画面操作はできません。

ファイルが送信され，［送信結果］画面が表示されます。送信時間には，配送に掛かった時間が表示されます。

> **注　意**
>
> メールアドレスの入力エリアにカーソルがある場合は，［送信開始］ボタンはクリックできません。

15. ［送信結果］画面でタブをクリックすると，表示される情報が切り替わります。

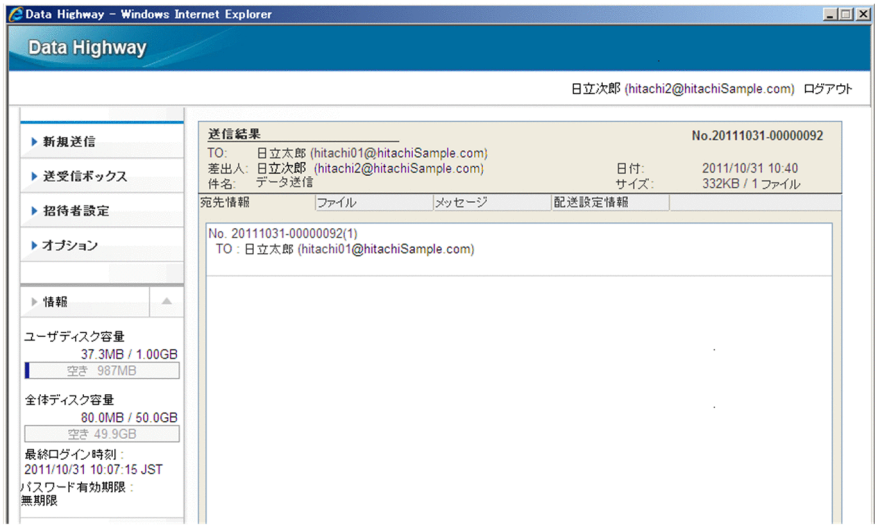


表 3-9　［送信結果］画面の表示項目

項目	説明
［宛先情報］タブ	宛先情報が表示されます。承認が必要な場合は，その旨が表示されます。
［ファイル］タブ	送信したファイルの情報が表示されます
［メッセージ］タブ	配送先ユーザに送信するメッセージが表示されます。
［配送設定情報］タブ	ファイル送信時に設定したオプションの内容が表示されます。 送信時に設定していない項目については，非活性で表示されます。

(2)　システムに未登録の宛先を入力してファイル／メッセージを送信する

代表ユーザ，またはグループ管理者が任意の宛先への送信を許可しているユーザの場合，JP1/DH - Server のシステムに未登録の宛先の場合でも，Email 欄にメールアドレスを直接入力してファイル，およびメッセージを送信できます。また，アドレス帳に登録済みのユーザと同時に送信することも可能です。

システムに未登録の宛先を入力してファイル／メッセージを送信する操作について説明します。

1. JP1/DH - Server にログインします。
   ログインの詳細については「3.2　基本操作」を参照してください。

2. サイドバー領域の［新規送信］をクリックします。
   コンテント領域に［新規送信］画面が表示されます。

3. 差出人情報を指定します。

差出人情報の詳細については，既存のアドレスから宛先を指定する場合と同じです。「(1)　ファイル／メッセージを送信する」を参照してください。

4. ファイル／メッセージの宛先を Email 欄，名前欄のテキストボックスに直接入力します。

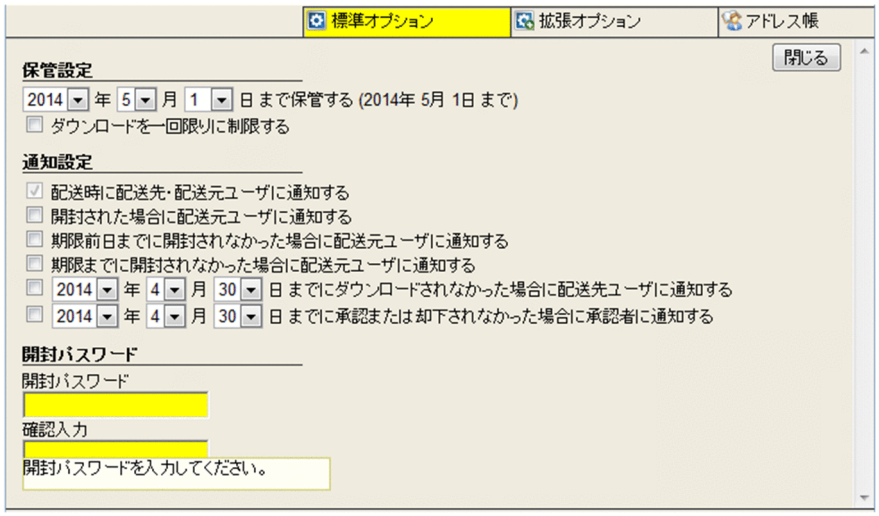
指定できる文字数などの指定規則については，「3.4.2(2)　ユーザを作成する」を参照してください。

5. 必要に応じて，所属と配送メールの言語を設定します。

指定項目については「(1)　ファイル／メッセージを送信する」を参照してください。

6. [標準オプション] タブをクリックして，開封パスワードを設定します。

パスワードは 2 種類以上の文字種を使用して，6～32 文字の範囲で設定します。



注　意

システムに未登録の宛先と，アドレス帳に登録済みの宛先が混在している場合でも，開封パスワードの設定が必要です。

7. 送信するファイル，またはフォルダを指定し，圧縮方式を選択します。

「(1)　ファイル／メッセージを送信する」を参照してください。

8. [メッセージ] テキストエリアに送信するメッセージを入力します。

入力できる文字数は 4,096 文字以内です。

9. [送信開始] ボタンをクリックします。

ファイルが送信され，[送信結果] 画面が表示されます。

[送信結果] 画面の詳細については，「(1)　ファイル／メッセージを送信する」を参照してください。

注　意

- 設定した開封パスワードは，システムに未登録の宛先のユーザがメールを開封する場合に必要となります。JP1/DH - Server とは別の連絡手段で，開封パスワードを通知しておいてください。

  なお，システムに未登録の宛先のユーザと同時に登録済みのユーザ宛てに送信した場合は，未登録の宛先のユーザにだけ連絡してください。システムに登録済みのユーザの場合は，開封パスワードの連絡は必要ありません。

- システムに未登録の宛先の配送ポリシーが定義されていない場合は，任意の宛先への送信を許可されているユーザでも，任意の宛先へ送信することはできません。

3.3.3　メール記載 URL からファイルを受信する

メール記載 URL からファイルを受信する手順について説明します。

(1)　システムに登録済みのユーザがファイルを受信する

システムに登録済みのユーザが，配送メールに記載された URL からファイルを受信する手順について説明します。

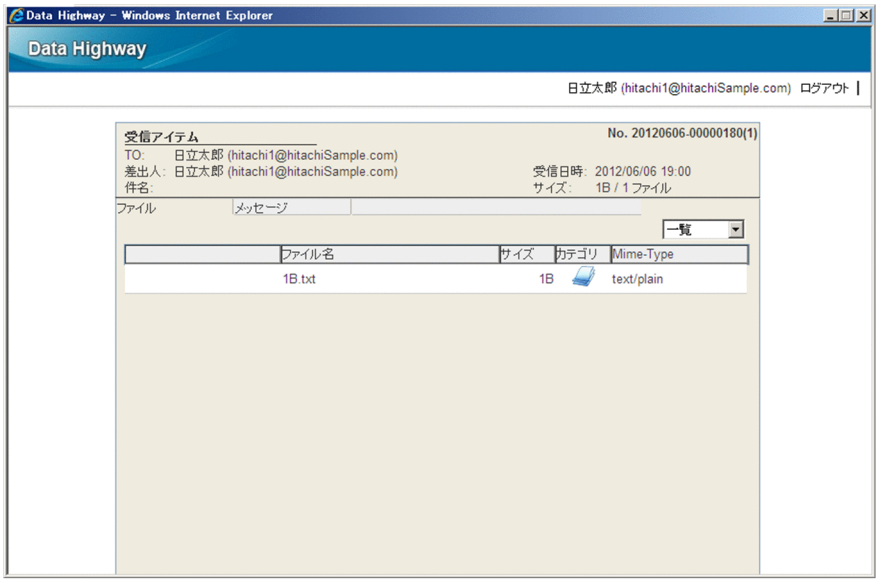
1. 配送メールに記載されている受け取り URL にアクセスします。
   ［データ受信認証］画面が表示されます。

2. JP1/DH - Server にログインします。
   ログインの詳細については「3.2 基本操作」を参照してください。

3. ログインすると［受信データ開封］画面が表示されます。

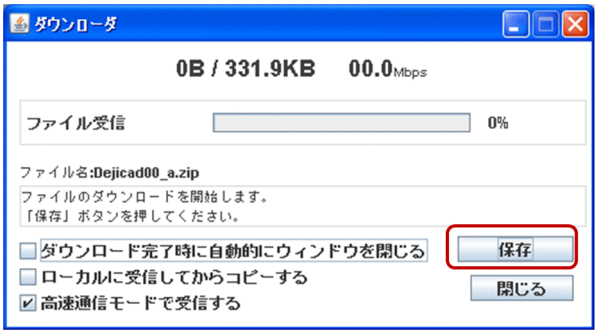
4. ［開封］ボタンをクリックします。
   ［受信アイテム］画面が表示されます。

5. ［ダウンロード］ボタンをクリックします。
   ［ダウンローダ］画面が表示されます。



6. [保存] ボタンをクリックして，ファイルの保存先を選択します。

保存先にローカルフォルダ以外のフォルダを指定する場合は，[ローカルに受信してからコピーする] チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると，選択したファイル/フォルダをダウンロードする時間を短縮できる可能性があります。



注　意

- [ローカルに受信してからコピーする] チェックボックスを選択するときは，対象のファイルやフォルダをローカル環境に受信するための空き容量が必要です。事前に，環境変数 TEMP で指定されているフォルダ内の空き容量が充分かを確認してください。空き容量が不足している場合は，エラーとなります。環境変数 TEMP には実在するフォルダが指定されている必要があります。なお，環境変数 TEMP の場所はご使用のマシンの [システムのプロパティ] で確認できます。
- ダウンロード中にタイムアウトした場合は，ダウンロードに失敗します。保存先にローカルフォルダ以外を指定していた場合は，保存先にローカルフォルダを指定してダウンロードを実行してください。
- [ローカルに受信してからコピーする] チェックボックスを選択した場合，ローカルに受信する時間も含めた時間が監査ログ（received-time）に記録されます。

7. [ダウンロード完了!!] ダイアログが表示されます。

ダウンロード時間には，ダウンロードに掛かった時間が表示されます。

8. [OK] ボタンをクリックします。

ダウンロードが完了します。

(2)　システムに未登録のユーザが受信する

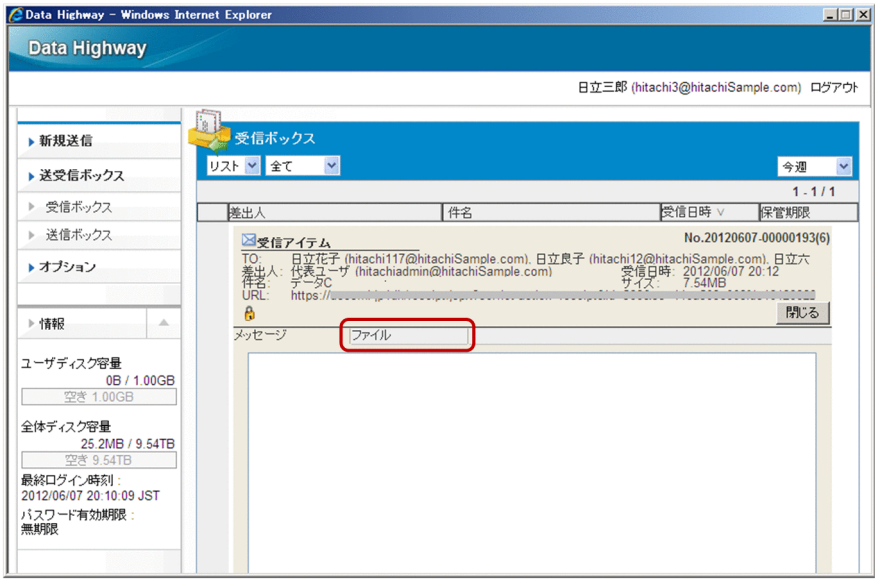
システムに未登録のユーザが，配送メールに記載された URL にアクセスすると，［受信データ開封］画面が表示されます。

この場合は，あらかじめ送信者から連絡された開封パスワードを入力してから［開封］ボタンをクリックすると，ファイルを受信できます。

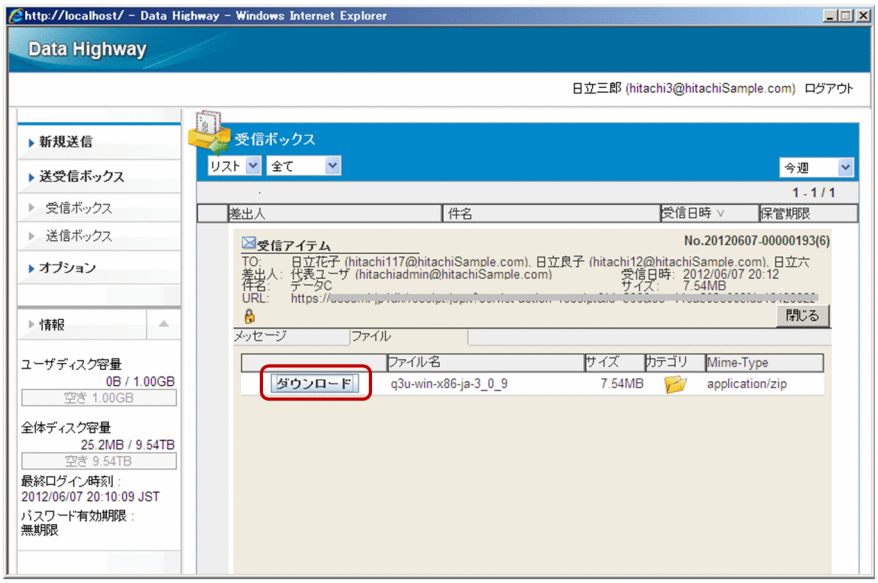
3.3.4　受信ボックスからファイルを受信する

受信ボックスからファイルを受信する手順を次に示します。

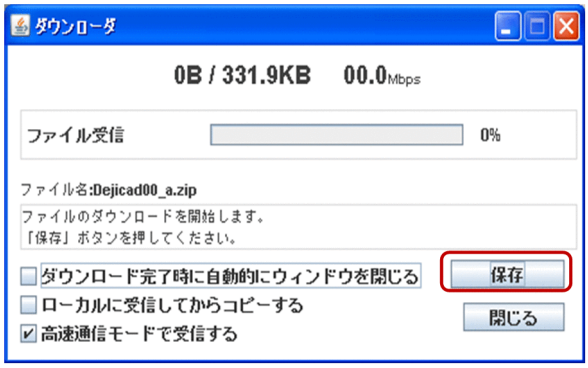
1. サイドバー領域の　［送受信ボックス］ － ［受信ボックス］をクリックします。
   コンテント領域に［受信ボックス］画面が表示されます。
2. 受信ボックスに表示する配送データの処理状況の種類を［未開封］，［開封済み］，［全て］から選択します。
3. 受信する配送データのメニューアイコンをクリックして，［詳細表示］を選択します。
   ［受信アイテム］画面が表示されます。
4. ［ファイル］タブをクリックします。
   受信ファイルの詳細が表示されます。



5. [ダウンロード] ボタンをクリックします。
   [ダウンローダ] 画面が表示されます。



6. [保存] ボタンをクリックして，ファイルの保存先を選択します。
   保存先にローカルフォルダ以外のフォルダを指定する場合は，[ローカルに受信してからコピーする] チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると，選択したファイル/フォルダをダウンロードする時間を短縮できる可能性があります。



注　意

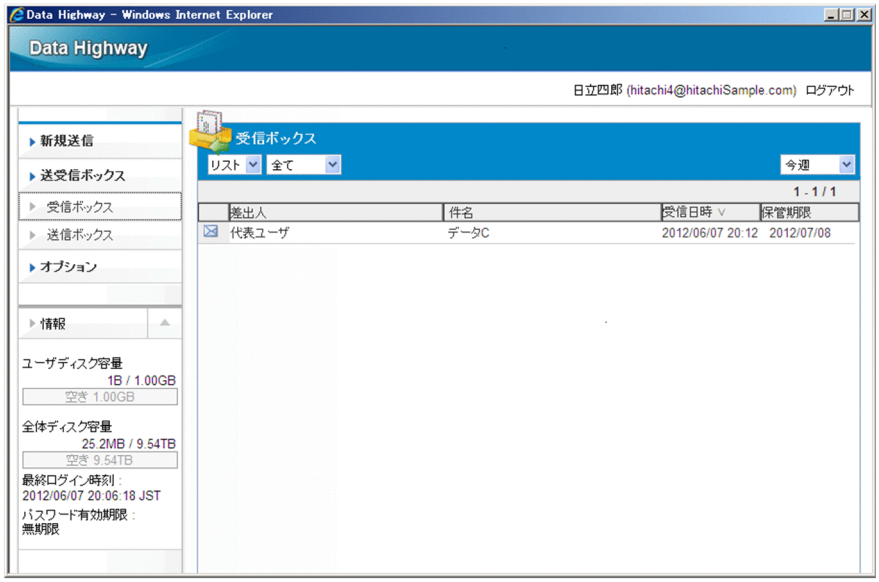
- [ダウンローダ] 画面が表示されている間は [受信ボックス] 画面の操作が行えなくなります。
- [ローカルに受信してからコピーする] チェックボックスを選択するときは，対象のファイルやフォルダをローカル環境に受信するための空き容量が必要です。事前に，環境変数 TEMP で指定されているフォルダ内の空き容量が充分かを確認してください。空き容量が不足している場合は，エラーとなります。環境変数 TEMP には実在するフォルダが指定されている必要があります。なお，環境変数 TEMP の場所はご使用のマシンの [システムのプロパティ] で確認できます。
- ダウンロード中にタイムアウトした場合は，ダウンロードに失敗します。保存先にローカルフォルダ以外を指定していた場合は，保存先にローカルフォルダを指定してダウンロードを実行してください。
- [ローカルに受信してからコピーする] チェックボックスを選択した場合，ローカルに受信したファイルやフォルダを保存先にコピーする時間も含めた時間が監査ログ（received-time）に記録されます。

7. [ダウンロード完了!!] ダイアログが表示されます。
   ダウンロード時間には，ダウンロードに掛かった時間が表示されます。
8. [OK] ボタンをクリックします。
   ダウンロードが完了します。

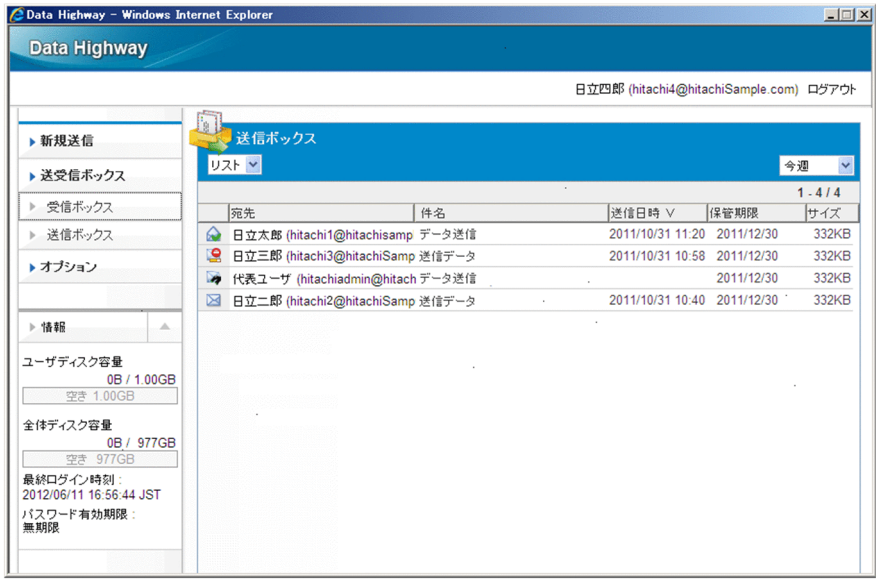
3.3.5　自分の利用履歴を確認／削除する

自分の利用履歴を確認，または削除する手順を次に示します。

1. **サイドバー領域の [送受信ボックス] − [受信ボックス]，または [送信ボックス] をクリックします。**
   [受信ボックス] 画面，または [送信ボックス] 画面がコンテント領域に表示されます。
   - [受信ボックス] 画面



- ［送信ボックス］画面



ドロップダウンリストボックスを選択すると，表示内容を変更できます。

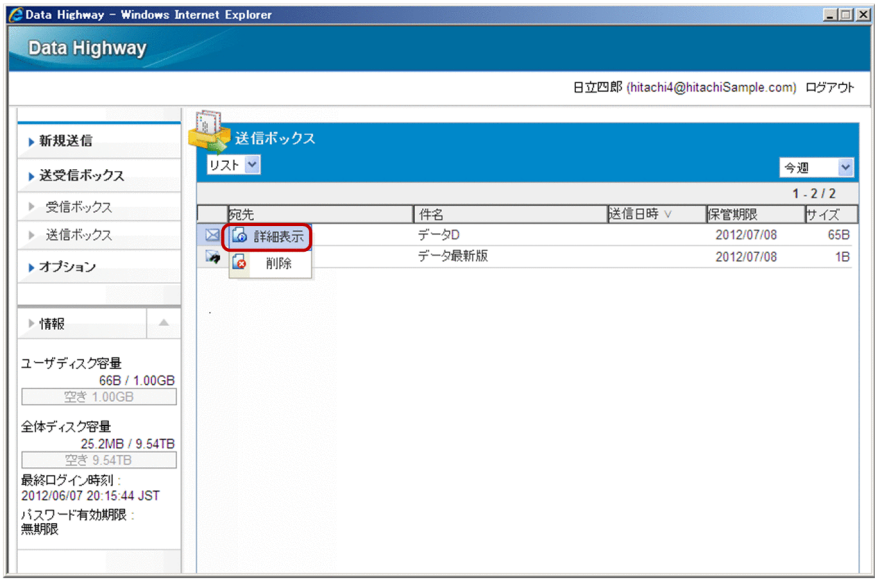
表 3-10　受信ボックス/送信ボックスの設定項目

項目	説明
［表示形式］ドロップダウンリストボックス	次のどちらかの表示形式を選択できます。 • リスト形式 • 概要形式
［処理状況］ドロップダウン リストボックス	受信ボックスの場合に表示されます。配送データの処理状況を選択して表示できます。 • 全て • 未開封 • 開封済み

項目	説明
［表示期間］ドロップダウンリストボックス	一覧に表示する期間を設定できます。なお，選択できる項目は，存在する履歴の日時によって異なります。 各項目の表示期間を次に示します。 • 今日：今日 • 今週：前回の日曜日から今日まで • 一週間前：前々回の日曜日から今日まで • 二週間前：3 回前の日曜日から今日まで • 三週間前：4 回前の日曜日から今日まで • 一ヶ月前：前の月の 1 日から今日まで 「今週」を選択した場合に表示する期間が月をまたぐときは，その月の 1 日からを表示します。 また，一ヶ月より前の履歴が存在する場合は，「YYYY 年 MM 月」の形式で表示されます。

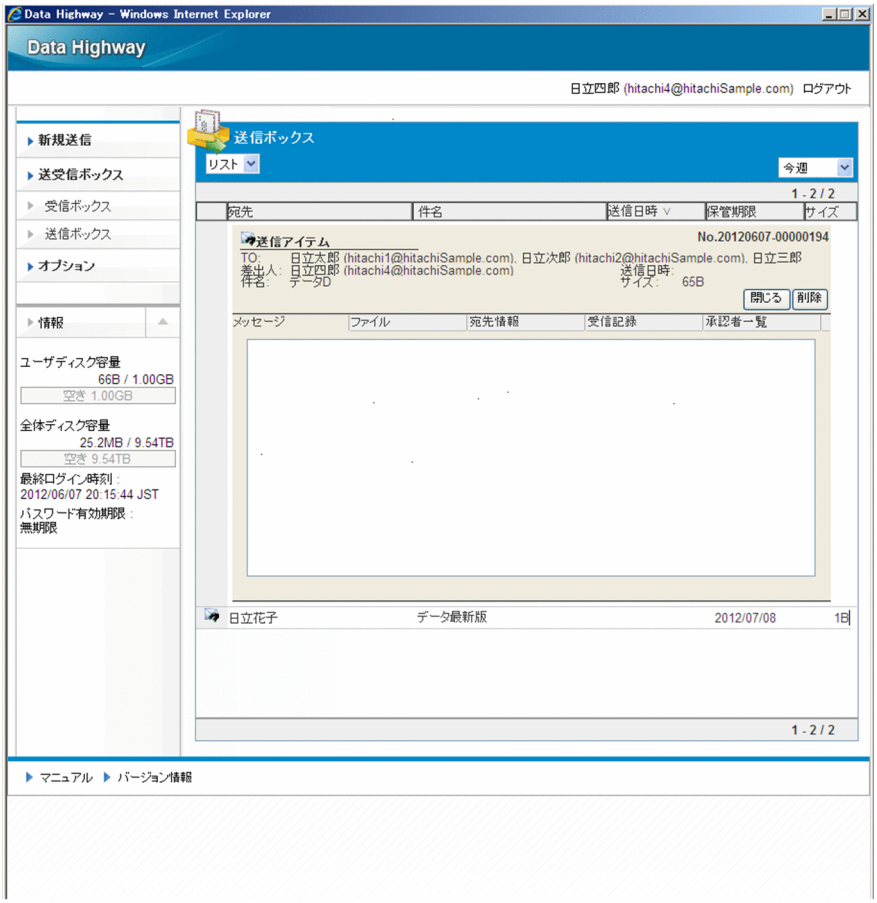
2. 履歴の詳細情報を確認する場合は，メニューアイコンをクリックして，［詳細表示］を選択します。

［履歴詳細情報］画面が表示されます。なお，送信者が削除，または無効となっている場合は，詳細表示を開くことはできません。



3. ［履歴詳細情報］画面の各タブの表示内容を次に示します。なお，［宛先情報］タブ，［受信記録］タブ，［承認者一覧］タブは［送信ボックス］画面から詳細情報を表示した場合にだけ表示されます。

- ［メッセージ］タブ：受発信したメッセージが表示されます。
- ［ファイル］タブ：ファイル名やサイズなどのファイルの詳細情報が表示されます。［ダウンロード］ボタンをクリックすると，ファイルのダウンロードができます。
- ［宛先情報］タブ：宛先の情報が表示されます。
- ［受信記録］タブ：受信者のファイル受信状況が表示されます。
- ［承認者一覧］タブ：承認が必要な配送の場合に表示されます。承認者の一覧を確認できます。ただし，すべての承認者が削除されている場合は，［承認者一覧］タブは表示されません。



補足説明

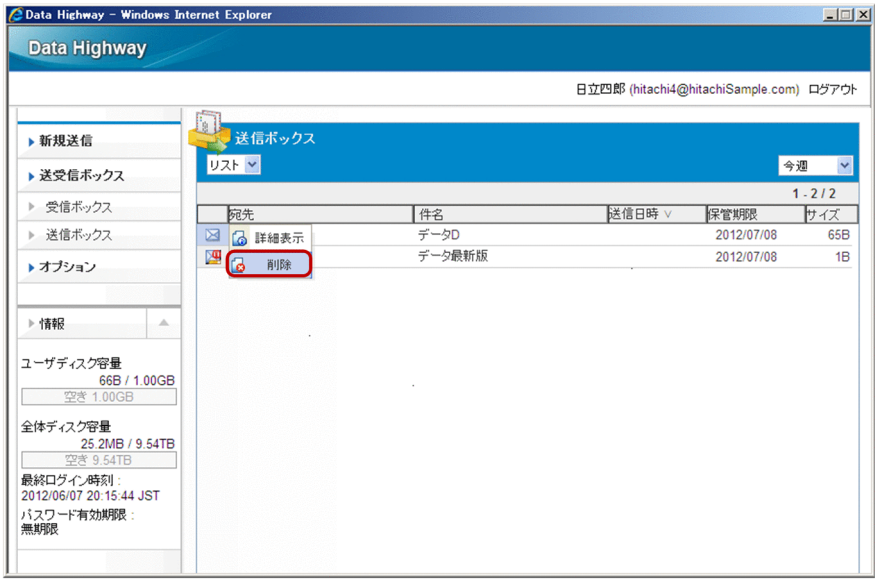
- ［送信ボックス］画面から表示した詳細情報の場合は，［削除］ボタンのクリックで送信済ファイルを削除できます。ファイルを削除するとその配送の受信者は，ファイルをダウンロードできなくなります。
- 複数のファイルを一度に送信した場合は，［受信記録］タブでどのファイルを受信者がダウンロードしたかを確認できます。ダウンロードされていないファイルの場合は，ファイル名が灰色で表示されます。

  ただし，ユーザが受信ボックス以外から受信した場合，および配送メールに記載されている受け取り URL 以外から受信した場合は，ダウンロード済みの表示となりません。

4. ［閉じる］ボタンをクリックすると，［受信ボックス］画面または［送信ボックス］画面に戻ります。

5. ［送信ボックス］画面から履歴および送信済のファイルを削除する場合は，削除する履歴のメニューアイコンをクリックして，［削除］を選択します。

確認ダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると，履歴が削除されます。



3.3.6　承認申請管理

承認申請管理の操作について説明します。

なお，代表ユーザが配送ルールで承認ルートを設定していない場合，サイドバー領域の［承認申請管理］は表示されません。

(1)　メール記載 URL から承認申請を許可／却下する

承認申請のお知らせメールに記載された URL から，承認申請を許可／却下する手順を次に示します。

1. 承認申請のお知らせメールに記載された URL にアクセスします。

   ［ユーザ認証］画面が表示されます。

   > **注　意**
   >
   > JP1/DH - Server に電子証明書でログインする設定の場合は，配送メールに記載された URL にアクセスすると，［データ受信認証］画面が表示されます。この場合は，代表ユーザから発行された電子証明書を利用してログインします。電子証明書を利用したログインの詳細については，「3.2.3　［電子証明書認証］で JP1/DH - Server にログインする」を参照してください。

2. JP1/DH - Server にログインします。

   ログインの詳細については「3.2　基本操作」を参照してください。

   ［送信承認］画面が表示されます。

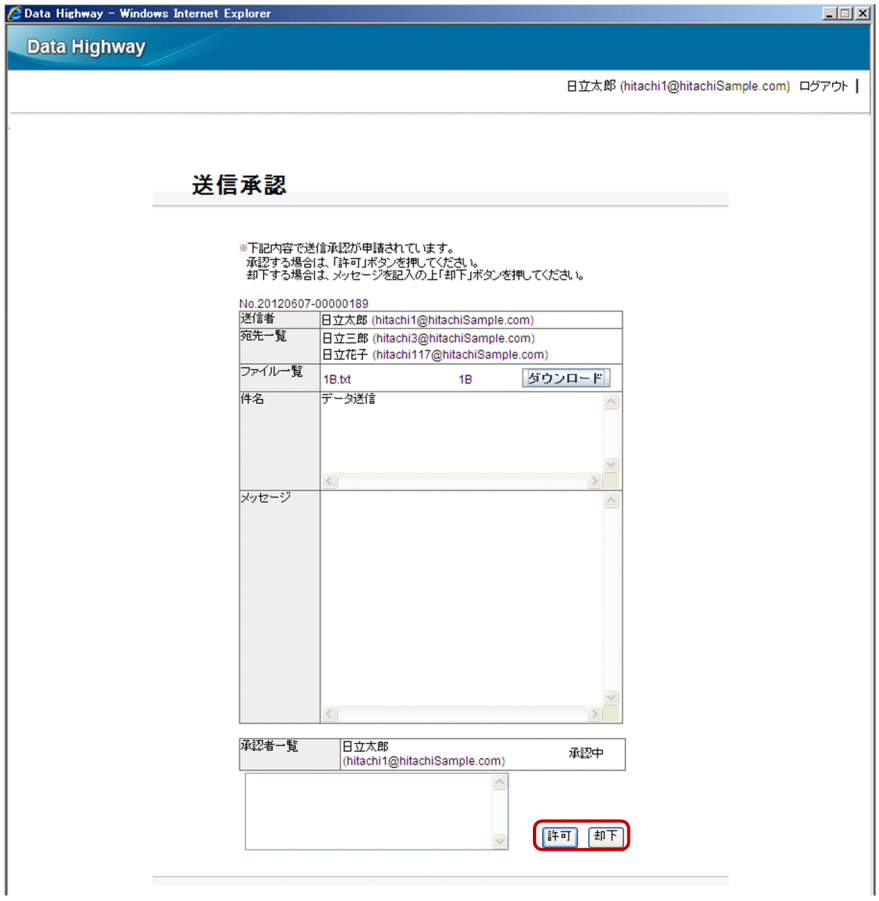
3. 許可，または却下理由を入力します。

   却下する場合は，4,096 文字以内で必ず却下理由を入力する必要があります。許可する場合は，理由の入力は任意です。

4. 許可する場合は［許可］ボタンを，却下する場合は［却下］ボタンをクリックします。

   確認ダイアログが表示されます。

   ［OK］ボタンをクリックすると，許可または却下を実行します。



注　意

JP1/DH - Server を引き続き利用する場合は，ブラウザを再起動してください。

(2)　承認申請を許可／却下する

［承認申請一覧］画面から承認申請を許可または却下する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［承認申請管理］をクリックします。

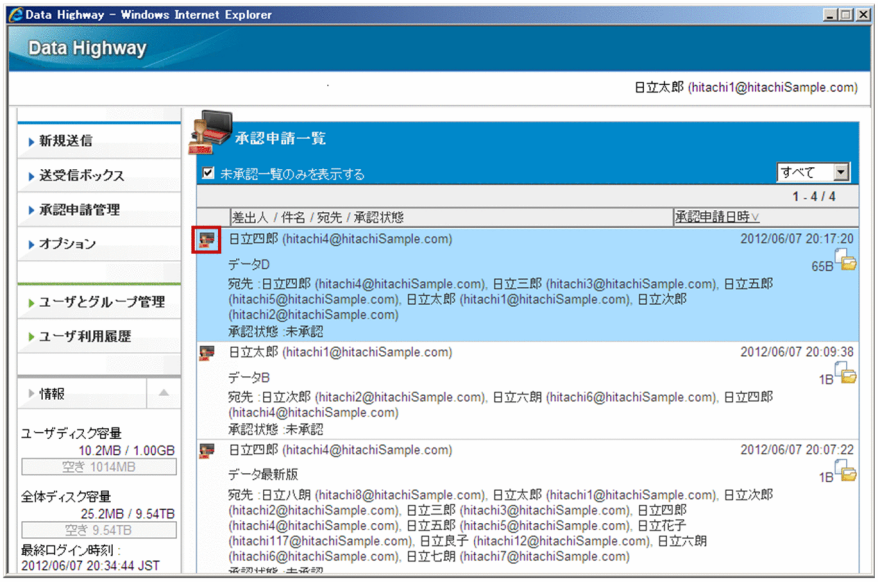
2. コンテント領域に［承認申請一覧］画面が表示されます。

3. ［未承認一覧のみを表示する］チェックボックスを選択すると，未承認の申請だけが表示されます。チェックを外すと，すべての申請が一覧に表示されます。

   表示する期間を絞り込む場合は［表示期間］ドロップダウンリストボックスで選択します。

4. 処理を行う申請をクリックします。

   ［承認申請詳細］画面が表示されます。

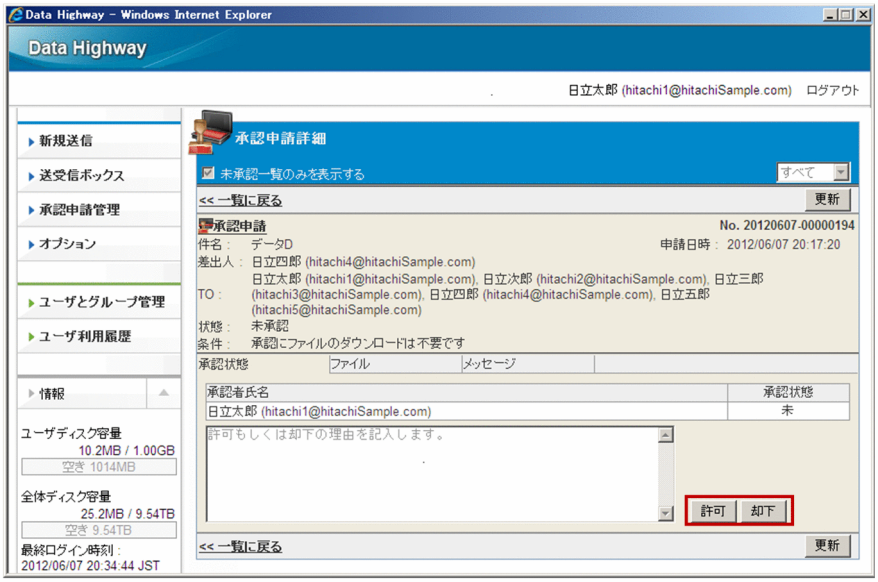


5. 許可，または却下理由を入力します。

   却下する場合は，4,096 文字以内で必ず却下理由を入力する必要があります。許可する場合は，理由の入力は任意です。

6. 許可する場合は［許可］ボタンを，却下する場合は［却下］ボタンをクリックします。

   確認ダイアログが表示されます。［OK］ボタンをクリックすると，許可または却下を実行します。



注　意

［OK］ボタンをクリックしても反応がない場合，他の承認者によって承認申請が許可/却下された可能性があります。［更新］ボタンをクリックして，最新の承認状態を確認してください。

3.3.7　招待者設定

招待者設定の操作について説明します。

なお，招待者の使用が許可されていない場合，サイドバー領域の［招待者設定］は表示されません。また，招待者の使用が許可されている場合でも，招待者グループが作成されていないときは招待者の機能は使用できません。

招待者の使用権限を与える方法については，「3.4.2(3)　ユーザを編集する」を，招待者グループを作成する方法については，「3.4.2(8)　グループを作成する」を参照してください。

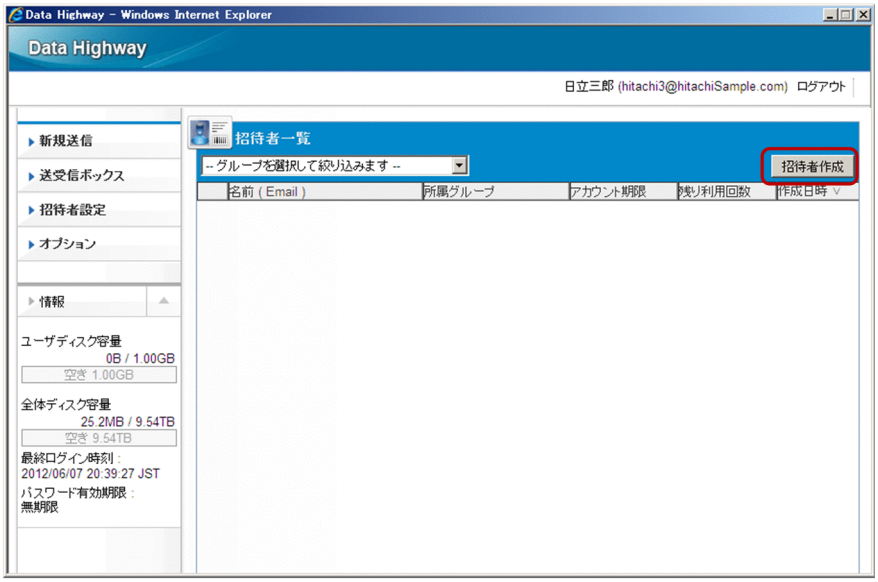
(1)　招待者を作成する

招待者を作成する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［招待者設定］をクリックします。
   ［招待者一覧］画面が表示されます。

2. ［グループ選択］ドロップダウンリストボックスでグループを選択すると，そのグループに所属している招待者だけを表示できます。

3. ［招待者作成］ボタンをクリックします。
   ［新規招待者］画面が表示されます。



4. [新規招待者] 画面で次の項目を指定します。

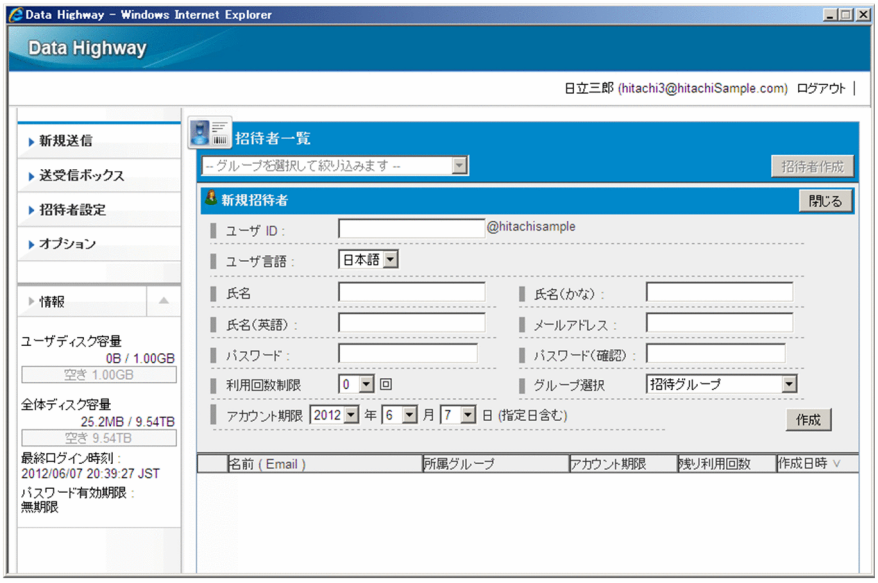


表 3–11　[新規招待者] 画面の設定項目

項目	説明
[ユーザ ID] テキストボックス	招待者のユーザ ID を入力します。 ここで入力した値に，ドメインに割り当てられる ID（テキストボックスの右側に「@～」の形式で表示されている文字列）を付与したものがユーザ ID になります。ユーザ ID はドメインごとに一意である必要があります。 • ドメインに割り当てられる ID も含めて，Windows の場合は 100 文字まで，Linux の場合は 256 文字までの半角英数字と記号を入力できます。 • 記号(/¥?*:|”<>#@^[]$)，空白は使用できません。 • ピリオド(.)だけは使用できません。 • Windows の予約語※は入力できません。

項目	説明
[ユーザ言語] ドロップダウンリストボックス	招待者の言語を選択します。 日本語，英語，中国語のどれかを選択できます。
[氏名] テキストボックス	招待者の氏名を入力します。 • 入力できる文字数は 256 文字以内です。 • 記号(/¥?*:|"<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。
[氏名(かな)] テキストボックス	招待者の氏名をかな表記で入力します。 • 入力できる文字数は 256 文字以内です。 • 記号(/¥?*:|"<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。
[氏名(英語)] テキストボックス	作成する招待者の氏名を英語表記で入力します。 • 256 文字以内の半角英数字と記号を入力できます。 • 記号(/¥?*:|"<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。
[メールアドレス] テキストボックス	招待者のメールアドレスを入力します。 ここで入力したメールアドレスに，配送や承認などの通知メールが配信されます。 • 256 文字以内の半角英数字と記号を入力できます。 • 記号(/¥?*:|"<>^)，空白は使用できません。
[パスワード] テキストボックス	招待者のパスワードを入力します。
[パスワード(確認)] テキストボックス	• 入力できる文字数，文字の種類は，認証ルールで設定された文字数以内の半角英数字と記号です。 • 使用できる記号は「!"#$%&' ()*+,-./:;<=>?@[¥]^_`{|}~」です。
[利用回数制限] ドロップダウンリストボックス	1～10 までの範囲で，ファイル／メッセージを送信できる回数を選択します。 利用回数制限に指定した回数だけファイルの送信を実行すると，それ以上送信することはできません。この場合でも，JP1/DH - Server にログインしてファイルを受信することは可能です。
[グループ選択] ドロップダウンリストボックス	グループ種別が「招待者グループ」のグループが表示されます。招待者が所属するグループを選択します。
[アカウント期限] ドロップダウンリストボックス	招待者に設定したアカウントの利用期限を指定します。 ここで指定した期限を過ぎると，この招待者は JP1/DH - Server にログインできなくなります。 [招待者設定] 画面，[ユーザとグループ管理] 画面では参照することが可能で，アカウント期限を変更することで招待者は再びログインすることが可能になります。

注※　Windows の予約語を次に示します。

- 先頭が半角スペースまたは半角ピリオド
- 末尾が半角スペースまたは半角ピリオド
- 文字「0x00～0x31」
- 次の文字，およびこの文字に拡張子をつけたもの

"CON", "PRN", "AUX", "CLOCK$", "NUL",COM0, "COM1", "COM2", "COM3", "COM4", "COM5", "COM6", "COM7", "COM8", "COM9",LPT0, "LPT1", "LPT2", "LPT3", "LPT4", "LPT5", "LPT6", "LPT7", "LPT8", "LPT9"

- ルート（ドライブ直下）には，次のファイル名，およびディレクトリ名は使用できません。
  "$AttrDef", "$BadClus", "$Bitmap", "$Boot", "$LogFile", "$MFT", "$MFTMirr", "pagefile.sys", "$Secure", "$UpCase", "$Volume", "$Extend", "$Extend¥$ObjId", "$Extend¥$Quota", "$Extend¥$Reparse" ($Extend is a directory)

5. [作成] ボタンをクリックします。
   招待者が作成されます。
   招待者へユーザ ID とパスワードを連絡したあと，パスワードを変更させてください。

(2) 招待者を編集する

招待者を編集する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［招待者設定］をクリックします。
   ［招待者一覧］画面が表示されます。
   ［招待者一覧］画面については「(1) 招待者を作成する」を参照してください。

2. 編集する招待者のメニューアイコン( )をクリックして，［編集］を選択します。
   ［招待者編集］画面が表示されます。

3. 設定を変更します。
   項目の内容については「(1) 招待者を作成する」を参照してください。

4. [更新] ボタンをクリックします。
   招待者の設定が更新されます。

補足説明

編集対象の招待者が，招待者グループ以外から招待者グループに変更されたユーザで電子証明書が発行されている場合は，ユーザ ID を編集（大文字・小文字の変更も含む）すると，発効された電子証明書は無効化されます。このため，このユーザを招待者グループ以外のグループに変更した場合には，発行済みの電子証明書を利用したログインはできなくなります。

(3)　招待者を有効化／無効化／削除する

招待者を有効化，無効化，または削除する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［招待者設定］をクリックします。

   ［招待者一覧］画面が表示されます。［招待者一覧］画面については「(1)　招待者を作成する」を参照してください。

2. 処理を行う招待者をクリックして，メニューを選択します。

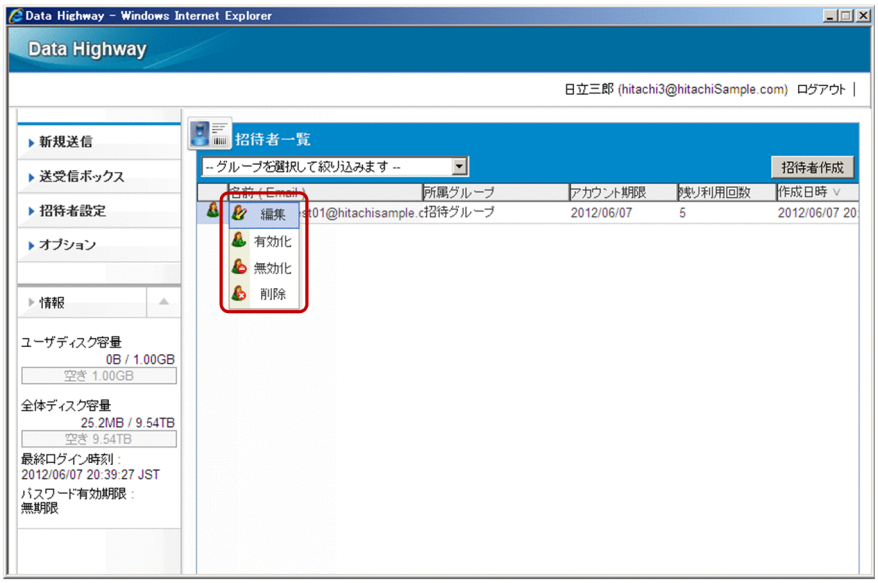


表 3-12　招待者の有効／無効／削除

項目	説明
［有効］	招待者を有効化します。 招待者がアカウントロックされている場合は，ロックが解除されます。
［無効］※	招待者を無効化します。 無効化した招待者は，JP1/DH - Server の利用ができなくなります。有効化すると，再び利用可能となります。
［削除］※	招待者を削除します。一度削除した招待者を元に戻すことはできません。

注※

承認ルートの承認者に設定されたユーザを無効化，または削除した場合，承認者がいない承認ルートとなるときがあります。承認者がいない承認ルートを利用する配送ルールで配送が行われた場合は，承認なしとなります。

3. 選択したメニューに応じた確認ダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると，処理が実行されます。

3.3.8 オプション

オプションの操作について説明します。管理者によってオプションの利用が許可されていない場合，この機能は利用できません。

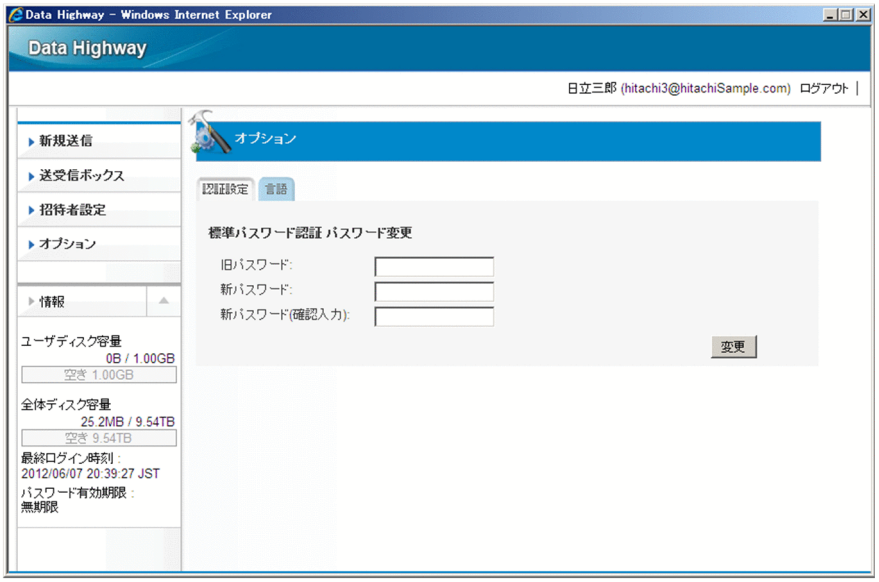
(1) パスワードを変更する

パスワードを変更する手順を次に示します。パスワードを変更するには，変更前のパスワードが必要です。なお，電子証明書を利用してログインした場合は，パスワードの変更はできません。

1. サイドバー領域の［オプション］ − ［認証設定］タブをクリックします。
   コンテント領域に［標準パスワード認証 パスワード変更］画面が表示されます。

2. [旧パスワード] に変更前のパスワードを，［新パスワード］/［新パスワード(確認入力)］に新しいパスワードを入力します。
   パスワードとして入力できる文字数，文字の種類は，認証ルールで設定された文字数以内の半角英数字と記号です。使用できる記号は「!”#$%&’()*+,-./:;<=>?@[¥]^_`{|}~」です。

3. [変更] ボタンをクリックします。
   パスワードが変更されます。変更したことを確認するダイアログが表示されます。



4. [OK] ボタンをクリックします。

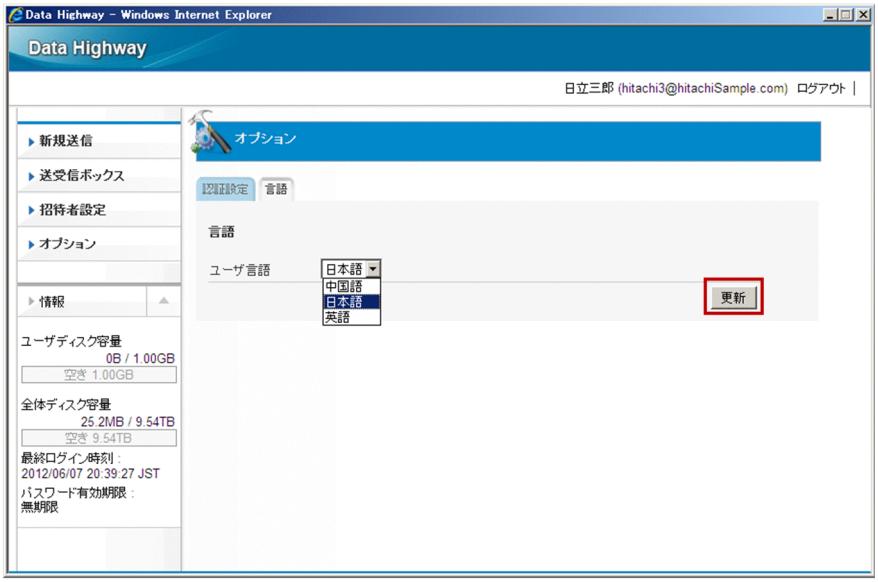
(2) メール言語を変更する

ユーザに配信されるメールの言語を変更する手順について次に示します。なお，配送通知メールの言語は送信者が選択します。

1. サイドバー領域の［オプション］－［言語］タブをクリックします。
   コンテント領域に［言語］画面が表示されます。

2. ［ユーザ言語］ドロップダウンリストボックスでメール言語を選択します。
   ユーザ言語は，日本語，中国語，英語が選択できます。

3. ［更新］ボタンをクリックします。
   ユーザ言語が変更されます。変更したことを確認するダイアログが表示されます。



4. ［OK］ボタンをクリックします。

3.4　グループ管理者が行う操作

ここでは，グループ管理者が行う操作について説明します。これらの操作は，代表ユーザでも行うことができます。

3.4.1　操作の一覧

グループ管理者が行う操作の一覧を次に示します。

表 3-13　グループ管理者の操作一覧

機能／分類	操作	参照先
ユーザとグループ管理	ユーザとグループを検索する	3.4.2(1)
	ユーザを作成する	3.4.2(2)
	ユーザを編集する	3.4.2(3)
	ユーザを有効化／無効化／削除する	3.4.2(4)
	電子証明書を発行する	3.4.2(5)
	電子証明書を無効化する	3.4.2(6)
	電子証明書を再発行する	3.4.2(7)
	グループを作成する	3.4.2(8)
	グループを編集する，グループ管理者を設定する	3.4.2(9)
	グループを有効化／無効化／削除する	3.4.2(10)
ユーザ利用履歴	ユーザ利用履歴を確認／削除する	3.4.3(1)

3.4.2　ユーザとグループ管理

ユーザとグループを管理する操作について説明します。

なお，JP1/DH - Server ではユーザの種類に応じて，表示する色が異なります。次の表にユーザの種類と表示色の関係を示します。

表 3-14　ユーザの種類と表示色の関係

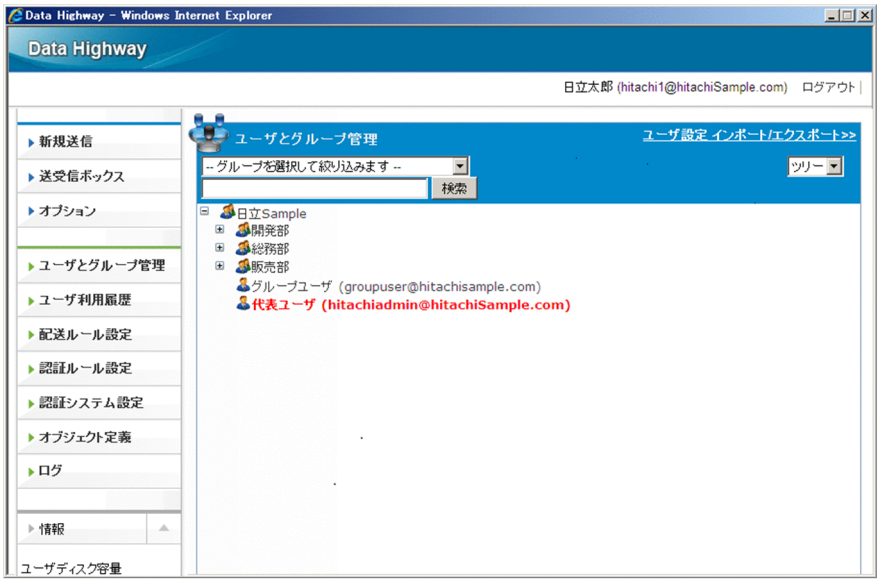
表示色	ユーザの種類
赤（太字）	代表ユーザ
青	グループ管理者
黒	一般ユーザ，または招待者

表示色	ユーザの種類
水色	読み取り専用のグループ管理者
灰色	読み取り専用の一般ユーザ

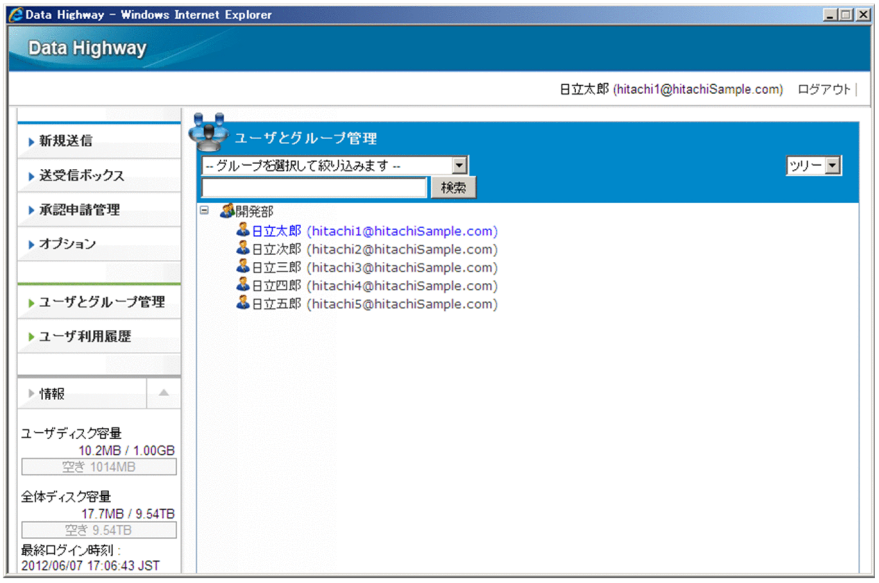
代表ユーザとグループ管理者ユーザごとに表示される［ユーザとグループ管理］画面を次に示します。

なお，画面表示は［表示形式］ドロップダウンリストボックスで，ツリー形式，一覧形式のどちらかを選択できます。

- 代表ユーザの場合：すべてのグループが表示されます。



- グループ管理者ユーザの場合：管理対象となっているグループとその配下のグループが表示されます。

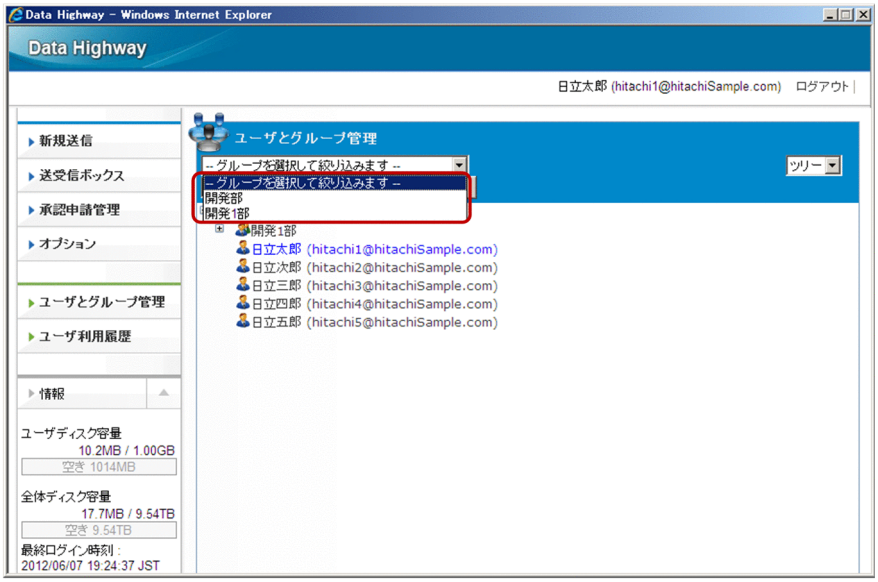


(1) ユーザとグループを検索する

［ユーザとグループ管理］画面でユーザ，またはグループを検索する手順を次に示します。

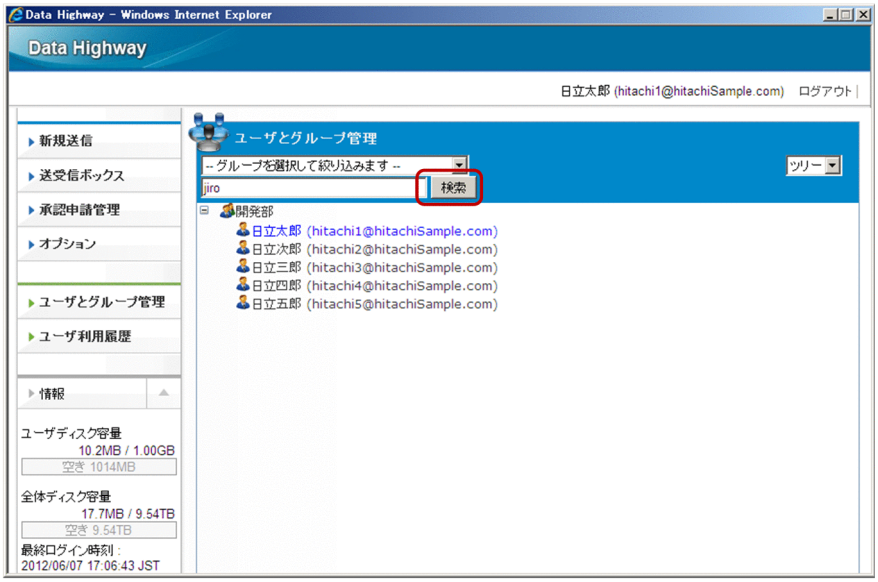
1. サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。

2. ［グループ選択］ドロップダウンリストボックスをクリックすると，ユーザの権限に応じたグループが表示されます。グループを選択すると，該当するグループが画面に表示されます。



3. ユーザ名，またはグループ名を入力して検索する場合は，テキストボックスにキーワードを入力します。
   検索対象となるのは，次の項目です。
   ユーザ ID，名前（日本語/中国語），名前（英語），名前（かな），メールアドレス，グループ名（日本語/中国語），グループ名（英語）
   なお，英字の大文字・小文字は区別しません。また，総称名（「*」「?」など）での指定はできません。記号を入力した場合は，文字として解釈されます。

4. ［検索］ボタンをクリックします。
   表示形式と同じ形式で，検索結果が表示されます。
   表示形式が一覧表示の場合で検索結果件数が 25 件以上のときは，複数ページで表示されます。表示形式がツリー表示の場合で検索結果件数が 100 件以上のときは，エラーメッセージが表示され，検索がキャンセルされます。
   また，複数のグループに所属しているユーザの場合は，所属しているグループの数に応じた検索結果が表示されます。



［検索結果］画面に表示される項目について，次の表に示します。なお，表示形式がツリー形式の場合は，名前（Email）と所属グループだけが表示されます。

表 3-15　［検索結果］画面の表示項目

項目	説明
名前（Email）	ヒットしたユーザ，またはグループの名前（Email）が表示されます。
所属グループ	ヒットしたユーザ，またはグループの所属グループが表示されます。
作成日時	ヒットしたユーザ，またはグループの作成日時が表示されます。
更新日時	ヒットしたユーザ，またはグループの更新日時が表示されます。
件数	ヒットした件数です。複数のグループに所属しているユーザの場合は，所属しているグループの数に応じた件数となります。
<<最初	［検索結果］画面が 3 ページ目以降の場合に表示されます。 クリックすると，最初のページを表示します。
<前	［検索結果］画面が 2 ページ目以降の場合に表示されます。 クリックすると，前のページを表示します。
次>	2 ページ以上の検索結果が存在する場合に表示されます。 最終ページには表示されません。
最後>>	3 ページ以上の検索結果が存在する場合に表示されます。 最終ページには表示されません。

5. 必要に応じて，検索結果からグループ，またはユーザの参照，編集を行います。

編集操作については「(3)　ユーザを編集する」，または「(9)　グループを編集する」を参照してください。

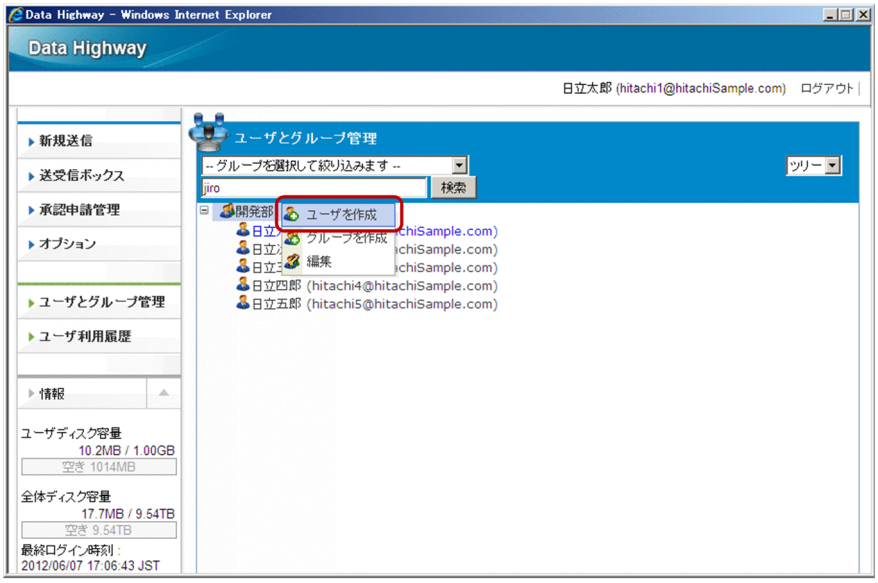
6. サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックすると，検索実行前の状態に戻ります。

(2)　ユーザを作成する

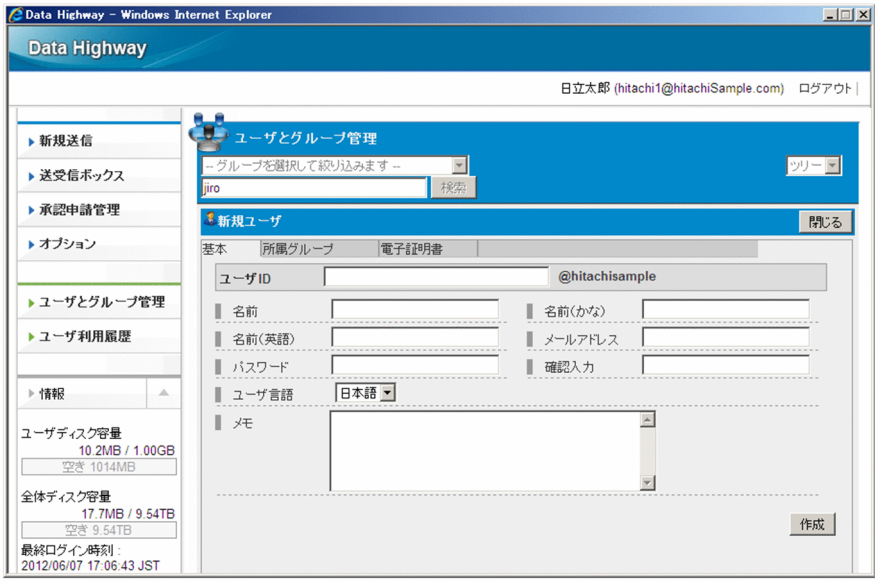
ユーザを作成する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。

2. 作成するユーザを所属させるグループをクリックして，［ユーザを作成］を選択します。
   ［新規ユーザ］画面が表示されます。



3. ［基本］タブの設定をします。



設定する項目を次に示します。

表 3-16　［基本］タブの設定項目

項目	説明
［ユーザ ID］テキストボックス	ユーザ ID を入力します。 ここで入力した値に，ドメインに割り当てられる ID（テキストボックスの右側に「@～」の形式で表示されている文字列）を付与したものがユーザ ID になります。 ユーザ ID はドメインごとに一意である必要があります。 • ドメインに割り当てられる ID も含めて，Windows の場合は 100 文字まで，Linux の場合は 256 文字までの半角英数字と記号を入力できます。 • 記号(/¥?*:|”<>#@^[]$)，空白は使用できません。 • ピリオド(.)だけは使用できません。 • Windows の予約語※は入力できません。
［名前］テキストボックス	ユーザの名前を入力します。 • 入力できる文字数は 256 文字以内です。 • 記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。
［名前(かな)］テキストボックス	ユーザの名前をかな表記で入力します。 • 入力できる文字数は 256 文字以内です。 • 記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。
［名前(英語)］テキストボックス	ユーザの名前を英語表記で入力します。 ここで入力した名前は［電子証明書］の［姓名（Common Name)］テキストボックスに表示されます。 • Windows の場合は 100 文字まで，Linux の場合は 256 文字までの半角英数字と記号を入力できます。 • 記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。
［メールアドレス］テキストボックス	ユーザのメールアドレスを入力します。 設定したメールアドレスに配送や承認などの通知メールが配信されます。また，ここで入力した名前は［電子証明書］の［連絡先 Email］テキストボックスに表示されます。 • 256 文字以内の半角英数字と記号を入力できます。 • 記号(/¥?*:|”<>^)，空白は使用できません。
［パスワード］テキストボックス ［確認入力］テキストボックス	パスワードを入力します。 代表ユーザは，認証ルールを無視してパスワードを設定できます。 • 入力できる文字数，文字の種類は，認証ルールで設定された文字数以内の半角英数字と記号です。 • 使用できる記号は「!”#$%&’()*+,-./:;<=>?@[¥]^_`{|}~」です。 なお，ここで指定するのは JP1/DH - Server で管理するパスワードです。ディレクトリ・サーバを使用して認証する場合でも，ディレクトリ・サーバで管理されているパスワードではなく，JP1/DH - Server のパスワードを指定してください。ディレクトリ・サーバで管理されているパスワードの変更はできません。
［ユーザ言語］ドロップダウンリストボックス	ユーザが使用する言語を選択します。

項目	説明
[ユーザ言語] ドロップダウンリストボックス	日本語，英語，中国語のどれかを選択できます。
[メモ] テキストエリア	ユーザに関するメモを入力します。 入力できる文字数は 4,096 文字以内です。

注※　Windows の予約語を次に示します。

- 先頭が半角スペースまたは半角ピリオド
- 末尾が半角スペースまたは半角ピリオド
- 文字「0x00～0x31」
- 次の文字，およびこの文字に拡張子をつけたもの
  "CON", "PRN", "AUX", "CLOCK$", "NUL",COM0, "COM1", "COM2", "COM3", "COM4", "COM5", "COM6", "COM7", "COM8", "COM9",LPT0, "LPT1", "LPT2", "LPT3", "LPT4", "LPT5", "LPT6", "LPT7", "LPT8", "LPT9
- ルート（ドライブ直下）には，次のファイル名，およびディレクトリ名は使用できません。
  "$AttrDef", "$BadClus", "$Bitmap", "$Boot", "$LogFile", "$MFT", "$MFTMirr", "pagefile.sys", "$Secure", "$UpCase", "$Volume", "$Extend", "$Extend¥$ObjId", "$Extend¥$Quota", "$Extend¥$Reparse" ($Extend is a directory)

4. [所属グループ] タブの設定をします。

設定する項目を次に示します。

表 3-17　[所属グループ] タブの設定項目

項目	説明
[グループ選択] ドロップダウンリストボックス	ユーザが所属するグループを追加します。[追加] ボタンをクリックすると，所属するグループが追加されます。 ユーザは最大 10 個のグループに所属することができます。

項目		説明
［所属グループ一覧］		グループアイコンを選択すると以下のコンテキストメニューが表示されます。 • ［上へ］：グループを 1 つ上へ移動します • ［下へ］：グループを 1 つ下へ移動します • ［削除］：グループを一覧から削除します 一番上に表示されているグループをプライマリグループと呼びます。 プライマリグループの管理者，またはプライマリグループの上位グループの管理者が，このユーザを管理することができます。 招待者の場合は，1 つのグループにだけ所属できます。
［所属する一番上のグループから決定される下記のプロパティを上書きする］ チェックボックス※1		チェックすると次の設定を，所属グループの設定から変更できます。チェックを外すと，プライマリグループのプロパティに従います。 • アカウント期限 • 保管容量 • 宛先の任意入力※2 • オプションの使用 • 招待者の使用 • 招待者利用回数
－	［アカウント期限］チェックボックス※2	チェックすると，アカウントの期限を無期限，または年月日のどちらかで指定できます。チェックを外すと，プライマリグループのプロパティに従うようになります。 ［無期限］チェックボックスにチェックをした場合は無期限となります。 招待者グループの場合は，アカウント期限の変更はできません。
	［保管容量］チェックボックス	チェックすると，保管容量がテキストボックスで指定した値に設定されます。チェックを外すと，プライマリグループのプロパティに従います。
	［宛先の任意入力］チェックボックス※3	送信時に任意の宛先の入力を許可するかどうかを設定します。
	［オプションの使用］チェックボックス	チェックするとオプション（パスワード変更／言語変更）機能の利用を許可するかどうかを設定できます。チェックを外すと利用できなくなります。 利用が許可されていない場合，サイドバー領域の［オプション］は表示されません。
	［招待者の使用］チェックボックス	チェックすると招待者機能の利用を許可するかどうかを設定できます。チェックを外すと利用できなくなります。 利用が許可されていない場合，サイドバー領域の［招待者設定］は表示されません。
	［招待者利用回数］チェックボックス	チェックすると招待者が JP1/DH - Server を利用できる回数を指定できるようになります。 この項目は招待者グループの場合にだけ表示されます。

注※1

招待者グループに対してユーザを作成した場合はこのチェックボックスは非活性となりますが，アカウント期限，保管容量，宛先の任意入力，招待者利用回数，オプションの使用の設定は変更することができます。

注※2

電子証明書を利用する運用の場合，電子証明書の有効期限は 2037 年 12 月 31 日となりますが，ここで設定したアカウントが期限切れとなった場合は，JP1/DH - Server にログインできなくなります。

注※3

設定により表示されない場合があります。

5. [電子証明書] タブの設定をします。

JP1/DH - Server の認証方法で電子証明書を利用する場合は，このタブで［電子証明書を使用する(ローカルに保存)］チェックボックスを選択します。デフォルトでは選択されていません。

なお，招待者グループに対してユーザを作成する場合はこのタブは非活性となります。

「姓名（Common Name)」,「連絡先 Email」には，それぞれ［基本情報］タブの「名前（英語)」,「メールアドレス」に設定した値が表示されます。

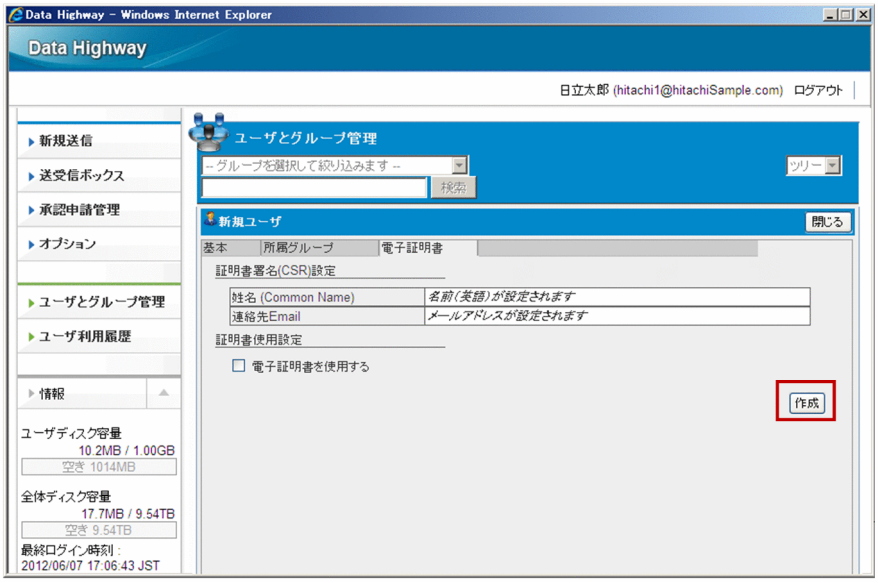
注　意

作成したユーザが電子証明書を利用するためには，ユーザの作成が完了したあと，電子証明書を発行する必要があります。詳細については「(5)　電子証明書を発行する」を参照してください。また，認証方式に電子証明書認証を選択している認証ポリシーを，ユーザが利用する認証ルールに設定する必要があります。詳細については「3.5.4　認証ルール設定」を参照してください。

6. [作成] ボタンをクリックします。

ユーザが作成されます。

ユーザへユーザ ID とパスワードを連絡したあと，パスワードを変更させてください。



(3)　ユーザを編集する

ユーザを編集する手順を次に示します。

注　意

- ユーザ ID を変更した場合（大文字・小文字の変更も含む）は，電子証明書は自動で無効化されます。
- ユーザの所属するグループ種別を招待者グループに変更した場合，電子証明書は有効のままですが，ユーザが電子証明書を利用して JP1/DH - Server にログインすることはできなくなります。

1. サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。

2. 編集するユーザをクリックして，［編集］を選択します。
   ［ユーザ編集］画面が表示されます。

3. 設定を変更します。
   各タブの各項目の内容については，「(2)　ユーザを作成する」を参照してください。
   なお，パスワードを入力しない場合は，パスワードは変更されません。

4. ［更新］ボタンをクリックします。
   更新完了のダイアログが表示されます。

5. ［OK］ボタンをクリックします。

(4)　ユーザを有効化／無効化／削除する

ユーザを有効化，無効化，または削除する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。

2. 処理を行うユーザをクリックして，メニューを選択します。

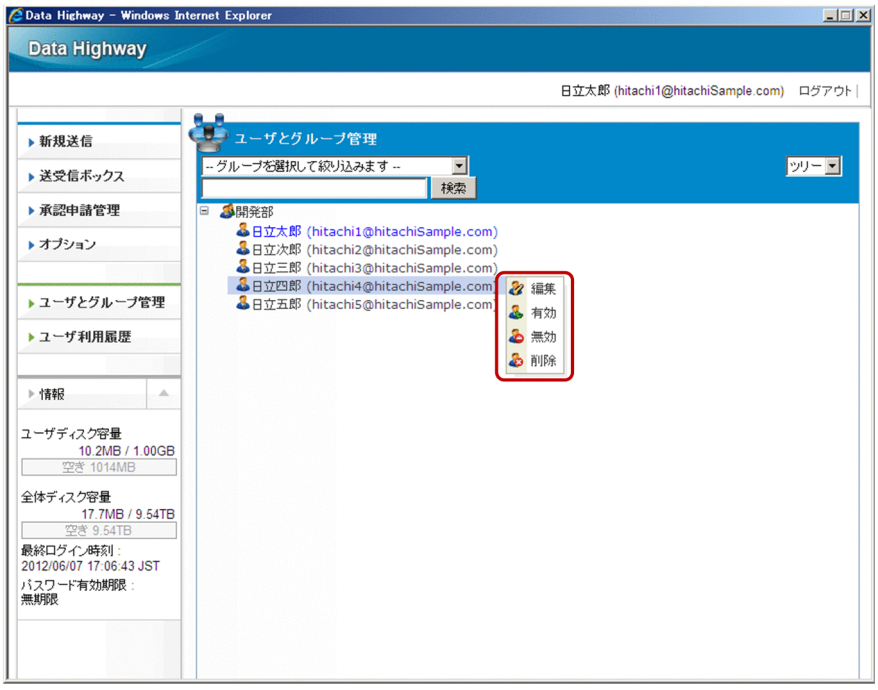


表 3-18　ユーザの有効／無効／削除

項目	説明
［有効］	ユーザを有効化します。

項目	説明
［有効］	ユーザがアカウントロックされている場合は，ロックが解除されます。なお，所属グループがすべて無効化されているユーザの有効化はできません。
［無効］※	ユーザを無効化します。 無効化したユーザは，JP1/DH - Server の利用ができなくなります。有効化すると，再び利用可能となります。
［削除］※	ユーザを削除します。一度削除したユーザを元に戻すことはできません。

注※

- 無効化，または削除するユーザに配送中の配送データがないことを確認してからユーザを無効化，または削除してください。
- 承認ルートの承認者に設定されたユーザを無効化，または削除した場合，承認者がいない承認ルートとなるときがあります。承認者がいない承認ルートを利用する配送ルールで配送が行われた場合は，承認なしとなります。

3. 選択したメニューに応じた確認ダイアログが表示されます。［OK］ボタンをクリックすると，処理が実行されます。

(5) 電子証明書を発行する

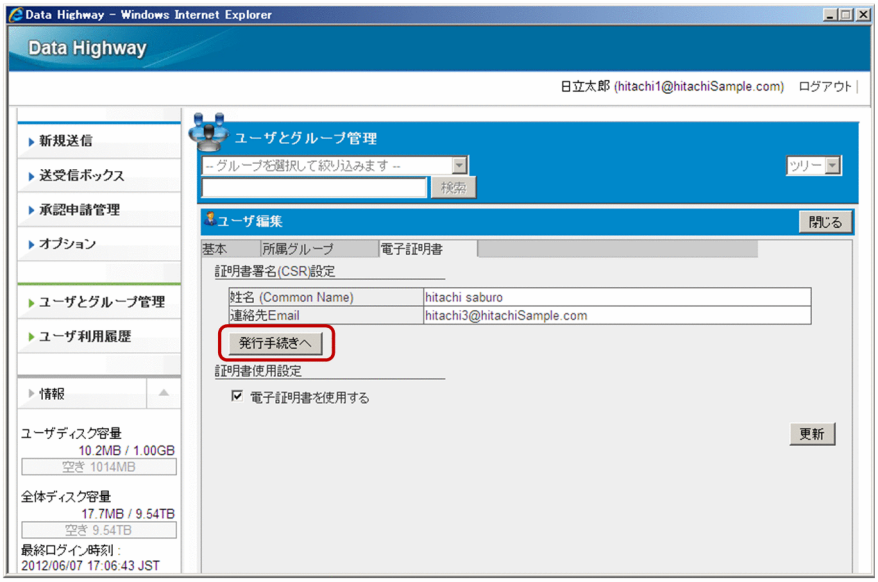
ユーザの作成，または更新の際に［電子証明書を使用する(ローカルに保存)］チェックボックスを選択した場合には，電子証明書を発行できます。

注 意

発行した電子証明書の有効期限は 2037 年 12 月 31 日となります。ただし，アカウントが期限切れとなった場合は，JP1/DH - Server にログインできなくなります。

電子証明書を発行する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。
2. 電子証明書を発行するユーザをクリックして［編集］を選択します。
   ［ユーザ編集］画面が表示されます。
3. ［電子証明書］タブをクリックします。
   ［証明書署名(CSR)設定］画面が表示されます。
4. ［発行手続きへ］ボタンをクリックします。
   ［証明書発行］画面が表示されます。



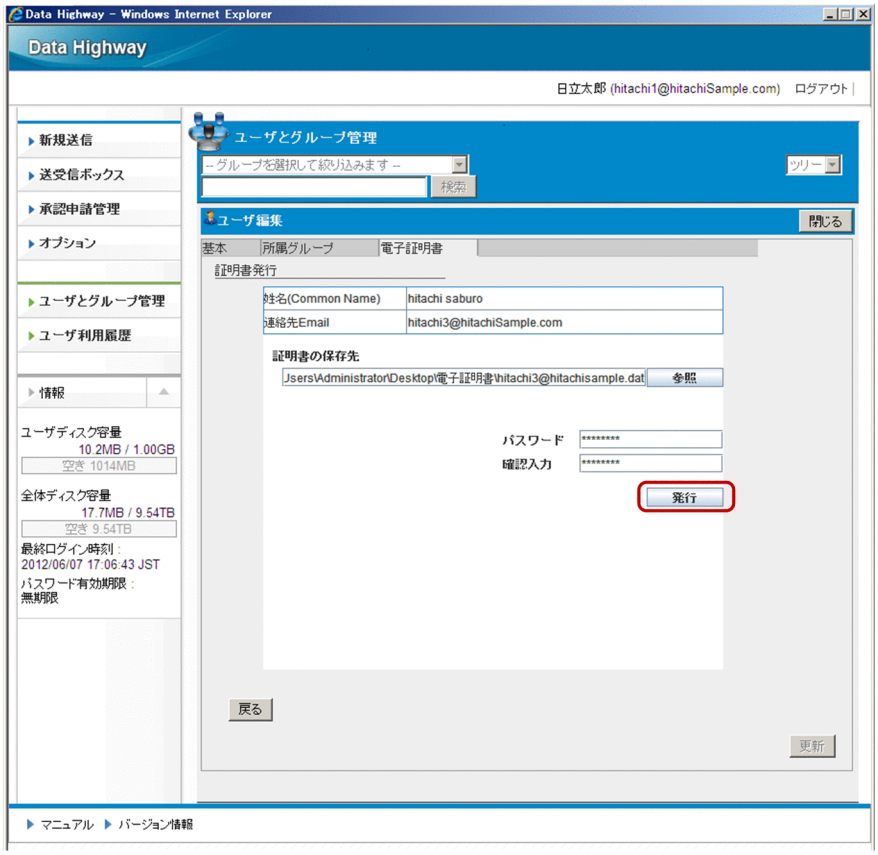
補足説明

ユーザ作成時に［電子証明書］タブで［電子証明書を使用する(ローカルに保存)］チェックボックスを選択していない場合，［発行手続きへ］ボタンは表示されません。この場合は，［電子証明書を使用する(ローカルに保存)］チェックボックスを選択して［更新］ボタンをクリックしてから，もう一度ユーザを編集してください。

5. ［参照］ボタンをクリックして，電子証明書の保管先を選択します。直接ファイルパスを入力することもできます。

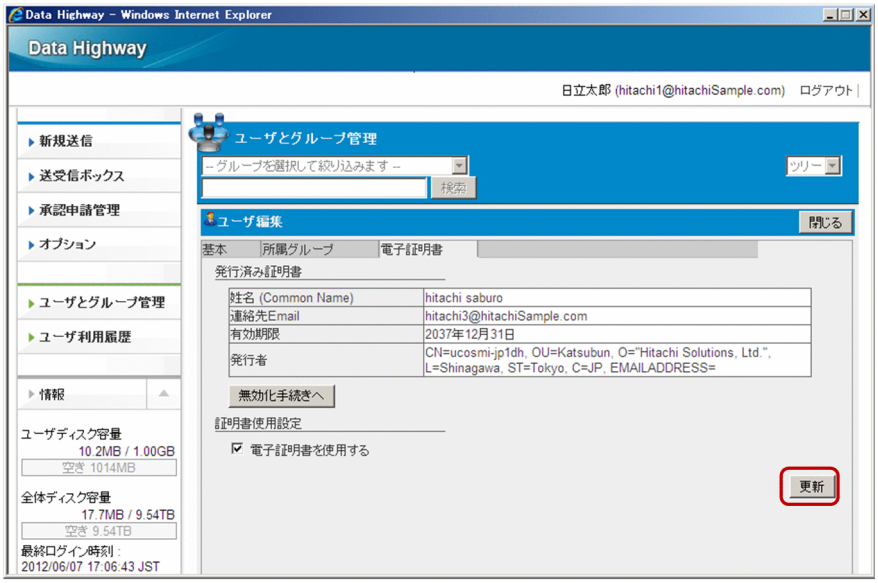
6. ［パスワード］/［確認入力］テキストエリアに，電子証明書を保護するパスワードを入力します。
   パスワードは 2 種類以上の文字種を使用して，6～32 文字の範囲で設定します。

7. ［発行］ボタンをクリックします。
   証明書の発行確認ダイアログが表示されます。



8. [OK] ボタンをクリックします。

［発行済み証明書］画面が表示されます。［更新］ボタンをクリックすると，更新が完了したことを確認するダイアログが表示されます。



9. [OK] ボタンをクリックします。

［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。

注　意

発行された電子証明書認証をユーザが利用するには，認証方式に電子証明書認証を選択している認証ポリシーを，ユーザが利用する認証ルールに設定する必要があります。詳細については「3.5.4　認証ルール設定」を参照してください。

(6)　電子証明書を無効化する

発行済みの電子証明書を無効化する手順を次に示します。

注　意

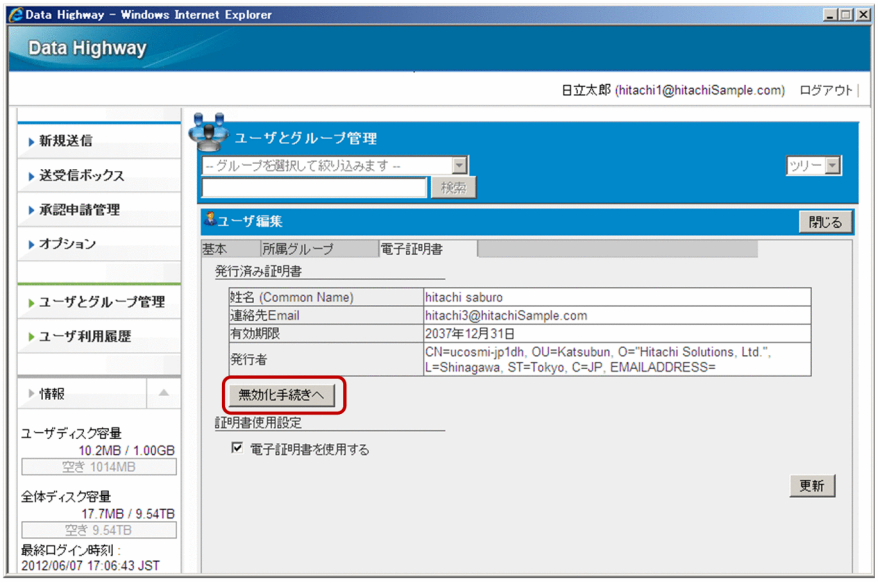
電子証明書を無効化した場合，その電子証明書を利用したログインはできなくなります。

1. サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。

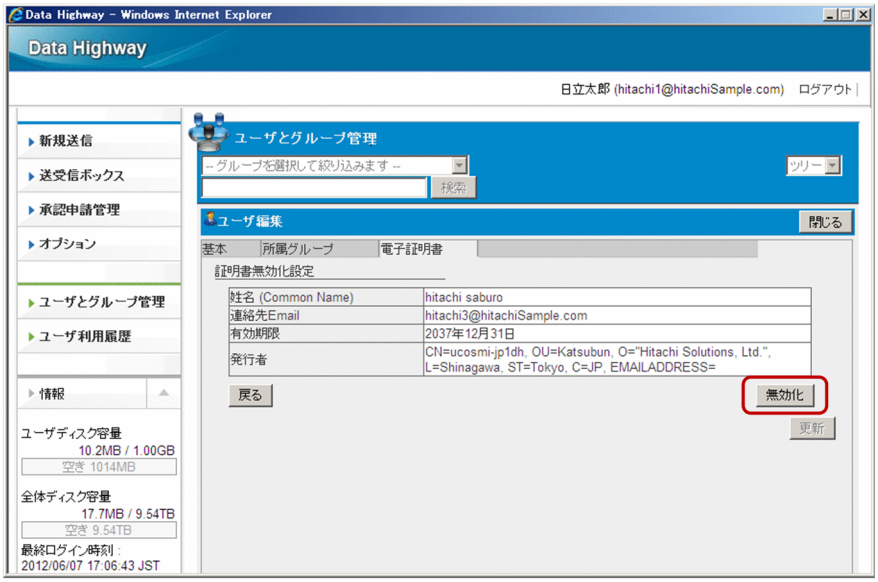
2. 電子証明書を更新/無効化するユーザをクリックして［編集］を選択します。
   ［ユーザ編集］画面が表示されます。

3. ［電子証明書］タブをクリックします。
   ［発行済み証明書］画面が表示されます。

4. ［無効化手続きへ］ボタンをクリックします。
   ［証明書無効化設定］画面が表示されます。



5. ［無効化］ボタンをクリックします。
   ［発行済み証明書（現在証明書は無効です）］画面が表示され，証明書が無効化されたことが表示されます。



(7)　電子証明書を再発行する

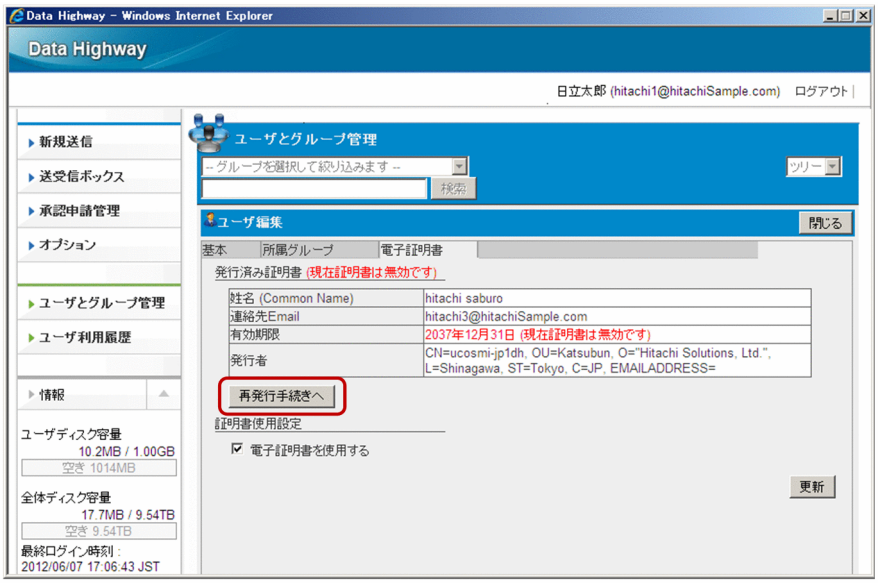
電子証明書を再発行する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。

2. 電子証明書を再発行するユーザをクリックして［編集］を選択します。
   ［ユーザ編集］画面が表示されます。

3. ［電子証明書］タブをクリックします。
   ［発行済み証明書（現在証明書は無効です）］画面が表示されます。

4. ［再発行手続きへ］ボタンをクリックします。
   ［証明書再発行］画面が表示されます。



5. 以降の手順については電子証明書の発行時と同じです。「(5)　電子証明書を発行する」の手順 6.～を参照してください。

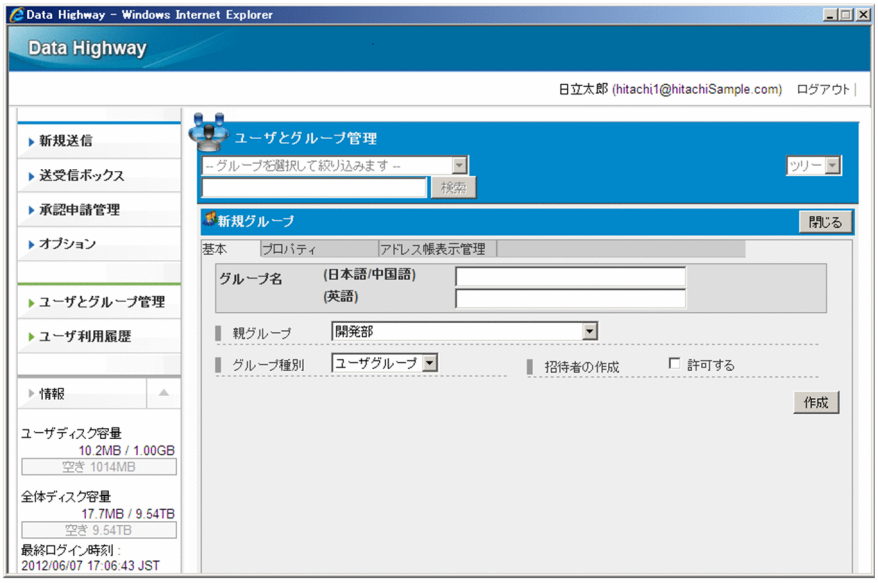
(8)　グループを作成する

グループを作成する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。

2. 作成するグループを所属させるグループをクリックして，［グループを作成］を選択します。
   ［新規グループ］画面が表示されます。

3. ［基本］タブの設定をします。



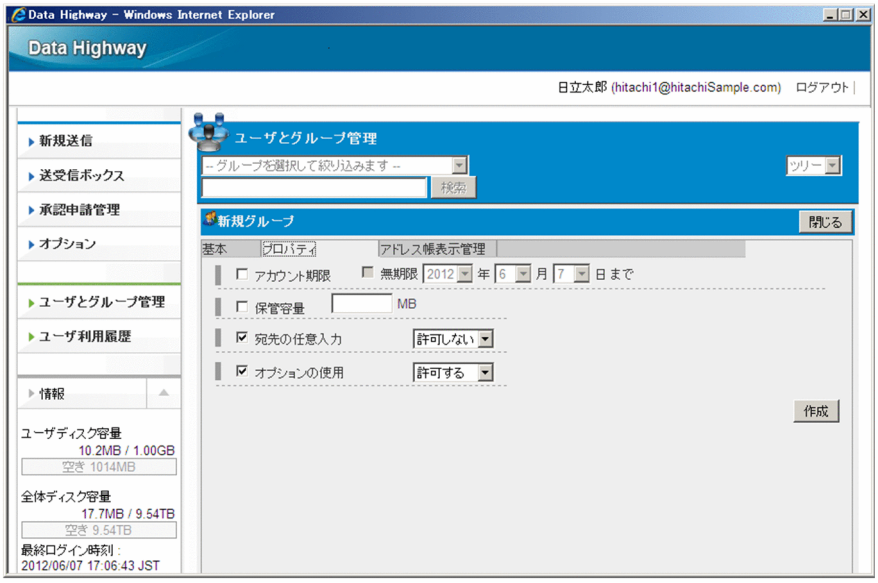
設定項目を次の表に示します。

表 3-19　［基本］タブの設定項目

項目	説明
［グループ名(日本語/中国語)］テキストボックス	グループ名を入力します。 ここで入力した値は，日本語と中国語の画面で表示されます。 • 入力できる文字数は 200 文字以内です。 • 記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。
［グループ名(英語)］テキストボックス	グループ名を入力します。 ここで入力した値は，英語の画面で表示されます。 • 入力できる文字数は 200 文字以内の半角英数字と記号です。 • 記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。

項目	説明
［親グループ］ドロップダウンリストボックス	作成するグループの所属グループを選択します。 グループの階層は一番上位の階層のグループを 1 階層目として，10 階層まで作成することができます。11 階層以上にはできません。 グループの階層が 9 階層以下の親グループを選択してください。
［グループ種別］ドロップダウンリストボックス	次のどちらかのグループ種別を選択します。なお，グループ種別は作成後に変更できません。 • ユーザグループ：招待者以外のユーザ，およびグループを所属させることができます。 • 招待者グループ：招待者を所属させることができます。
［招待者の作成］チェックボックス	チェックすると，グループに所属するユーザが招待者を作成できるようになります。グループ種別が招待者グループの場合，この項目は無効になります。

4. ［プロパティ］タブの設定をします。



設定項目を次の表に示します。

表 3-20　［プロパティ］タブの設定項目

項目	説明
［アカウント期限］チェックボックス※1	チェックすると，アカウントの期限を無期限，または年月日のどちらかで指定できます。チェックを外すと，プライマリグループのプロパティに従うようになります。 招待者グループの場合は，この項目は表示されません。
［保管容量］チェックボックス	チェックすると，グループに所属するユーザの保管容量を設定できます。設定可能な容量は，システム管理者によって割り当てられます。 チェックを外すと 1 GB となります。
［宛先の任意入力］チェックボックス※2	送信時にシステムに未登録の宛先の入力を許可するかどうかを設定します。デフォルトでは選択されていません。 ［宛先の任意入力］チェックボックス選択すると，次のどちらかを指定できます。

項目	説明
［宛先の任意入力］チェックボックス※2	• 許可する：システムに未登録の宛先の入力を許可します。Email 欄にアドレスを入力して，システムに登録されていないユーザにメールを送信できます。 • 許可しない：Email 欄への宛先の入力を許可しません。ユーザは自分のアドレス帳に表示されているユーザから宛先を選んで，メールを送信できます。
［オプションの使用］チェックボックス	オプション機能の使用を許可するかどうかを設定します。 使用が許可されていない場合，サイドバー領域の［オプション］は表示されません。

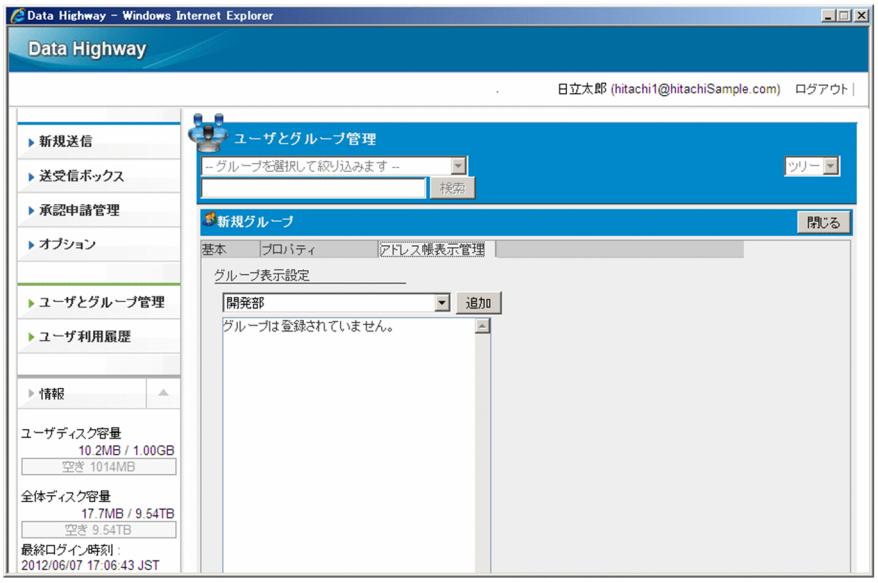
注※1

電子証明書を利用する運用の場合，電子証明書の有効期限は 2037 年 12 月 31 日となりますが，ここで設定したアカウントが期限切れとなった場合は，JP1/DH - Server にログインできなくなります。

注※2

設定により，表示されない場合があります。

5. ［アドレス帳表示管理］タブの設定をします。



次の項目を設定します。

表 3-21　［アドレス帳表示管理］タブの設定項目

項目	説明
［グループ表示設定］リストボックス	アドレス帳に表示するグループを設定します。 ［グループ選択］ドロップダウンリストボックスでグループを選択して，［追加］ボタンをクリックします。なお，リストボックスには，ドメイン内の全グループが表示されます。 ここで指定したグループ，およびグループに所属するすべてのユーザがアドレス帳に表示されます。

6. ［作成］ボタンをクリックします。

グループが作成されます。

(9)　グループを編集する

グループを編集する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。

2. 編集するグループをクリックして，［編集］を選択します。
   ［グループ編集］画面が表示されます。

3. 設定を変更します。
   ［基本］タブ，［プロパティ］タブ，［アドレス帳表示管理］タブの項目の内容については「(8)　グループを作成する」を参照してください。

4. ［グループ管理］タブを編集します。
   ［グループ管理］タブでは，グループ管理者の追加や削除ができます。なお，最上位グループの場合は，［グループ管理］タブは表示されません。

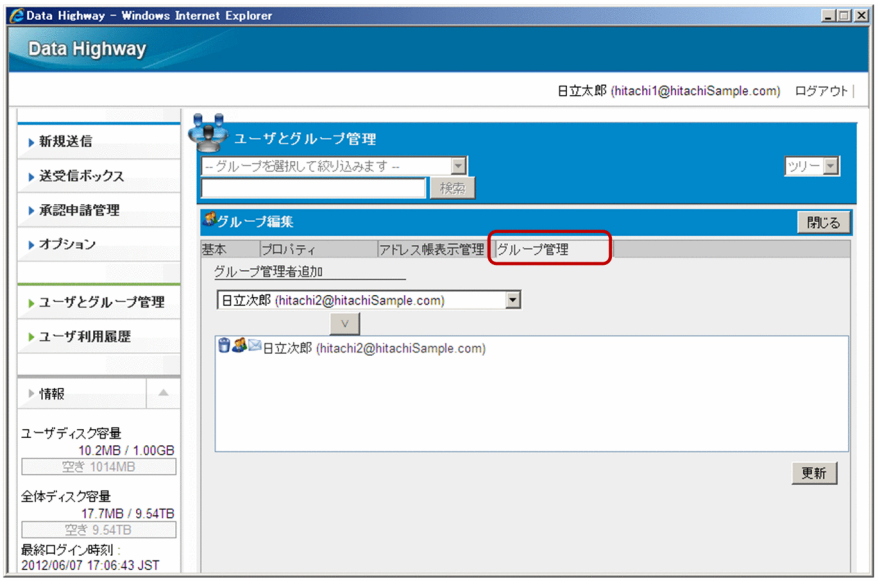


表 3-22　グループ管理タブの項目

項目	説明
［ユーザ一覧］リストボックス	編集中のグループに所属するユーザ一覧が表示されます。 ［V］ボタンをクリックすると，選択したユーザがグループ管理者リストに追加されます。
［グループ管理者一覧］リストボックス	グループ管理者の一覧が表示されます。 削除する場合は， アイコンをクリックします。

5. ［更新］ボタンをクリックします。
   グループの設定が更新されます。

(10) グループを有効化／無効化／削除する

グループを有効化，無効化，または削除する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。

2. 処理を行うグループをクリックして，メニューを選択します。

   表 3-23　グループの有効／無効／削除

項目	説明
［有効］	グループを有効化します。 グループに所属するユーザの状態は変更されません。
［無効］※	グループを無効化します。 無効化したグループに所属するユーザは，JP1/DH - Server の利用ができなくなります。 有効化すると，グループは再び利用可能となりますが，グループに所属するユーザの状態は無効のままとなります。ユーザは個別に有効化してください。
［削除］※	グループを削除します。 グループに所属するユーザ，および関連する配送ルール，認証ルールも同時に削除されます。一度削除したグループを元に戻すことはできません。

   注※
   複数グループに所属するユーザは無効化，または削除されません。

3. 選択したメニューに応じた確認ダイアログが表示されます。［OK］ボタンをクリックすると，処理が実行されます。

3.4.3　ユーザ利用履歴

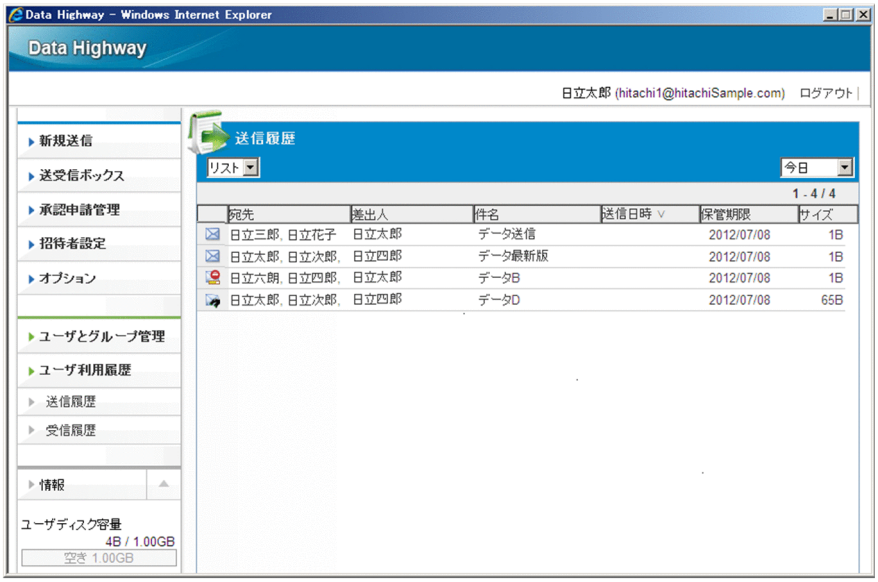
ユーザ利用履歴の操作について説明します。

(1)　ユーザ利用履歴を確認／削除する

ユーザ利用履歴を確認または削除する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［ユーザ利用履歴］－［送信履歴］または［受信履歴］をクリックします。
   ［送信履歴］をクリックした場合は［送信履歴］画面が，［受信履歴］をクリックした場合は［受信履歴］画面がコンテント領域に表示されます。
   グループ管理者は管理対象となっているグループ，およびその配下のユーザ利用履歴が表示されます。代表ユーザはすべてのユーザ利用履歴が表示されます。

   - ［送信履歴］画面



- ［受信履歴］画面

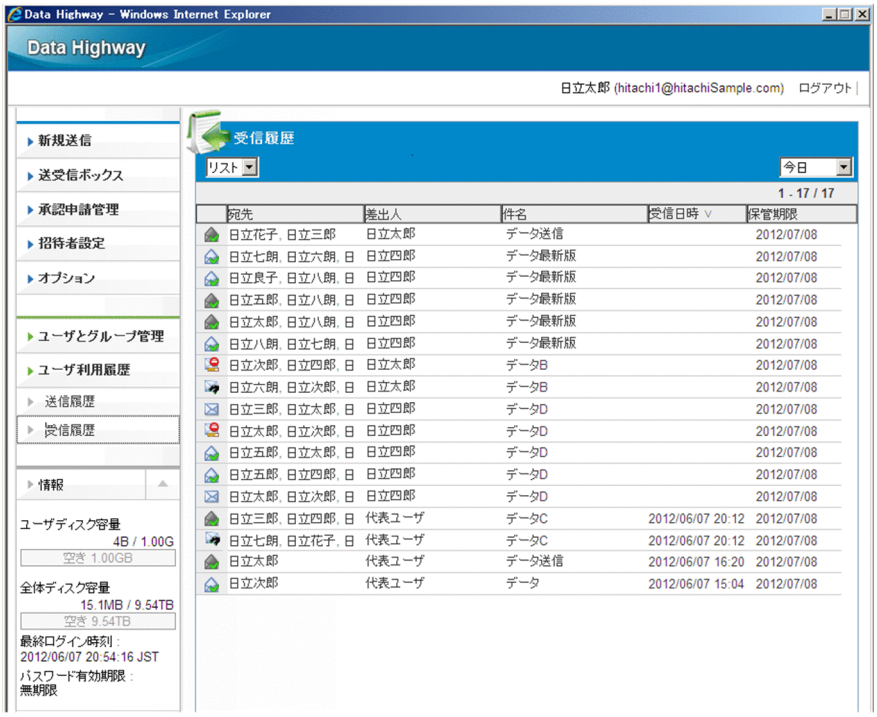


表 3-24　送信履歴/受信履歴の設定項目

項目	説明
［表示形式］ドロップダウンリストボックス	次のどちらかの表示形式を選択できます。 • リスト形式 • 概要形式
［表示期間］ドロップダウンリストボックス	一覧に表示する期間を設定できます。選択できる項目は存在する履歴の日時によって異なります。各項目の表示期間を次に示します。 • 今日：今日 • 今週：前回の日曜日から今日まで

項目	説明
［表示期間］ドロップダウンリストボックス	• 一週間前：前々回の日曜日から今日まで • 二週間前：3 回前の日曜日から今日まで • 三週間前：4 回前の日曜日から今日まで • 一ヶ月前：前の月の 1 日から今日まで 各項目が月をまたぐ場合は，その月の 1 日からを表示します。 また，一ヶ月より前の履歴が存在する場合は，「YYYY 年 MM 月」の形式で表示されます。

2. 履歴の詳細情報を確認する場合は，メニューアイコンをクリックして，［詳細表示］を選択します。

［送信履歴詳細情報］画面，または［受信履歴詳細情報］画面が表示されます。なお，送信者が削除，または無効となっている場合は，詳細情報を開くことはできません。

3. ［送信履歴詳細情報］画面，または［受信履歴詳細情報］画面の各タブの表示内容を次に示します。

- ［メッセージ］タブ：受発信したメッセージが表示されます。
- ［ファイル］タブ：ファイル名やサイズなどのファイルの詳細情報が表示されます。［ダウンロード］ボタンをクリックすると，ファイルのダウンロードができます。
- ［宛先情報］タブ：宛先の情報が表示されます。
- ［受信記録］タブ：受信者のファイル受信状況が表示されます。
- ［承認者一覧］タブ：承認が必要な配送の場合にだけ，［送信履歴詳細情報］画面に表示されます。承認者の一覧を確認できます。ただし，すべての承認者が削除されている場合は，［承認者一覧］タブは表示されません。

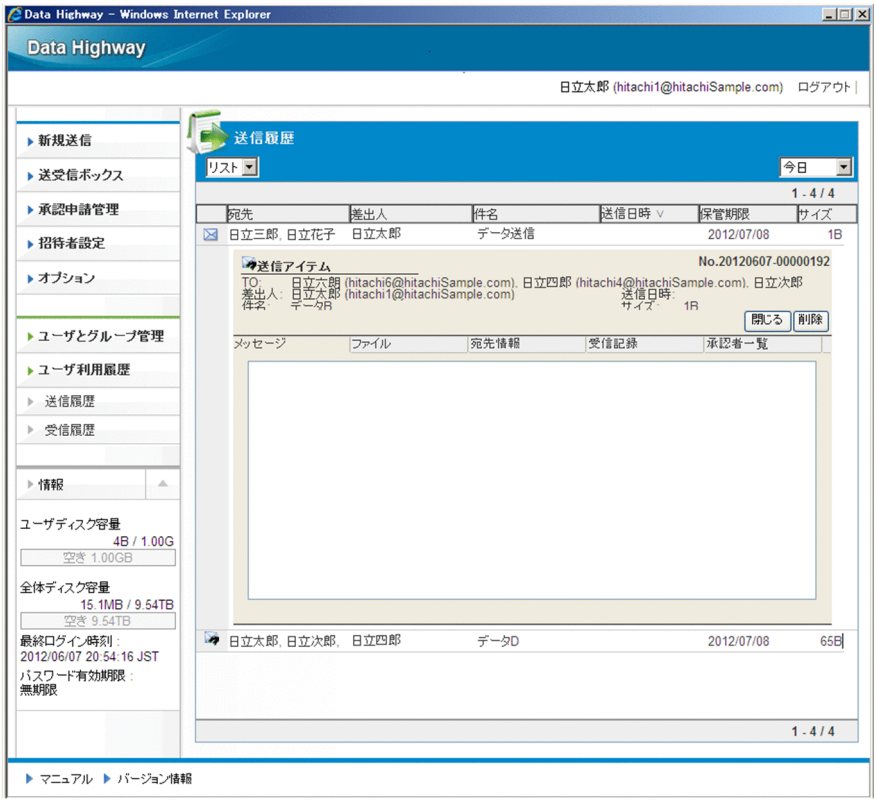
補足説明

ユーザが複数のファイルを一度に送信している場合は，［受信記録］タブでどのファイルを受信者がダウンロードしたかを確認できます。ダウンロードされていないファイルの場合は，ファイル名が灰色で表示されます。

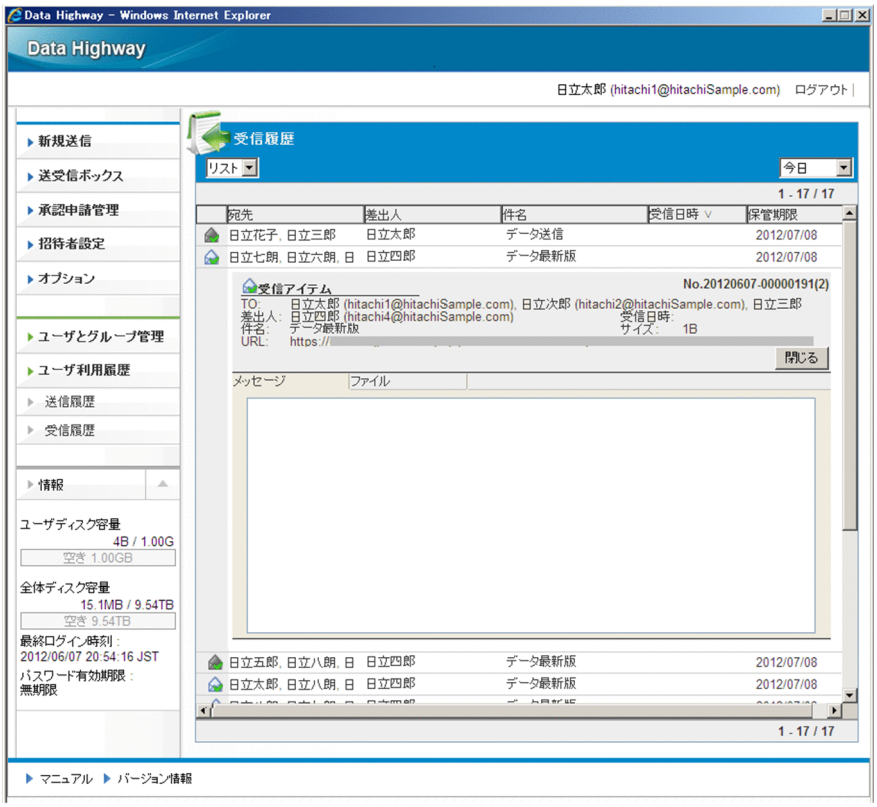
ただし，ユーザが受信ボックス以外から受信した場合，および配送メールに記載されている受け取り URL 以外から受信した場合は，ダウンロード済みの表示となりません。

4. ［閉じる］ボタンをクリックすると，［送信履歴］画面または［受信履歴］画面に戻ります。

- ［送信履歴詳細情報］画面



- ［受信履歴詳細情報］画面



5. ［送信履歴］画面から履歴を削除する場合は，削除する履歴のメニューアイコンをクリックして，［削除］を選択します。

   ［削除］ボタンは［送信履歴］画面の［詳細表示］画面にだけ表示されます。

6. [OK] ボタンをクリックすると，履歴が削除されます。

3.5　代表ユーザが行う操作

ここでは，代表ユーザが行う操作について説明します。

3.5.1　操作の一覧

代表ユーザが行う操作の一覧を次に示します。

表 3-25　代表ユーザの操作一覧

機能／分類	操作	参照先
ユーザとグループ管理 (一括管理)	ユーザ／グループを一括して作成する	3.5.2(2)
	ユーザ／グループを一括して参照する	3.5.2(3)
	ユーザを一括して削除する	3.5.2(4)
配送ルール設定	配送ルールを作成する	3.5.3(1)
	配送ルールを編集する	3.5.3(2)
	配送ルールを有効化／無効化／削除する	3.5.3(3)
	配送ポリシーを作成する	3.5.3(4)
	配送ポリシーを編集する	3.5.3(5)
	配送ポリシーを削除する	3.5.3(6)
認証ルール設定	認証ルールを作成する	3.5.4(1)
	認証ルールを編集する	3.5.4(2)
	認証ルールを有効化／無効化／削除する	3.5.4(3)
	認証ポリシーを作成する	3.5.4(4)
	認証ポリシーを編集する	3.5.4(5)
	認証ポリシーを削除する	3.5.4(6)
認証システム設定	認証システムを作成する	3.5.5(1)
	認証システムを編集する	3.5.5(2)
	認証システムを削除する	3.5.5(3)
オブジェクト定義	ネットワークセットを作成する	3.5.3(2)
	ネットワークセットを編集する	3.5.6(2)
	ネットワークセットを削除する	3.5.6(3)
	承認ルートを作成する	3.5.6(4)
	承認ルートを編集する	3.5.6(5)

機能／分類	操作	参照先
オブジェクト定義	承認ルートを削除する	3.5.6(6)
ログ	監査ログをダウンロードする	3.5.7(1)

3.5.2　ユーザとグループ管理（一括管理）

(1)　一括管理に使用する CSV ファイル作成時の注意事項

ユーザとグループ管理（一括管理）では，作成した CSV ファイルでユーザの作成，参照，削除を一括で行います。CSV ファイル作成時の注意事項を次に説明します。

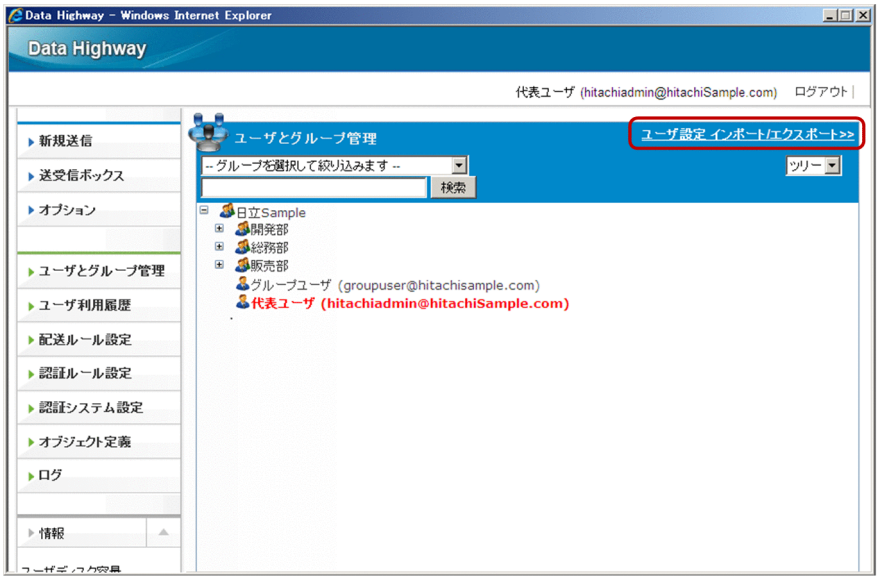
- 1 行目は空白とします。
- 文字コードは UTF-8 で作成してください。他の文字コード（S-JIS など）で作成したファイルをインポートした場合，登録したユーザ／グループが文字化けするおそれがあります。また，ユーザ削除時に他の文字コードで作成したファイルで削除を実行すると，削除対象のユーザが正しく認識されず意図しないユーザが削除されるおそれがあります。
- 項目にカンマ(,)や改行を入力する際は，ダブルクォーテーション(”)で囲んでください。
- 項目にダブルクォーテーション(”)を入力する際は，二個続けてダブルクォーテーション(””)を入力し，さらにダブルクォーテーションで項目を囲んでください。項目を囲まない場合，空または一部が切り捨てられた状態で登録されるときがあります。
- CSV ファイルの改行コードは CRLF を使用してください。CR，または LF の改行コードの場合，正しく動作しないときがあります。
- サロゲートペア文字を入力した場合，入力できる文字数が規定より少なくなるときがあります。
- 識別子とヘッダ部分は変更しないでください。
- 各レコードの間に改行だけの行は挟まないでください。ただし，大項目（ユーザ定義部，グループ定義部，バインダ定義部，グループ管理者定義部）の間には空行を挟む必要があります。
- CSV ファイルのインポート中は実行ユーザ，操作対象ユーザ，操作対象グループに対する処理はインポートが完了するまで実行待ちになる場合があります。この場合は CSV ファイルのインポートが完了したあとに，処理が再開されます。
- CSV ファイルのインポート中にサーバ側で異常が発生した場合は，インポートの情報をサーバに反映しません。クライアント側の原因で，サーバ処理の結果がクライアントに正しく反映されない場合でも，サーバ側の処理が正常終了しているときは，インポート処理は正常に終了しています。また，サーバ側の実行結果は監査ログで確認できます。
- エクスポート CSV ファイルで出力されるパスワードのダイジェストは，「標準認証」のパスワードのダイジェスト値となります。

(2)　ユーザ／グループを一括して作成する

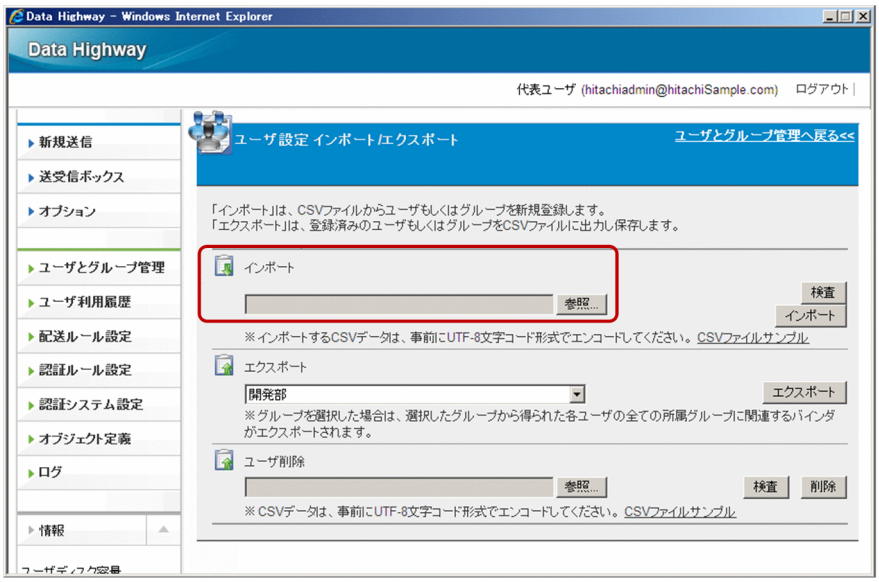
ユーザ／グループを一括して作成する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。

2. コンテント領域右上の［ユーザ設定 インポート/エクスポート］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザ設定 インポート/エクスポート］画面が表示されます。

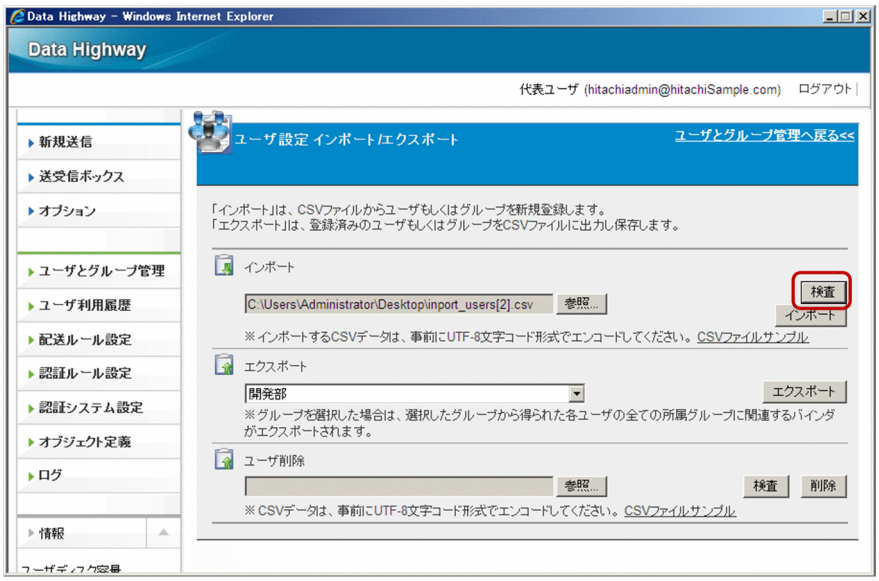


3. インポート CSV ファイルを指定します。［インポート］にインポート CSV ファイルのフルパスを直接指定するか，［参照…］ボタンをクリックしてインポート CSV ファイルを選択します。
   インポート CSV ファイルは，「(a)　インポート CSV ファイルのフォーマット」を参考に事前に作成してください。



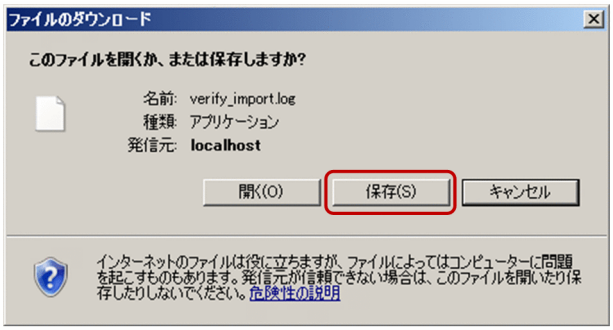
4. ［検査］ボタンをクリックし，インポート CSV ファイルのフォーマットが正しいかを検査します。

［検査］ボタンで検査する内容については「(b)　検査ボタンでの検査項目」を参照してください。



5. 「verify_import.log」のダウンロードが開始されます。［保存］ボタンをクリックします。

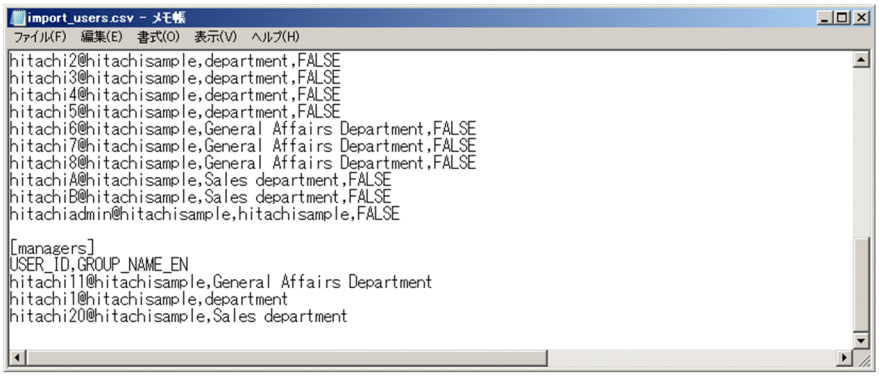
> **注　意**
>
> 画面は更新されているにもかかわらず何も起きない場合，指定したファイルパスにファイルが存在しない可能性があります。正しいファイルパスを指定し，再度［検査］ボタンをクリックしてください。



6. 保存した「verify_import.log」を文字コード「UTF-8」で開き，最終行を確認します。

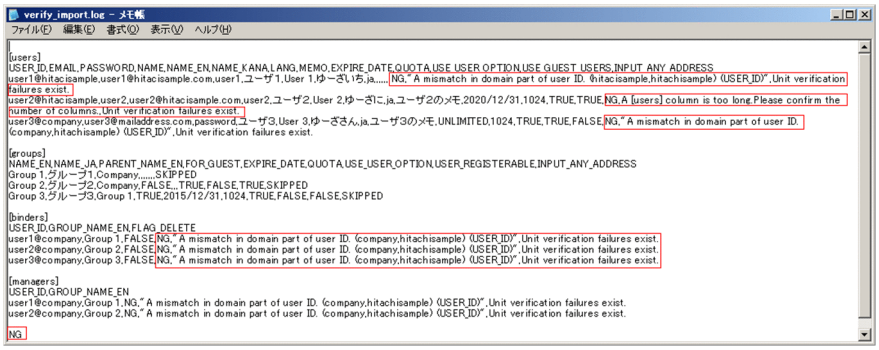
最終行が OK の場合は，正しいインポート CSV ファイルのフォーマットです。各レコード（後述）が文字化けしていないかを確認してください。

> **注　意**
>
> 文字化けしている場合は，インポート CSV ファイルの文字コードが UTF-8 ではない可能性があります。
> そのままインポートするとユーザ／グループが文字化けして登録されるおそれがあります。



最終行が NG の場合は，正しいインポート CSV ファイルのフォーマットではありません。各レコード（後述）の右側に検査結果と，エラー内容（エラーの場合）が追記されています。

エラーの原因を修正してから再度［検査］ボタンをクリックしてください。

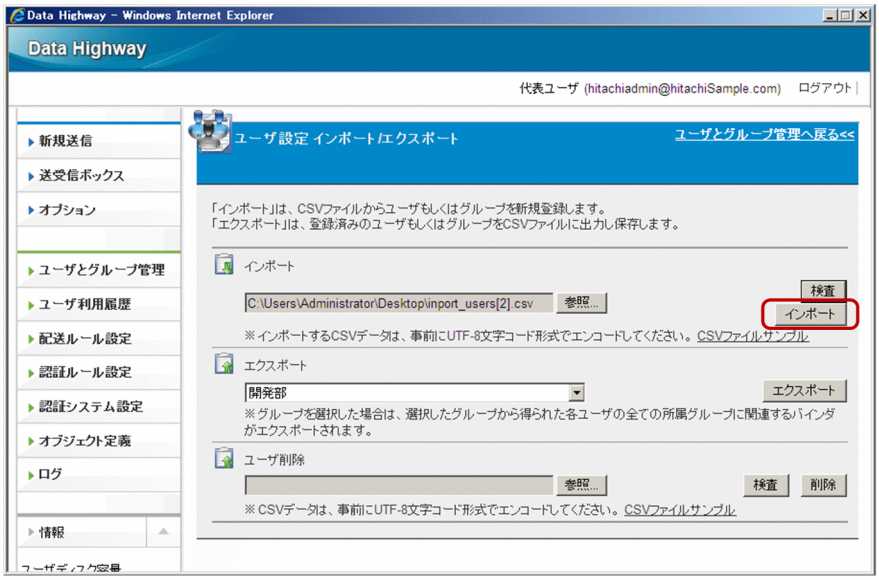


7. 正しいインポート CSV ファイルのフォーマットの場合は［インポート］ボタンをクリックします。

インポートするユーザやグループの件数が多い場合，インポートに 5 分程度の時間が掛かるときがあります。

注　意

［インポート］ボタンをクリックしたあとは，「verify_import.log」のダウンロードが開始されるまで画面操作を行わないでください。画面操作を行うとサーバでは継続して処理されますが，「verify_import.log」が受け取れなくなり，処理結果が不明になるおそれがあります。



8. [検査] ボタンをクリックした場合と同様に「verify_import.log」のダウンロードが開始されます。[保存] ボタンをクリックします。

> **注　意**
>
> 画面は更新されているにもかかわらず何も起きない場合，[インポート] に指定したファイルパスにファイルが存在しない可能性があります。正しいファイルパスを指定し，再度 [インポート] ボタンをクリックしてください。

9. 保存した「verify_import.log」を開き，最終行を確認します。「OK」と記載されていれば，ユーザ／グループの一括作成は成功です。

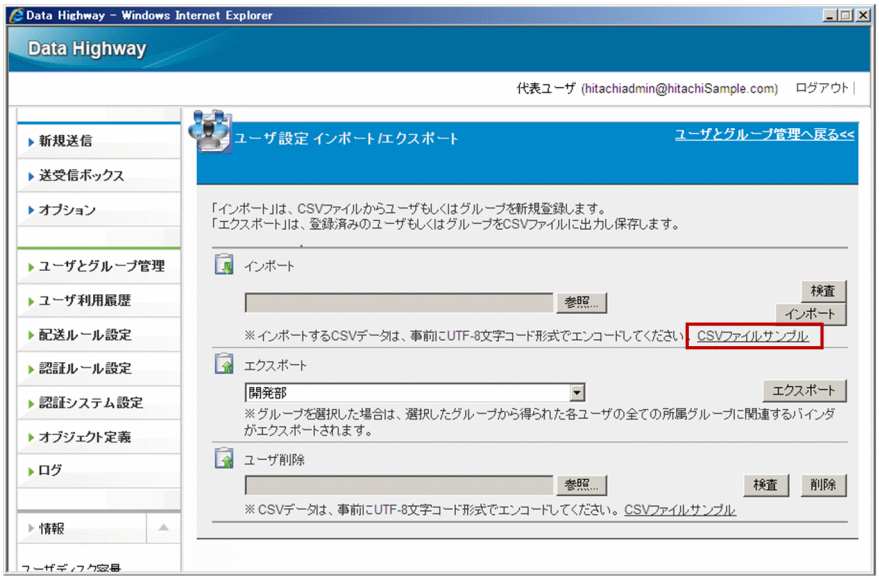
「NG」と記載されている場合は，各レコード（後述）の右側に検査結果と，エラー内容(エラーの場合)が追記されています。エラーの原因を修正してから再度 [インポート] ボタンをクリックしてください。

> **注　意**
>
> ユーザ／グループの一括作成は全件成功するか，全件失敗するかのどちらかです。すべてのレコードの処理が成功した場合にだけ結果が反映されます。1 件でも処理が失敗するレコードが存在した場合は，結果は一切反映されません。

(a)　インポート CSV ファイルのフォーマット

[ユーザ設定 インポート/エクスポート] 画面で [CSV ファイルサンプル] をクリックして，「インポート CSV ファイルサンプル」をダウンロードして保存します。

保存したファイルの「レコード」部分を登録したいユーザやグループに編集すると，容易にユーザ／グループを一括登録することができます。



「インポート CSV ファイルサンプル」を次に示します。

図 3-2　インポート CSV ファイルサンプル（全体）

：ユーザ定義部　：グループ定義部

：バインダ定義部　：グループ管理者定義部

```
[users]
USER_ID,EMAIL,PASSWORD,NAME,NAME_EN,NAME_KANA,LANG,MEMO,EXPIRE_DATE,QUOTA,USE_USER_OPTION,USE_GUEST_USERS,INPUT_ANY_ADDRESS
user1@company,user1@mailaddress.com,password,ユーザ１,User 1,ゆーざいち,ja,,,,,,
user2@company,user2@mailaddress.com,password,ユーザ２,User 2,ゆーざに,ja,ユーザ２のメモ,2020/12/31,1024,TRUE,TRUE,TRUE
user3@company,user3@mailaddress.com,password,ユーザ３,User 3,ゆーざさん,ja,ユーザ３のメモ,UNLIMITED,1024,TRUE,TRUE,FALSE

[groups]
NAME_EN,NAME_JA,PARENT_NAME_EN,FOR_GUEST,EXPIRE_DATE,QUOTA,USE_USER_OPTION,USER_REGISTERABLE,INPUT_ANY_ADDRESS
Group 1,グループ１,Company,,,,,,
Group 2,グループ２,Company,FALSE,,,TRUE,FALSE,TRUE
Group 3,グループ３,Group 1,TRUE,2015/12/31,1024,TRUE,FALSE,FALSE

[binders]
USER_ID,GROUP_NAME_EN,FLAG_DELETE
user1@company,Group 1,FALSE
user2@company,Group 2,FALSE
user3@company,Group 3,FALSE

[managers]
USER_ID,GROUP_NAME_EN
user1@company,Group 1
user2@company,Group 2
```

インポート CSV ファイルは「ユーザ定義部」,「グループ定義部」,「バインダ定義部」,「グループ管理者定義部」の 4 つの大項目から構成されます。

各大項目について次の表に示します。なお，各大項目の間には 1 行以上の空行が必要です。

表 3-26　インポート CSV ファイルの大項目

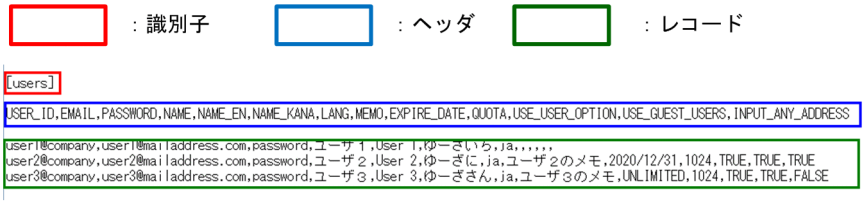
大項目	説明
ユーザ定義部	作成するユーザの情報を記述します。 作成したユーザはバインダ定義部で，どれかのグループに所属させる必要があります。
グループ定義部	作成するグループの情報を記述します。
バインダ定義部	ユーザとグループの関連を記述します。

大項目	説明
バインダ定義部	登録済み，またはユーザ定義部で定義したユーザに対して，グループに所属させたり，グループから所属を外したりすることができます。
グループ管理者定義部	グループ管理者に設定するユーザを記述します。

ユーザ定義部

ユーザの情報を指定し，ユーザの作成を行います。ユーザ定義部は以下の「ユーザ定義部サンプル」のように 3 つの要素で構成されています。

図 3-3　CSV サンプルファイル（ユーザ定義部）



識別子

続く行がユーザ定義部であることを識別するための固定文字列です。ユーザを 1 件も作成しない（レコードが 1 件もない）場合でも，指定は必須です。

ヘッダ

レコードの項目名を示す固定文字列です。ユーザを 1 件も作成しない（レコードが 1 件もない）場合でも，指定は必須です。

レコード

作成するユーザの情報を 1 件につき 1 行ずつ，半角カンマ(,)区切りで記述します。件数の上限は 300 件です。省略可能な項目を省略する場合でも，半角カンマは記述する必要があります。

ここで作成するユーザは「バインダ定義部」でいずれかのグループに所属させる必要があります。「バインダ定義部」でユーザグループに所属させることで一般ユーザを作成できます。

招待者グループに所属させると，招待者を作成できます。作成した招待者の新規送信利用回数は 0 回に設定されています。招待者の新規送信利用回数を変更したい場合は，個別に変更してください。

各項目の説明は以下の表を参考にしてください。

表 3-27　ユーザ定義部の設定項目

項番	項目	項目（日本語）	説明	省略
1	USER_ID	ユーザ ID	ユーザ ID を指定します。 • 「任意文字列」＋「@」＋「ドメイン名」の形式で記述してください。 JP1/DH - Server にディレクトリ・サーバのユーザ認証でログインする場合は，「ディレクトリ・サーバで管理されているユーザ ID」＋「@」＋「ドメイン名」の形式で記述してください。 • ドメイン名は代表ユーザのドメイン名と同じです。	不可

項番	項目	項目（日本語）	説明	省略
1	USER_ID	ユーザ ID	• ユーザ ID はドメインごとに一意である必要があります。 • ドメインに割り当てられる ID も含めて，Windows の場合は 100 文字まで，Linux の場合は 256 文字までの半角英数字と記号を入力できます。 • すでに作成済みのユーザ ID と同じユーザ ID は指定できません。 • @以降が存在しない場合，代表ユーザのドメインと一致しない場合は，エラーとなります。 • 記号(/¥?*:|”<>#@^[]$)，空白は使用できません。 • ピリオド(.)だけは使用できません。 • Windows の予約語は入力できません。Windows の予約語については「3.4.2(2)　ユーザを作成する」を参照してください。 例）user1@company	不可
2	EMAIL	メールアドレス	メールアドレスを指定します。 すでに作成済みのユーザと同じメールアドレスは指定できません。 • 256 文字以内の半角英数字と記号を入力できます。 • 記号(/¥?*:|”<>^)，空白は使用できません。 例）user1@mailaddress.com	不可
3	PASSWORD	パスワード	パスワードを指定します。 なお，ここで指定するのは JP1/DH - Server で管理するパスワードです。ディレクトリ・サーバを使用して認証する場合でも，ディレクトリ・サーバで管理されているパスワードではなく，JP1/DH - Server のパスワードを指定してください。ディレクトリ・サーバで管理されているパスワードの変更はできません。 パスワード文字列※1 を平文で記述するか，パスワード文字列のダイジェスト※2 を 16 進表記で記述してください。 平文での記述例：password ダイジェストで指定する場合は，「text:HEX:」のあとに 40 文字のダイジェスト文字列を記入します。ダイジェスト文字列部分には，大文字・小文字の区別はありません。 ダイジェストは，エクスポート時にパスワード欄に表示されているものを記述できます。 ダイジェストでの記述例 text:HEX:5baa61e4c9b93f3f0682250b6cf8331b7ee68fd8 なお，平文のパスワード文字列として「text:HEX:」で始まる文字列は指定できません。	不可
4	NAME	名前（日本語/中国語）	名前（日本語/中国語）を指定します。 この項目を指定した場合は，NAME_EN の指定が必須になります。	可

項番	項目	項目（日本語）	説明	省略
4	NAME	名前（日本語/中国語）	省略した場合は空の内容で登録されます。 • 入力できる文字数は 256 文字以内です。 • 記号(/¥?*:|”<>#@^[]$)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。 例）ユーザ 1	可
5	NAME_EN	名前（英語）	名前（英語）を指定します。 省略した場合は空の内容で登録されます。 • Windows の場合は 100 文字まで，Linux の場合は 256 文字までの半角英数字と記号を入力できます。 • 記号(/¥?*:|”<>#@^[]$)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。 例）User 1	可
6	NAME_KANA	名前（かな）	名前（かな）を指定します。 省略した場合は空の内容で登録されます。 • 入力できる文字数は 256 文字以内です。 • 記号(/¥?*:|”<>#@^[]$)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。 例）ゆーざいち	可
7	LANG	ユーザ言語	次のどれかの値でユーザ言語を指定します。大文字・小文字の区別はありません。 • ja：日本語 • en：英語 • zh：中国語 省略した場合は日本語になります。 例）ja	可
8	MEMO	メモ	メモを指定します。 入力できる文字数は 4,096 文字以内です。 省略した場合は空の内容で登録されます。 例）ユーザ 1 のメモ	可
9	EXPIRE_DATE	アカウント期限	アカウント期限を YYYY/MM/DD，または YYYY-MM-DD の形式で指定します。現在の日付から 2031/12/31 まで指定できます。 省略した場合はバインダ定義部で最初に所属させたグループの種類により，次のどちらかになります。 • ユーザグループに所属した場合 グループのプロパティを引き継ぎます。 • 招待者グループに所属した場合 インポート処理を実行した日までとなります。	可

項番	項目	項目（日本語）	説明	省略
9	EXPIRE_DATE	アカウント期限	「UNLIMITED」という文字列を指定すると無期限となります。ただし，バインダ定義部で招待者グループに所属させた場合は，省略した場合と同じ扱いになります。 文字列中の半角スペース，改行，タブ文字は無視されます。なお，YYYY，MM，DD の間にこれらの文字を挟むことはできません。 例）2020/12/31	可
10	QUOTA※3	保管容量	保管容量を MB 単位で指定します。 0 から最大 8796093022207 まで指定できます。 例）1024	可
11	USE_USER_OPTION※3	オプション使用許可	オプションの使用を許可するかを，次のどちらかの値で指定します。大文字・小文字の区別はありません。 • TRUE：許可する • FALSE：許可しない 例）TRUE	可
12	USE_GUEST_USERS※3	招待者使用許可	招待者の使用を許可するかを，次のどちらかの値で指定します。大文字・小文字の区別はありません。 • TRUE：許可する • FALSE：許可しない 例）TRUE	可
13	INPUT_ANY_ADDRESS※3	任意の宛先入力許可	任意の宛先入力を許可するかを，次のどちらかの値で指定します。大文字・小文字の区別はありません。 • TRUE：許可する • FALSE：許可しない 例）TRUE	可

注※1

入力できる文字数，文字の種類は，認証ルールで設定された文字数以内の半角英数字と記号です。

使用できる記号は「!"#$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥]^_`{|}~」です。

注※2

ダイジェストは JP1/DH - Server がパスワードをデータベースに保管する形式で，この値から実際のパスワード文字列を復元することができない形式です。エクスポート CSV のパスワード項目には，ダイジェストの形式でパスワードの情報が出力されます。

注※3

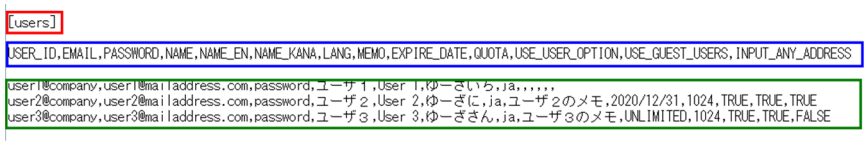
省略した場合は，バインダ定義部で最初に所属させたグループのプロパティが引き継がれます。なお「INPUT_ANY_ADDRESS」の場合，項目自体の省略も可能です。

グループ定義部

グループの情報を指定し，グループの作成を行います。グループ定義部は以下の「グループ定義部サンプル」のように 3 つの要素で構成されています。

図 3-4　CSV サンプルファイル（グループ定義部）

：識別子　：ヘッダ　：レコード



識別子

続く行がグループ定義部であることを識別するための固定文字列です。グループを 1 件も作成しない（レコードが 1 件もない）場合でも，指定は必須です。

ヘッダ

レコードの項目名を示す固定文字列です。グループを 1 件も作成しない（レコードが 1 件もない）場合でも，指定は必須です。

レコード

作成するグループの情報を 1 件につき 1 行ずつ，半角カンマ(,)区切りで記述します。なお，省略可能な項目を省略する場合でも，半角カンマは記述する必要があります。

各項目の説明は以下の表を参考にしてください。

表 3-28　グループ定義部の設定項目

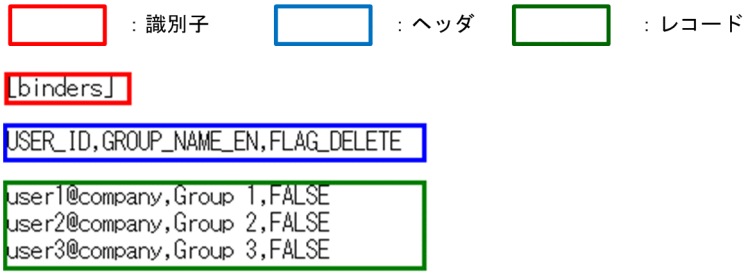
項番	項目	項目（日本語）	説明	省略
1	NAME_EN	グループ名（英語）	グループ名（英語）を指定します。 すでに作成済みのグループ名（英語）と同じグループ名は使用できません。 • 入力できる文字数は 200 文字以内の半角英数字と記号です。 • 記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。 例）Group 1	不可
2	NAME_JA	グループ名（日本語/中国語）	グループ名（日本語/中国語）を指定します。すでに作成済みのグループ名（日本語/中国語）と同じグループ名は使用できません。 • 入力できる文字数は 200 文字以内です。 • 記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。 例）グループ1	不可
3	PARENT_NAME_EN	親グループ名（英語）	親グループのグループ名（英語）を指定します。存在しない親グループは指定できません。 入力できる文字は「NAME_EN」と同じです。 例）Company	不可
4	FOR_GUEST	グループ種別	グループの種別を次のどちらかで指定します。大文字・小文字の区別はありません。	可

項番	項目	項目（日本語）	説明	省略
4	FOR_GUEST	グループ種別	• TRUE：招待者グループ • FALSE：ユーザグループ 省略した場合はユーザグループになります。 例）TRUE	可
5	EXPIRE_DATE	アカウント期限	アカウント期限を YYYY/MM/DD，または YYYY-MM-DD の形式で指定します。現在の日付から 2031/12/31 まで指定できます。 「UNLIMITED」という文字列を指定すると無期限となります。 省略した場合は無期限となります。 文字列中の半角スペース，改行，タブ文字は無視されます。なお，YYYY，MM，DD の間にこれらの文字を挟むことはできません。 例）2015/12/31	可
6	QUOTA	保管容量	保管容量を MB 単位で指定します。 省略した場合は 1GB となります。 0 から最大 8796093022207 まで指定できます。 例）1024	可
7	USE_USER_OPTION	オプション使用許可	オプションの使用を許可するかを，次の値で指定します。大文字・小文字の区別はありません。 • TRUE：許可する • FALSE：許可しない 省略した場合は許可します。 例）TRUE	可
8	USER_REGISTERABLE	招待者使用許可	招待者の使用を許可するかを，次の値で指定します。大文字・小文字の区別はありません。 • TRUE：許可する • FALSE：許可しない 省略した場合は許可しません。 FOR_GUEST が TRUE の場合は，FALSE を指定します。 例）TRUE	可
9	INPUT_ANY_ADDRESS	任意の宛先入力許可	任意の宛先入力を許可するかを，次のどちらかの値で指定します。大文字・小文字の区別はありません。 • TRUE：許可する • FALSE：許可しない 項目自体を省略することも可能です。 省略した場合は許可しません。 例）TRUE	可

バインダ定義部

ユーザとグループの関連付けを指定します。ユーザをグループに所属させたり，所属から外すことができます。バインダ定義部は以下の「バインダ定義部サンプル」のように 3 つの要素で構成されています。

図 3-5　CSV サンプルファイル（バインダ定義部）



識別子

続く行がバインダ定義部であることを識別するための固定文字列です。ユーザとグループの関連付けを 1 件も定義しない（レコードが 1 件もない）場合でも，指定は必須です。

ヘッダ

レコードの項目名を示す固定文字列です。ユーザとグループの関連付けを 1 件も定義しない（レコードが 1 件もない）場合でも，指定は必須です。

レコード

ユーザとグループの関連付けを 1 件につき 1 行ずつ，半角カンマ(,)区切りで記述します。

レコードは上から順番に実行されます。その際に一時的にでもユーザの所属グループが 1 つもなくなるレコードが記述されているとエラーになります。

グループ A に所属するユーザ a をグループ B に移動したい場合は，「ユーザ a をグループ B に所属させるレコード」より下に「ユーザ a をグループ A から外すレコード」を記述してください。なお，省略可能な項目を省略する場合でも，半角カンマは記述する必要があります。

各項目の説明は以下の表を参考にしてください。

表 3-29　バインダ定義部の設定項目

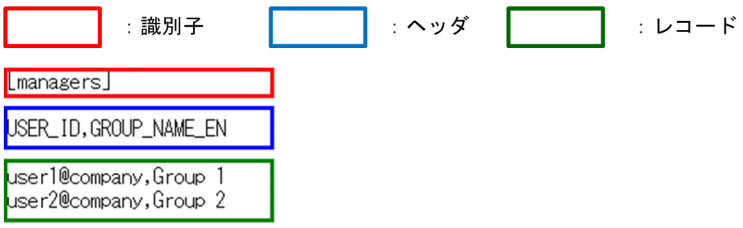
項番	項目	項目（日本語）	説明	省略
1	USER_ID	ユーザ ID	所属を変更するユーザのユーザ ID を指定します。 • Windows の場合は 100 文字まで，Linux の場合は 256 文字までの半角英数字と記号を入力できます。 • 記号(/¥?*:|"<>#@^[]$)，空白は使用できません。 • ピリオド(.)だけは使用できません。 • Windows の予約語は入力できません。Windows の予約語の詳細については「3.4.2(2)　ユーザを作成する」を参照してください。 例）user1@company	不可
2	GROUP_NAME_EN	グループ名（英語）	所属させるグループ名（英語）または所属を外すグループ名（英語）を指定します。	不可

項番	項目	項目（日本語）	説明	省略
2	GROUP_NAME_EN	グループ名（英語）	招待者グループに所属するユーザをユーザグループに所属させることはできません。ユーザグループに所属するユーザを招待者グループに所属させることはできません。 • 入力できる文字数は 200 文字以内の半角英数字と記号です。 • 記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。 例）Group 1	不可
3	FLAG_DELETE	削除フラグ	ユーザをグループに所属させるか，外すかを指定します。 • TRUE：所属を外す。 • FALSE：所属させる。 省略した場合は所属させます。	可

グループ管理者定義部

グループ管理者の設定を行います。グループ管理者定義部は以下の「グループ管理者定義部サンプル」のように 3 つの要素で構成されています。

図 3-6　CSV サンプルファイル（グループ管理者定義部）



識別子

続く行がグループ管理者定義部であることを識別するための固定文字列です。グループ管理者を 1 件も設定しない（レコードが 1 件もない）場合でも，指定は必須です。

ヘッダ

レコードの項目名を示す固定文字列です。グループ管理者を 1 件も設定しない（レコードが 1 件もない）場合でも，指定は必須です。

レコード

設定するグループ管理者 1 件につき 1 行ずつ，半角カンマ(,)区切りで記述します。

各項目の説明は以下の表を参考にしてください。

表 3-30　グループ管理者定義部の設定項目

項番	項目	項目（日本語）	説明	省略
1	USER_ID	ユーザ ID	グループ管理者に設定するユーザのユーザ ID を指定します。1 人のユーザは 2 つ以上のグループの管理者となることはできません。	不可

項番	項目	項目（日本語）	説明	省略
1	USER_ID	ユーザ ID	• ドメインに割り当てられる ID も含めて，Windows の場合は 100 文字まで，Linux の場合は 256 文字までの半角英数字と記号を入力できます。 • 記号(/¥?*:|”<>#@^[]$)，空白は使用できません。 • ピリオド(.)だけは使用できません。 • Windows の予約語は入力できません。Windows の予約語の詳細については「3.4.2(2)　ユーザを作成する」を参照してください。 例）user1@company	不可
2	GROUP_NAME_EN	グループ名（英語）	管理対象のグループ名（英語）を指定します。 • 入力できる文字数は 200 文字以内の半角英数字と記号です。 • 記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。 例）Group 1	不可

(b)　検査ボタンでの検査項目

検査ボタンで検査する項目を次に示します。インポート実行時はこれら以外の項目によってエラーとなることがあります。エラーメッセージの一覧は「付録 C　CSV エラーメッセージ一覧」を参照してください。

表 3-31　検査項目

項番	定義部	項目	説明
1	共通	件数	レコード件数が 300 件を超えていないかを検査します。
2		項目数	各レコードの項目数が規定値であるかを検査します。
3		必須	省略できない項目が省略されていないかを検査します。
4		文字長	各項目に入力した文字列が規定値の文字長あるかを検査します。
5		文字種	各項目に入力した文字列に禁止されている文字が入力されていないかを検査します。
6		入力内容	各項目が「(a)　インポート CSV ファイルのフォーマット」で説明した内容と合致しているかを検査します。 例）有効期限：現在日時から 2031/12/31 の範囲であるかを検査します。
7		重複	入力したユーザと同じユーザ ID またはメールアドレスを持ったユーザがすでに存在していないかを検査します。
8	ユーザ定義部	バインダ	定義したユーザが，バインダ定義部で所属を追加されているかを検査します。
9	グループ定義部	招待者グループ	招待者グループを作成しようとした場合で，招待者の使用が許可となっていないかを検査します。

項番	定義部	項目	説明
10	バインダ定義部	存在	入力したユーザまたはグループが存在しているかを検査します。
11	グループ管理者定義部	存在	入力したユーザまたはグループが存在しているかを検査します。

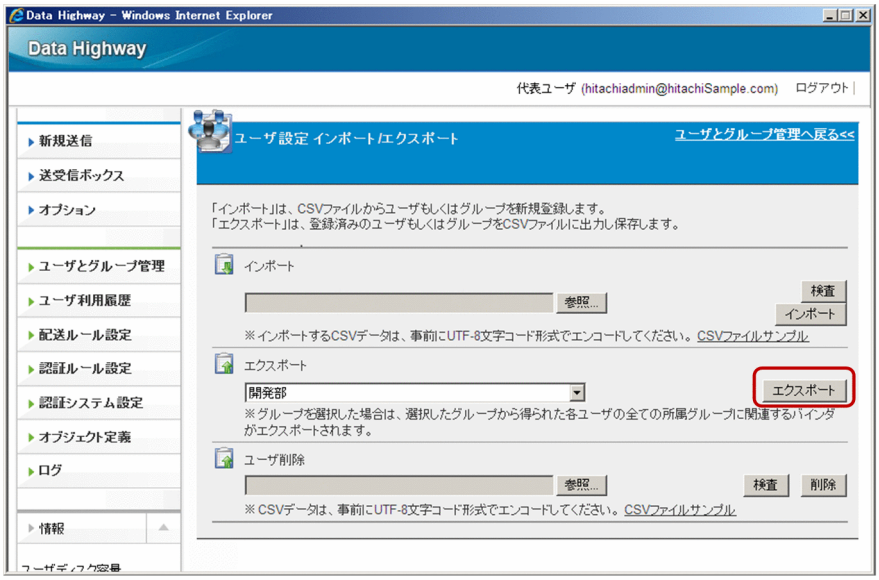
(3)　ユーザ／グループを一括して参照する

ユーザ／グループを一括して参照する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。

2. コンテント領域右上の［ユーザ設定 インポート/エクスポート］をクリックします。
   コンテント領域に［ユーザ設定 インポート/エクスポート］画面が表示されます。

3. ［エクスポート］リストボックスで参照したいグループを選択し，［エクスポート］ボタンをクリックします。



4. エクスポート CSV ファイル「export_users.csv」のダウンロードが開始されますので，［保存］をクリックし，保存します。
   エクスポート CSV ファイルにユーザ／グループの情報が記載されています。

(a)　エクスポート CSV ファイルのフォーマット

エクスポート CSV ファイルのフォーマットは「(2)　ユーザ／グループを一括して作成する」のインポート CSV ファイルのフォーマットと同じです。

各レコードの出力順や出力対象の規則を，次の表に示します。

表 3-32　大項目とレコード規則

大項目	レコード規則
ユーザ定義部	指定したグループ以下に所属するユーザがユーザ ID の辞書順で出力されます。
グループ定義部	指定したグループ以下のグループが，階層が上位のものから下位のものへと順番に出力されます。 同じ階層に複数のグループがある場合はグループ名（英語）の辞書順で出力されます。
バインダ定義部	指定したグループ以下に所属するユーザのバインダ定義のレコードがユーザ ID の辞書順で出力されます。 複数グループに所属しているユーザは，所属グループ一覧の順番で複数件出力されます。この際，指定したグループ以下に含まれていないグループも出力されます。
グループ管理者定義部	ユーザ ID の辞書順で出力されます。

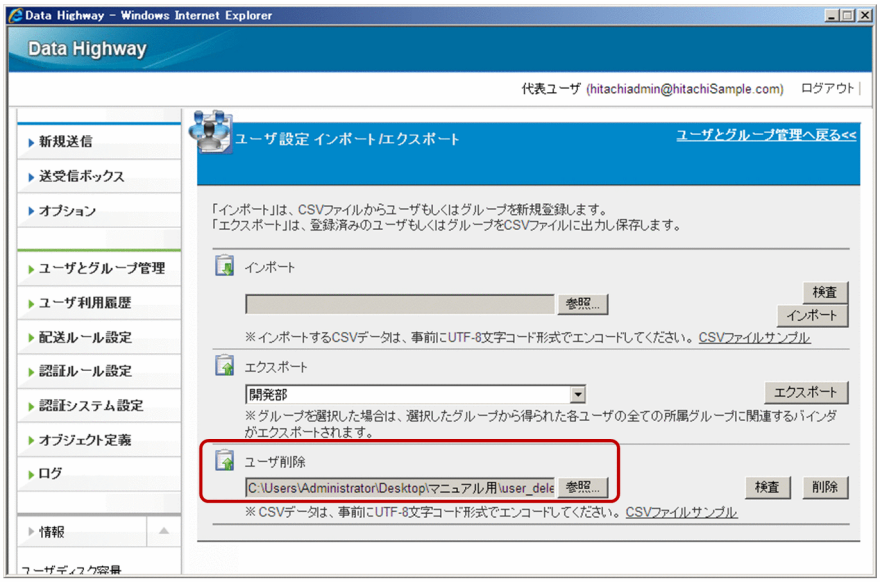
(4)　ユーザを一括して削除する

ユーザを一括して削除する手順を次に示します。

1. **サイドバー領域の［ユーザとグループ管理］をクリックします。**
   コンテント領域に［ユーザとグループ管理］画面が表示されます。

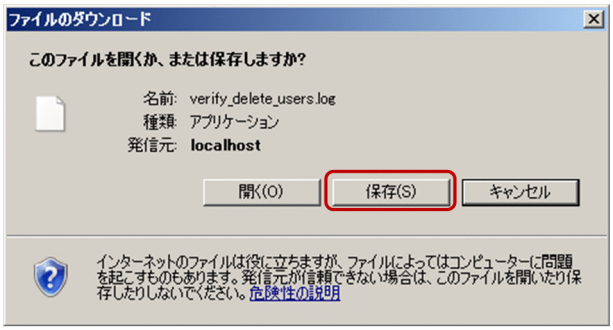
2. **コンテント領域右上の［ユーザ設定 インポート/エクスポート］をクリックします。**
   ［ユーザとグループ管理］画面については「(2)　ユーザ／グループを一括して作成する」を参照してください。
   コンテント領域に［ユーザ設定 インポート/エクスポート］画面が表示されます。

3. **ユーザ削除 CSV ファイルを指定します。［ユーザ削除］にユーザ削除 CSV ファイルのフルパスを直接指定するか，［参照…］ボタンをクリックし，ユーザ削除 CSV ファイルを選択します。**
   ユーザ削除 CSV ファイルは「(a)　ユーザ削除 CSV ファイルのフォーマット」を参考に事前に作成してください。



4. [検査] ボタンをクリックし，ユーザ削除 CSV ファイルのフォーマットが正しいかを検査します。
   [検査] ボタンで検査する内容については「(b)　検査ボタンでの検査項目」を参照してください。

5. 「verify_delete_users.log」のダウンロードが開始されますので，[保存] をクリックし，保存します。



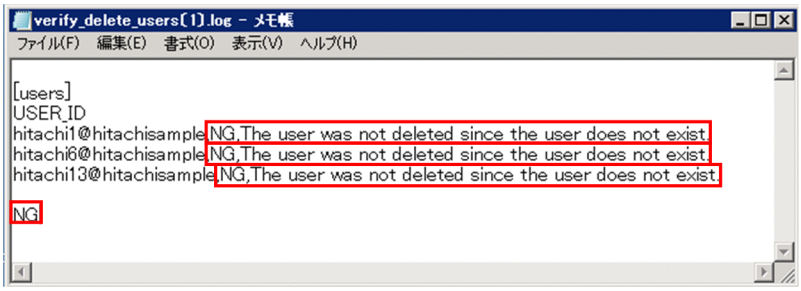
注　意

画面は更新されているにもかかわらず何も起きない場合，指定したファイルパスにファイルが存在しない可能性があります。正しいファイルパスを指定し，再度［検査］ボタンをクリックしてください。

6. 保存した「verify_delete_users.log」を開き，最終行を確認します。
   最終行が OK の場合は，正しいユーザ削除 CSV ファイルのフォーマットです。

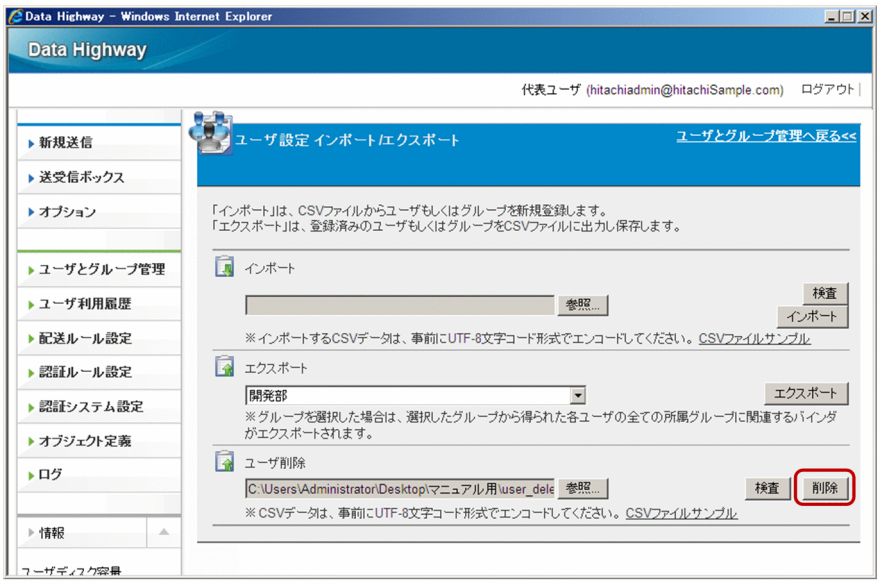
最終行が NG の場合は，正しいユーザ削除 CSV ファイルのフォーマットではありません。

各レコード（後述）の右側に検査結果と，エラー内容(エラーの場合)が追記されています。エラーの原因を修正してから再度［検査］ボタンをクリックしてください。



7. ［削除］ボタンをクリックします。

［削除］ボタンをクリックしたあとは「verify_delete_users.log」のダウンロードが開始されるまで画面操作を行わないでください。画面操作を行うとサーバでは継続して処理されますが，「verify_delete_users.log」が受け取れない可能性があり，処理結果が不明になる可能性があります。



8. 検査時と同様に「verify_delete_users.log」のダウンロードが開始されます。［保存］ボタンをクリックします。

> **注　意**
>
> 画面は更新されているにもかかわらず何も起きない場合，［ユーザ削除］に指定したファイルパスにファイルが存在しない可能性があります。正しいファイルパスを指定し，再度［削除］ボタンをクリックしてください。

9. 保存した「verify_delete_users.log」を開き，最終行を確認します。「OK」と記載されていれば，ユーザの一括削除は成功です。

最終行が NG の場合は，正しいユーザ削除 CSV ファイルのフォーマットではありません。各レコード（後述）の右側に検査結果と，エラー内容(エラーの場合)が追記されています。エラーの原因を修正してから再度［ユーザ削除］ボタンをクリックしてください。

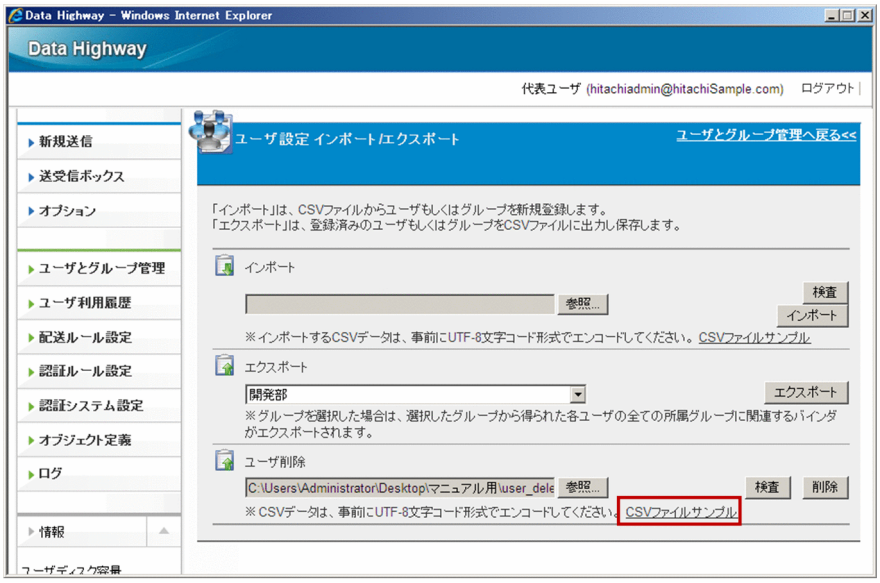
注　意

ユーザの一括削除は全件成功するか，全件失敗するかのどちらかです。すべてのレコードの処理が成功した場合にだけ結果が反映されます。1 件でも処理が失敗するレコードが存在した場合は，結果は一切反映されません。

(a)　ユーザ削除 CSV ファイルのフォーマット

［ユーザ設定 インポート/エクスポート］画面で［CSV ファイルサンプル］をクリックして，「インポート CSV ファイルサンプル」をダウンロードして保存します。

保存したファイルの「レコード」部分を削除したいユーザに編集すると，容易にユーザを一括削除することができます。



「インポート CSV ファイルサンプル」を次に示します。ユーザ削除 CSV ファイルは，大項目「ユーザ定義部」だけで構成されます。

図 3-7　ユーザ削除 CSV ファイルサンプル

：ユーザ定義部

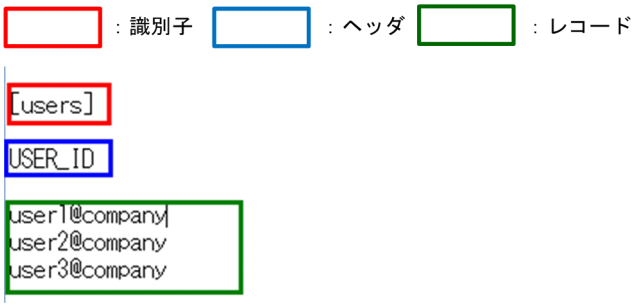
```
[users]

USER_ID
user1@company
user2@company
user3@company
```

ユーザ定義部

ユーザを指定し，ユーザの削除を行います。ユーザ定義部は以下の「ユーザ定義部サンプル」のように 3 つの要素で構成されています。

図 3-8　ユーザ削除 CSV サンプルファイル（ユーザ定義部）



識別子

続く行がユーザ定義部であることを識別するための固定文字列です。ユーザを 1 件も削除しない（レコードが 1 件もない）場合でも必須となります。

ヘッダ

レコードの項目名を示す固定文字列です。ユーザを 1 件も削除しない（レコードが 1 件もない）場合でも必須となります。

レコード

削除するユーザの情報を 1 件につき 1 行ずつ記述します。件数の上限は 300 件です。

各項目の説明は以下の表を参考にしてください。

表 3-33　レコード項目（ユーザ定義部サンプル）

項番	項目	項目（日本語）	説明	省略
1	USER_ID※	ユーザ ID	削除するユーザのユーザ ID を指定します。 「任意文字列」＋「@」＋「ドメイン名」の形式で記述してください。ドメイン名は代表ユーザのドメイン名と同じです。 • 存在しないユーザ ID は指定できません。 • 削除すると承認ルート内の承認者が不在となるユーザは削除できません。 • 自分自身は削除できません。 例）user1@company	不可

注※

入力可能な文字はユーザ作成時と同じです。「3.4.2(2)　ユーザを作成する」を参照してください。

(b)　検査ボタンでの検査項目

検査ボタンで検査する項目を次に示します。インポート実行時はこれら以外の項目によってエラーとなることがあります。エラーメッセージの一覧は「付録 C　CSV エラーメッセージ一覧」を参照してください。

表 3-34　検査項目（ユーザ定義部サンプル）

項番	定義部	項目	説明
1	ユーザ定義部	件数	レコード件数が 300 件を超えていないかを検査します。

項番	定義部	項目	説明
2	ユーザ定義部	項目数	各レコードの項目数が規定値であるかを検査します。
3		必須	省略できない項目が省略されていないかを検査します。
4		文字長	各項目に入力した文字列が規定値の文字長あるかを検査します。
5		文字種	各項目に入力した文字列に禁止されている文字が入力されていないかを検査します。
6		存在	入力したユーザが存在しているかを検査します。
7		承認ルート	承認ルートに指定されているユーザで，その承認ルートに指定されているただ 1 人のユーザでないかを検査します。
8		自身	自身を削除しようとしていないかを検査します。

3.5.3　配送ルール設定

配送ルールを設定する操作について説明します。配送ルールについての詳しい説明は「付録 A　配送ルール」を参照してください。

(1)　配送ルールを作成する

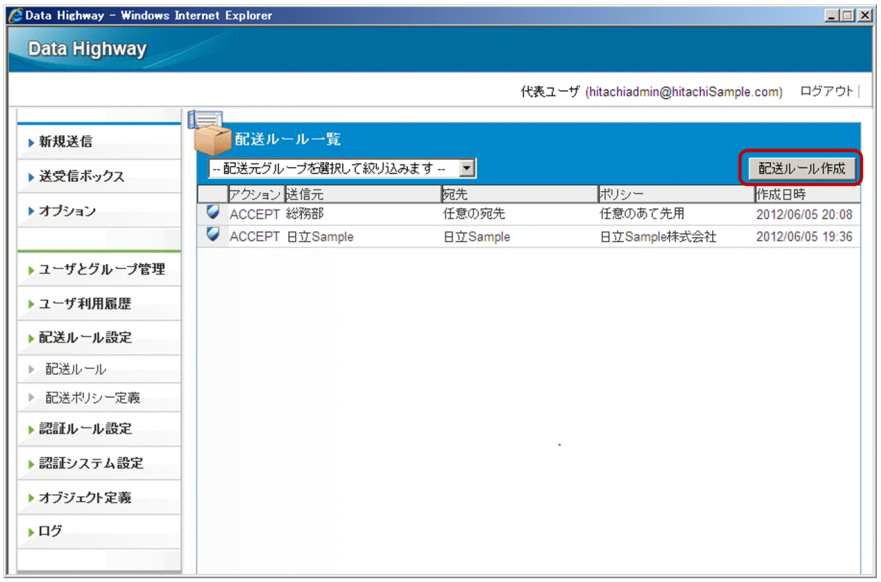
配送ルールを作成する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［配送ルール設定］－［配送ルール］をクリックします。
   コンテント領域に［配送ルール一覧］画面が表示されます。

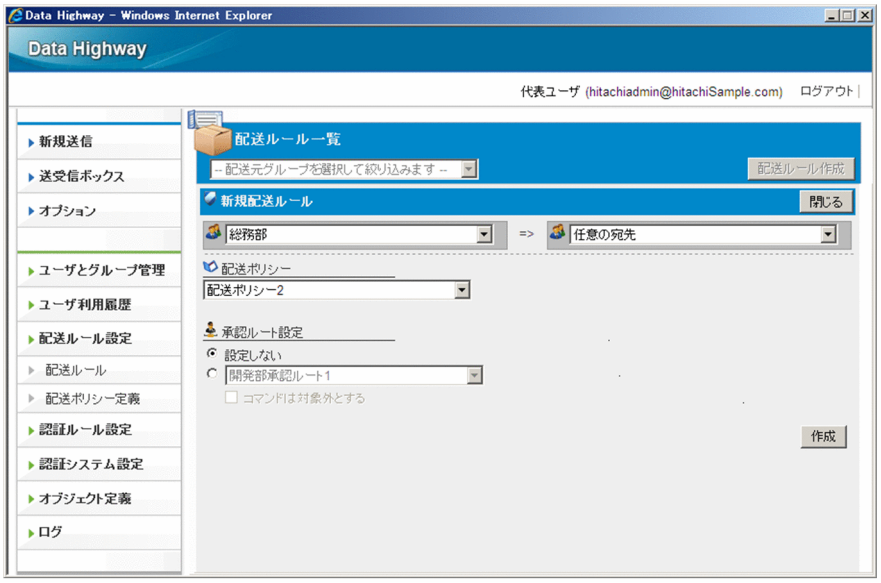
   補足説明

   ［配送元グループ選択］ドロップダウンリストボックスで，配送元グループを指定すると，表示する配送ルールを絞り込みできます。絞り込み結果には，配送元グループに指定したグループの親グループが配送元となっている配送ルールも表示されます。

2. ［配送ルール作成］ボタンをクリックします。
   ［新規配送ルール］画面が表示されます。



3. 配送ルールを作成します。



次の項目を指定します。

表 3-35　配送ルールの設定項目

項目	説明
[配送元] ドロップダウンリストボックス	どのグループからどのグループに，ファイル／メッセージを送信するときに配送ルールを適用するかを指定します。 配送先に［任意の宛先］を選択した場合，宛先の任意入力を許可されたユーザは，システムに未登録の宛先を含む任意の宛先へメールを送信できます。 なお，配送先にはシステムに未登録の宛先グループを指定できますが，配送元には指定できません。
[配送先] ドロップダウンリストボックス	
[配送ポリシー] ドロップダウンリストボックス	適用する配送ポリシーを選択します。 配送ポリシーは必ず選択する必要があります。 他の配送ルールで使用中の配送ポリシーは使用できません。

項目	説明
［承認ルート設定］ラジオボタン	承認ルートを指定します。 • 設定しない 承認ルートを設定しません。 • ［承認ルート］ドロップダウンリストボックス 選択した承認ルートが適用されます。 • ［コマンドは対象外とする］チェックボックス※ 承認ルートを設定した場合に指定します。 このチェックボックスを選択すると，配送ルールに承認ルートが設定されていても，JP1/Data Highway - AJE での送信時には承認処理をスキップして送信します。 デフォルトでは選択されています。 なお，この機能は JP1/Data Highway - AJE 10-10 以降で送信を実行した場合に有効です。

注※

システムの設定により，表示されない場合があります。

補足説明

［コマンドは対象外とする］チェックボックスを選択した場合，JP1/Data Highway - AJE で送信したときは次の動作となります。

- 承認者へ承認申請メールは通知されません。
- 承認者は，承認許可/却下の処理が不要です。
- 受信者は，承認者の承認許可/却下の処理を待たずにファイルを受信できます。
- 監査ログには「SKIP_DELIVERY_APPROVAL」イベントが記録されます。

4. ［作成］ボタンをクリックします。

配送ルールが作成されます。

(2) 配送ルールを編集する

配送ルールを編集する手順を次に示します。

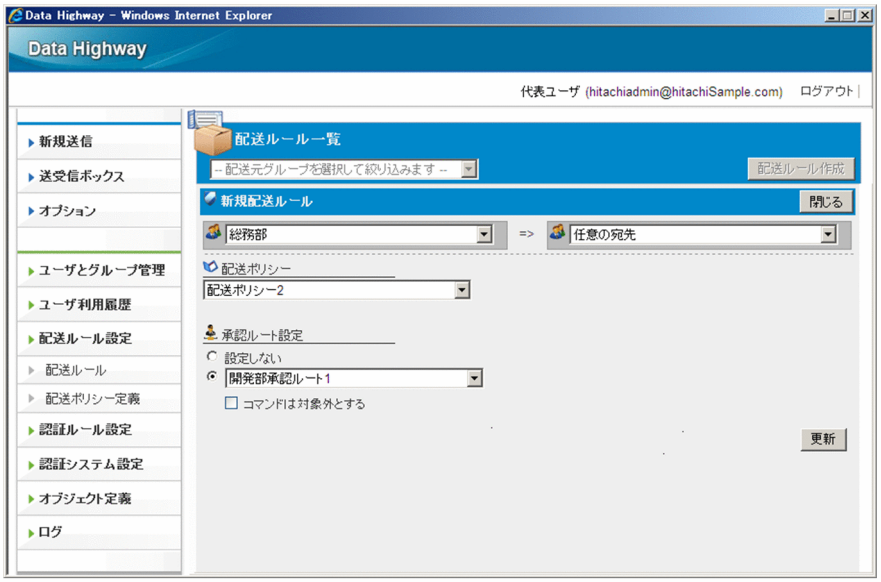
1. サイドバー領域の［配送ルール設定］－［配送ルール］をクリックします。

コンテント領域に［配送ルール一覧］画面が表示されます。

2. 編集する配送ルールのメニューアイコン( )をクリックして，［編集］を選択します。

［配送ルール編集］画面が表示されます。

3. 設定を変更します。項目の内容については「(1) 配送ルールを作成する」を参照してください。



4. [更新] ボタンをクリックします。
   配送ルールの設定が更新されます。

(3) 配送ルールを有効化／無効化／削除する

配送ルールを有効化，無効化，または削除する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［配送ルール設定］ − ［配送ルール］をクリックします。
   コンテント領域に［配送ルール一覧］画面が表示されます。

2. 処理を行う配送ルールのメニューアイコン( )をクリックして，メニューを選択します。

   表 3-36 配送ルールの有効化／無効化／削除

項目	説明
［有効化］	無効となっている配送ルールを有効化します。
［無効化］	配送ルールを無効化します。 無効化した配送ルールは，利用できなくなります。有効化すると，再び利用可能となります。
［削除］	配送ルールを削除します。一度削除した配送ルールを元に戻すことはできません。

3. 選択したメニューに応じた確認ダイアログが表示されます。［OK］ボタンをクリックすると，処理が実行されます。

(4) 配送ポリシーを作成する

配送ポリシーを作成する手順を次に示します。

参　考

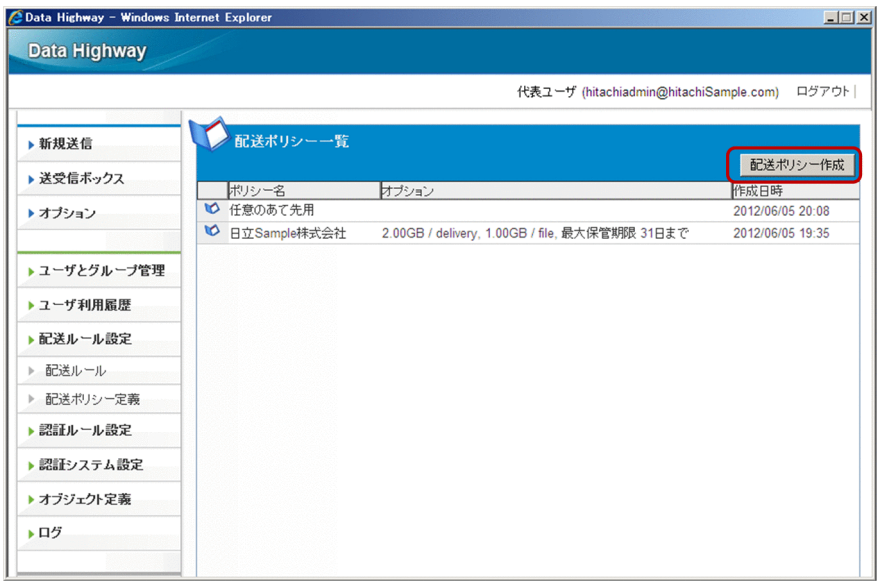
既存の配送ポリシーと同じ内容の配送ポリシーを作成する場合は，編集する配送ポリシーのメニューアイコン( )をクリックして［複製］を選択すると，ポリシー名を除いた内容を複写した［新規配送ポリシー］画面が表示されます。ポリシー名だけを別名にして，同じ内容の配送ポリシーを作成したい場合などは，複製の使用を推奨します。

1. サイドバー領域の［配送ルール設定］－［配送ポリシー定義］をクリックします。

   コンテント領域に［配送ポリシー一覧］画面が表示されます。

2. ［配送ポリシー作成］ボタンをクリックします。

   ［新規配送ポリシー］画面が表示されます。



3. 配送ポリシーを作成します。

次の項目を指定します。

表 3-37　配送ポリシーの設定項目

分類	項目	説明
ポリシー名※1	[ポリシー名(日本語/中国語)] テキストボックス	ポリシー名を入力します。 ここで入力した値は，日本語と中国語の画面で表示されます。
	[ポリシー名(英語)] テキストボックス	ポリシー名を入力します。 入力できる文字は半角英数字と記号です。ここで入力した値は，英語の画面で表示されます。
配送データ量	[配送データ量] チェックボックス，テキストボックス	送信できるデータ量の上限値を入力します。 チェックした項目が有効になります。入力できる最大値は，システム管理者の設定により異なります。 • MB/delivery 1 度の配送で送信可能な上限データ量を表します。チェックを外した場合は，システムの標準値（初期値は 2048MB/delivery）となります。 • MB/file 送信可能な最大ファイルサイズを表します。チェックを外した場合は，システムの標準値（初期値は 2048MB/file）となります。

分類	項目	説明
配送データ量	［配送データ量］チェックボックス，テキストボックス	MB/file には，MB/delivery より大きな値は指定できません。
保存期間	［保存期間］チェックボックス，テキストボックス	• ［最大］ ユーザが新規送信時に指定できる最大の保存期間を入力します。チェックを外した場合は，システム管理者が設定した値となります。 • ［標準］ ユーザが設定を変更しなかった場合に適用されるデフォルトの保存期間を入力します。チェックを外した場合は［最大］の値と同じになります。入力できる最大値は，システム管理者の設定により異なります。
セキュリティ	［ダウンロード制限（1 回）項目］ドロップダウンリストボックス	受信者がファイルをダウンロードできる回数を 1 回に制限する機能です。 本機能の扱いをどうするかを選択します。
通知	［ファイル送信時の通知設定項目］ドロップダウンリストボックス	ファイルのアップロードまたはメッセージの送信が行われた場合に，送信者，および受信者にその旨を通知する機能です。 本機能の扱いをどうするかを選択します。
	［開封通知設定項目］ドロップダウンリストボックス	ファイルが開封された場合に，送信者にその旨を通知する機能です。 本機能の扱いをどうするかを選択します。
	［期限切れ前日通知設定項目］ドロップダウンリストボックス	保存期限切れ前日までにファイルが開封されなかった場合に，送信者にその旨を通知する機能です。 本機能の扱いをどうするかを選択します。
	［期限切れ通知設定項目］ドロップダウンリストボックス	ファイルの保存期限が切れた場合に，送信者にその旨を通知する機能です。 本機能の扱いをどうするかを選択します。
	［詳細表示設定項目］ドロップダウンリストボックス	ファイル配送メールにファイルの詳細情報などを記載するかを設定する機能です。 本機能の扱いをどうするかを選択します。
	［指定日までに未ダウンロード時の通知設定項目］ドロップダウンリストボックス	送信者が指定した日までに受信者がダウンロードをしていない場合に，受信者にその旨を通知メールで送信する機能です。 本機能の扱いをどうするかを選択します。 なお，JP1/Data Highway - AJE 10 以前で送信した場合は，通知メールは送信されません。
	［指定日までに未承認時の通知設定項目］ドロップダウンリストボックス	送信者が指定した日までに承認者が承認または却下していない場合に，承認者にその旨を通知メールで送信する機能です。 本機能の扱いをどうするかを選択します。 この配送ポリシーを適用した配送ルールに承認ルートが設定されていない場合は，指定を無視します。

分類	項目	説明
通知	[指定日までに未承認時の通知設定項目] ドロップダウンリストボックス	なお，JP1/Data Highway - AJE 10 以前で送信した場合は，通知メールは送信されません。
圧縮	[圧縮強度] チェックボックス	送信者が選択できる圧縮強度を指定します。チェックを外した場合は，システムの標準値（初期値は圧縮なしだけ選択可）となります。 • [圧縮なし]：ファイルを圧縮しません。 • [強]：最も圧縮率が高い方式でファイルを圧縮します。 • [中]：圧縮率が中程度の方式でファイルを圧縮します。 • [弱]：最も圧縮率が低い方式でファイルを圧縮します。
	[圧縮方式] ※2	圧縮方式を選択します。 • [標準]：フォルダを送信する場合，または[圧縮強度]が[強][中][弱]のどれかの場合，ZIP 形式で送信します。 ZIP 形式で送信する場合，3.96GB（4,252,017,623 バイト）以上のファイル，フォルダの送信はできません。 • [拡張]：フォルダを送信する場合，または[圧縮強度]が[強][中][弱]のどれかの場合，拡張圧縮方式で送信します。 なお，JP1/Data Highway - AJE 10 以前の場合は，ZIP 形式で圧縮して送信されます。また，拡張圧縮方式で送信された配送は，JP1/Data Highway - AJE 10 以前では受信できません。
その他オプション	[最大宛先数] チェックボックス	チェックすると，一度の配送で指定できる宛先の上限が設定されます。チェックを外した場合は，システム管理者が設定した値となります。
	[最大登録ファイル数] チェックボックス	チェックすると，一度の配送で指定できるファイル数の上限が設定されます。チェックを外した場合は，システムの標準値（初期値は 5）となります。
通信※3	[通信モジュール最大 TCP 接続数] チェックボックス	チェックすると，ファイル送信時および受信時の通信多重度の最大本数を設定できます。 デフォルトは標準配送ポリシーの値です。
	[常に最大 TCP 接続数で通信] チェックボックス	チェックすると，[通信モジュール最大 TCP 接続数] で設定した最大本数で，常に通信をするかどうかを指定できます。 • [する]：常に最大本数での通信を行います。 • [しない]：ネットワーク距離に応じて，自動的に接続数が決定されます。 デフォルトは標準配送ポリシーの値です。

注※1

・入力する文字に記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。

・空白だけ，ピリオド(.)だけの名前は使用できません。

・入力できる文字数は 256 文字以内です。

注※2

拡張圧縮方式で送信した配送を JP1/Data Highway - AJE 10 以前で受信しようとすると，その配送の受信はスキップされ，拡張圧縮方式以外で送信した配送だけが受信できます。JP1/Data Highway - AJE 10 以前で受信する運用の場合は，バージョンに合わせて配送ポリシーを設定してください。

注※3

この項目はシステム管理者の設定によって，表示されない場合があります。

4. ［作成］ボタンをクリックします。

配送ポリシーが作成されます。

(5)　配送ポリシーを編集する

配送ポリシーを編集する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［配送ルール設定］－［配送ポリシー定義］をクリックします。

コンテント領域に［配送ポリシー一覧］画面が表示されます。

2. 編集する配送ポリシーのメニューアイコン( )をクリックして，［編集］を選択します。

［配送ポリシー編集］画面が表示されます。

3. 設定を変更します。項目の内容については「(4)　配送ポリシーを作成する」を参照してください。

配送データ量の上限値は，すでに転送済みの総データ量を下回る値には変更できません。

4. ［更新］ボタンをクリックします。

配送ポリシーの設定が更新されます。

(6)　配送ポリシーを削除する

配送ポリシーを削除する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［配送ルール設定］－［配送ポリシー定義］をクリックします。
   コンテント領域に［配送ポリシー一覧］画面が表示されます。

2. 削除する配送ポリシーのメニューアイコン( )をクリックして，［削除］を選択します。
   確認ダイアログが表示されます。

3. ［OK］ボタンをクリックすると，配送ポリシーが削除されます。

> **注　意**
>
> 配送ポリシーを削除すると，削除する配送ポリシーを適用している配送ルールも削除されます。

3.5.4　認証ルール設定

認証ルールを設定する操作について説明します。

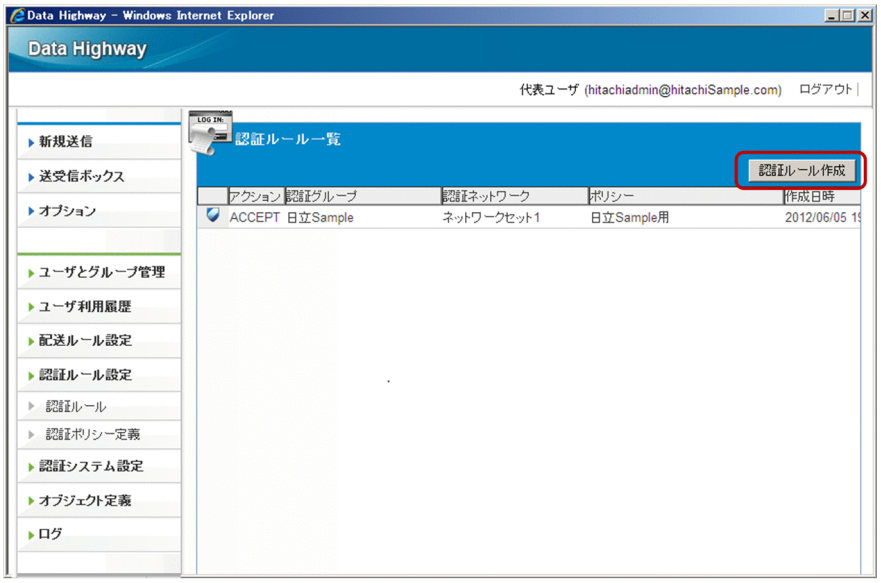
認証ルールについての詳細は「付録 B　認証ルール」を参照してください。

(1) 認証ルールを作成する

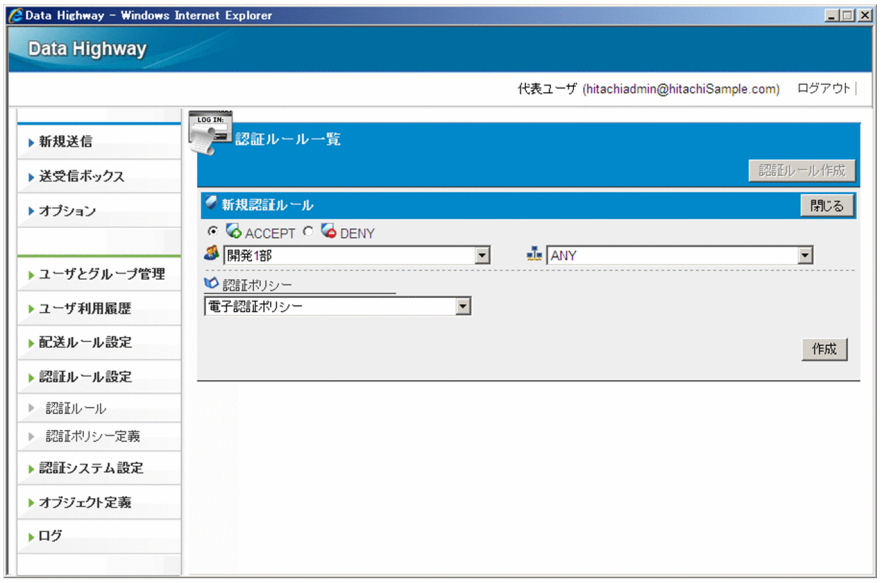
認証ルールを作成する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［認証ルール設定］－［認証ルール］をクリックします。
   コンテント領域に［認証ルール一覧］画面が表示されます。

2. ［認証ルール作成］ボタンをクリックします。
   ［新規認証ルール］画面が表示されます。



3. 認証ルールを作成します。



次の項目を指定します。

表 3-38　認証ルールの設定項目

項目	説明
［ACCEPT/DENY］ラジオボタン	• ACCEPT 設定したルールを受け付ける場合に選択します。 • DENY 設定したルールを拒否する場合に選択します。
［グループ］ドロップダウンリストボックス	ルールを適用するグループを選択します。
［ネットワークセット］ドロップダウンリストボックス	ルールを適用するネットワークセットを選択します。
［認証ポリシー］ドロップダウンリストボックス	適用する認証ポリシーを選択します。

4. ［作成］ボタンをクリックします。
   認証ルールが作成され，登録完了を確認するダイアログが表示されます。

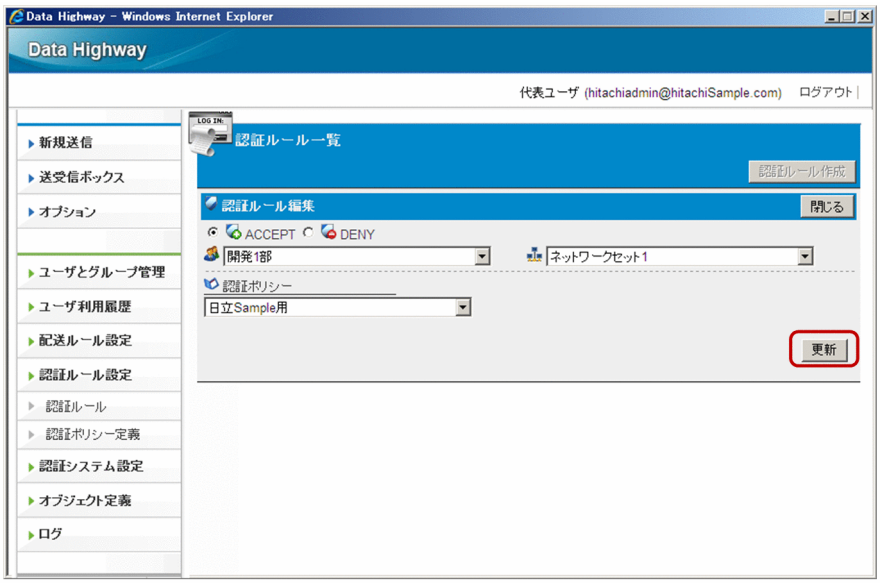
5. ［OK］ボタンをクリックします。
   ［認証ルール一覧］画面が表示されます。

(2)　認証ルールを編集する

認証ルールを編集する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［認証ルール設定］－［認証ルール］をクリックします。
   コンテント領域に［認証ルール一覧］画面が表示されます。

2. 編集する認証ルールのメニューアイコン( )をクリックして，［編集］を選択します。
   ［認証ルール編集］画面が表示されます。



3. 設定を変更します。項目の内容については「(1)　認証ルールを作成する」を参照してください。

4. [更新] ボタンをクリックします。
   認証ルールの設定が更新され，登録完了を確認するダイアログが表示されます。

5. [OK] ボタンをクリックします。
   ［認証ルール一覧］画面が表示されます。

(3)　認証ルールを有効化／無効化／削除する

認証ルールを有効化，無効化，または削除する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［認証ルール設定］－［認証ルール］をクリックします。
   コンテント領域に［認証ルール一覧］画面が表示されます。

2. 処理を行う認証ルールのメニューアイコン( )をクリックして，メニューを選択します。

   表 3-39　認証ルールの有効化／無効化／削除

項目	説明
［有効化］	認証ルールを有効化します。
［無効化］	認証ルールを無効化します。 無効化した認証ルールは，一時的に利用できなくなります。 有効化することで再び利用可能になります。
［削除］	認証ルールを削除します。一度削除した認証ルールを元に戻すことはできません。

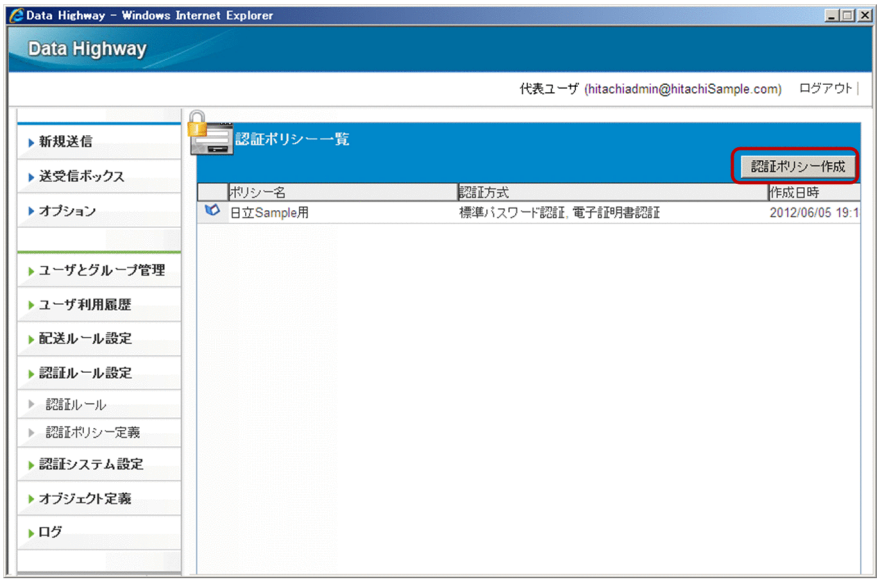
3. 選択したメニューに応じた確認ダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると，処理が実行されます。

(4)　認証ポリシーを作成する

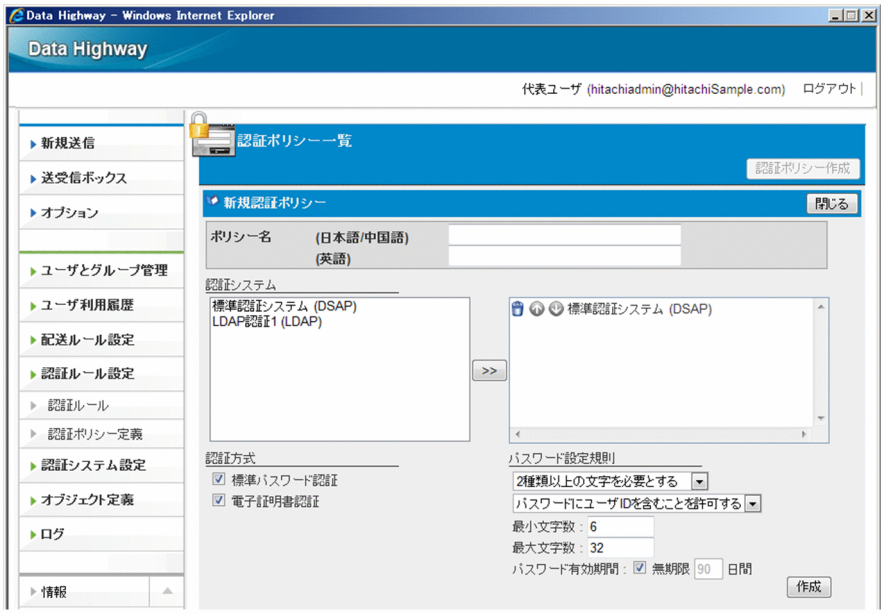
認証ポリシーを作成する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［認証ルール設定］－［認証ポリシー定義］をクリックします。
   コンテント領域に［認証ポリシー一覧］画面が表示されます。

2. [認証ポリシー作成] ボタンをクリックします。
   ［新規認証ポリシー］画面が表示されます。



3. 認証ポリシーを作成します。



次の項目を指定します。

表 3-40　認証ポリシーの設定項目

項目	説明
[ポリシー名(日本語/中国語)] テキストボックス※1	ポリシー名を入力します。 ここで入力した値は，日本語と中国語の画面で表示されます。
[ポリシー名(英語)] テキストボックス※1	ポリシー名を入力します。 ここで入力した値は，英語の画面で表示されます。入力できる文字は半角英数字と記号です。
認証システム	認証ポリシーで使用する認証システムを，[>>] ボタンで選択します。複数の認証システムの選択はできません。

項目	説明
認証システム	すでに認証システムが選択されている場合は，［>>］ボタンをクリックしても追加されません。選択済みの認証システムは， アイコンをクリックすると，選択を解除できます。
認証方式	認証方式を選択します。両方の方式を選択することもできます。 認証システムで LDAP 認証システムを選択した場合は，指定できません。 • 標準パスワード認証：パスワード認証を使用します。 • 電子証明書認証：発行された電子証明書を利用した認証を使用します。
［パスワード設定規則］チェックボックス	使用できるパスワードの規則を設定します。 認証システムで LDAP 認証システムを選択した場合は，指定できません。 • 2 種類以上の文字を必要とする：数字，英小文字，英大文字，記号の 4 種類のうち，2 種類以上が含まれる必要があります。 • 2 種類以上の文字を必要としない パスワードにユーザ ID を含むかどうかを設定します。 • パスワードにユーザ ID を含むことを許可する • パスワードにユーザ ID を含むことを許可しない
	パスワード有効期間※2 デフォルトでは［無期限］チェックボックスが選択されています。有効期間を設定する場合は，［無期限］チェックボックスの選択を解除して，1～365 の範囲で日数を入力します。デフォルトは 90 日が設定されています。

注※1

・入力する文字に記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。

・空白だけ，ピリオド(.)だけの名前は使用できません。

・入力できる文字数は Windows の場合は 100 文字まで，Linux の場合は 256 文字までです。

注※2

無期限の状態から有効期間を設定する状態に変更した場合は，当該の認証ポリシーを使用しているユーザは，次回ログイン時にパスワードの変更が必要となります。

4. ［作成］ボタンをクリックします。

認証ポリシーが作成され，登録を確認するダイアログが表示されます。

5. ［OK］ボタンをクリックします。

［認証ポリシー一覧］画面が表示されます。

(5) 認証ポリシーを編集する

認証ポリシーを編集する手順を次に示します。

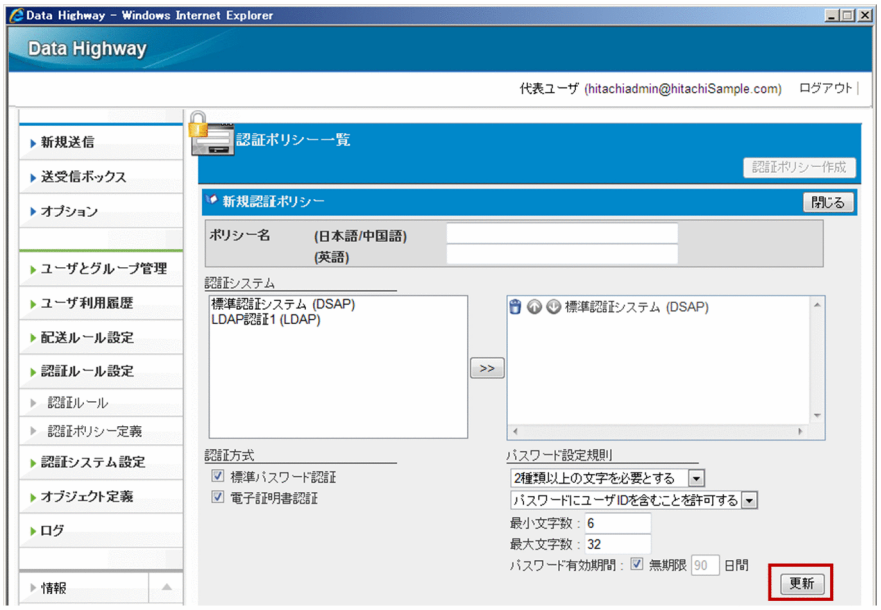
1. サイドバー領域の［認証ルール設定］－［認証ポリシー定義］をクリックします。

コンテント領域に［認証ポリシー一覧］画面が表示されます。

2. 編集する認証ポリシーのメニューアイコン( )をクリックして，［編集］を選択します。

［認証ポリシー編集］画面が表示されます。

3. 設定を変更します。項目の内容については「(4)　認証ポリシーを作成する」を参照してください。



4. [更新] ボタンをクリックします。
   認証ポリシーの設定が更新され，更新を確認するダイアログが表示されます。

5. [OK] ボタンをクリックします。
   [認証ポリシー一覧] 画面が表示されます。

> **注　意**
>
> 認証ポリシーの編集は，いったん JP1/DH - Server からログアウトしないと反映されない場合があります。

(6)　認証ポリシーを削除する

認証ポリシーを削除する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の [認証ルール設定] － [認証ポリシー定義] をクリックします。
   コンテント領域に [認証ポリシー一覧] 画面が表示されます。

2. 削除する認証ポリシーのメニューアイコン( )をクリックして，[削除] を選択します。
   削除を確認するダイアログが表示されます。

3. [OK] ボタンをクリックします。
   認証ポリシーが削除され，[認証ポリシー一覧] 画面が表示されます。

> **注　意**
>
> 認証ポリシーを削除すると，削除する認証ポリシーを適用している認証ルールも削除されます。

3.5.5　認証システム設定

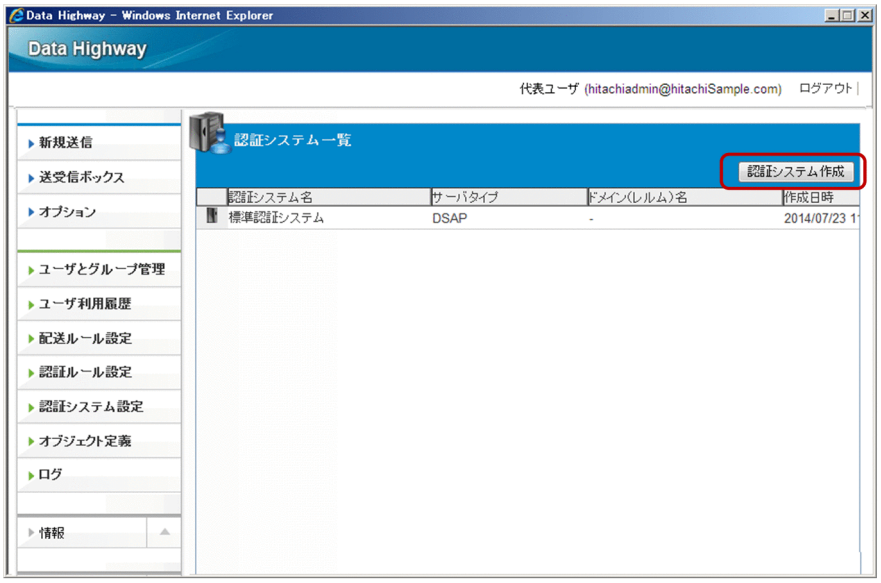
認証システムを設定する操作について説明します。

(1)　認証システムを作成する

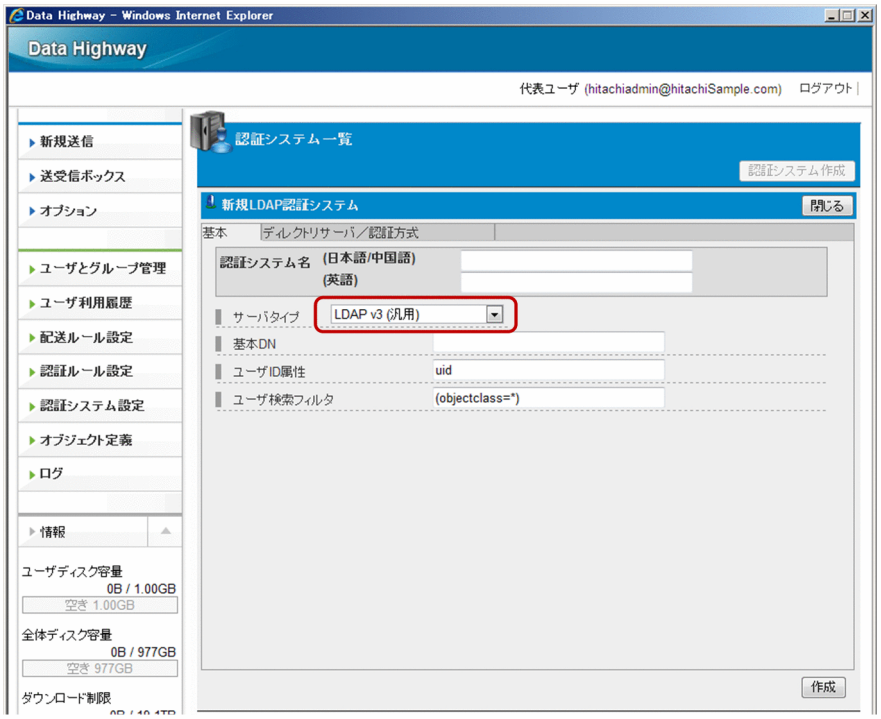
認証システムを作成する手順について説明します。

1. サイドバー領域の［認証システム設定］をクリックします。
   コンテント領域に［認証システム一覧］画面が表示されます。

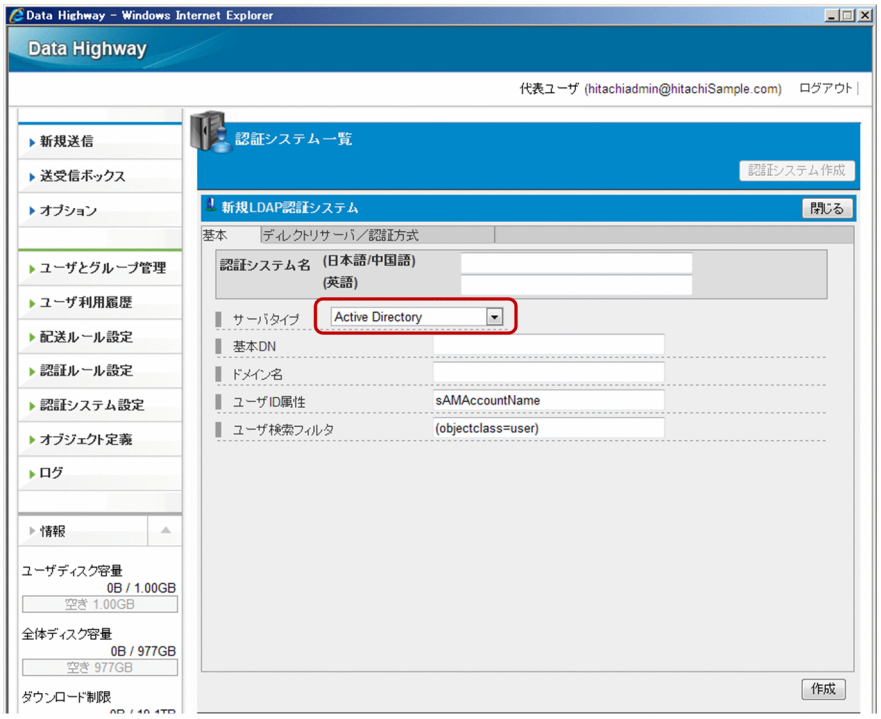
2. ［認証システム作成］ボタンをクリックします。
   ［新規 LDAP 認証システム］画面が表示されます。



3. ［基本］タブの設定をします。
   サーバタイプに「LDAPv3」を指定した場合



サーバタイプに「Active Directory」を指定した場合



次の項目を指定します。

表 3-41　［基本］タブの設定項目

項目	説明
認証システム名（日本語）	認証システム名として，識別可能な任意の文字列を入力します。 ここで入力した値は，日本語と中国語の画面で表示されます。 • 入力できる文字数は 256 文字以内です。

項目	説明
認証システム名（日本語）	• 記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。
認証システム名（英語）	認証システム名として，識別可能な任意の文字列を入力します。 ここで入力した値は，英語の画面で表示されます。 • 256 文字までの半角英数字と記号を入力できます。 • 記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。 • 空白だけ，ピリオド(.)だけは使用できません。
サーバタイプ	使用するディレクトリ・サーバの種類を選択します。 • LDAPv3（汎用）：Active Directory 以外の LDAPv3 互換ディレクトリ・サーバ • Active Directory：Active Directory サーバ 初期値は「LDAPv3（汎用）」です。 サーバタイプを変更すると，「認証システム名（日本語/中国語）」，「認証システム名(英語)」，「サーバタイプ」以外の項目の設定値は，リセットされて初期値に戻ります。 変更の際には，変更を確認するダイアログが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると，サーバタイプの変更が反映されます。
基本 DN※	ディレクトリ・サーバの DIT で，ユーザ探索の基点とする DN を指定します。一般的にはルートとなる DN を指定しますが，探索範囲を制限したい場合は，探索する範囲の基点とする DN を指定します。 「サーバタイプ」が「Active Directory」の場合，ディレクトリ・サーバ上のドメインを表す DN を指定することはできません。OU または CN を含む DN を指定してください。
ドメイン名	「サーバタイプ」が「Active Directory」の場合に，Active Directory のドメイン名（ドット区切り）を指定します。
ユーザ ID 属性	DIT 上のユーザエントリで，ユーザ ID を保持する属性を指定します。 「サーバタイプ」に「LDAPv3（汎用)」を指定した場合，初期値は「uid」です。ご利用のシステム設計に合わせて変更してください。 「サーバタイプ」に「Active Directory」を指定した場合，ユーザ ID 属性は「sAMAccountName」としてください。
ユーザ検索フィルタ	ディレクトリ・サーバの DIT で，ユーザを探索する際の条件を指定します。 「サーバタイプ」に「LDAPv3（汎用)」を指定した場合，ユーザ検索フィルタは「(objectclass=*)」としてください。 「サーバタイプ」に「Active Directory」を指定した場合，ユーザ検索フィルタは「(objectclass=user)」としてください。

注※

・次に示す LDAP の特殊文字を使用する場合は，エスケープ処理が必要となります。

，（カンマ），+（プラス），=（イコール），”（ダブルクォーテーション），¥（エンマーク），く（小なり），>（大なり），；（セミコロン），#（シャープ）（DN の先頭文字に指定する場合だけ），/（スラッシュ）

・Active Directory の場合は，¥¥を記号の前に付加してください。

例えば，#の場合は¥¥#と記述します。ただし，¥の場合は¥¥¥¥，/の場合は¥/と記述してください。

・OpenLdap の場合は，¥を記号の前に付加してください。

例えば，#の場合は¥#，¥の場合は¥¥と記述します。

「ユーザ ID 属性」および「ユーザ検索フィルタ」から構成される検索フィルタ式によって，ユーザが特定されます。初期設定の場合，次に示すフィルタ式でディレクトリ・サーバを探索します。

- 「サーバタイプ」が「LDAPv3」の場合：(&(uid=%s)(objectclass=*))
- 「サーバタイプ」が「Active Directory」の場合：(&(sAMAccountName=%s)(objectclass=user))

注　意

「%s」は，本システムのログイン時に指定されたユーザ ID の「@」よりも左側の部分です。このフィルタ式によってユーザエントリが複数特定される場合で，認証資格情報（パスワードなど）が同一のときは，ログインを許可しません。

「ユーザ ID 属性」には，一意にユーザエントリを特定することが可能な属性を指定してください。

4. [ディレクトリサーバ/認証方式] タブの設定をします。

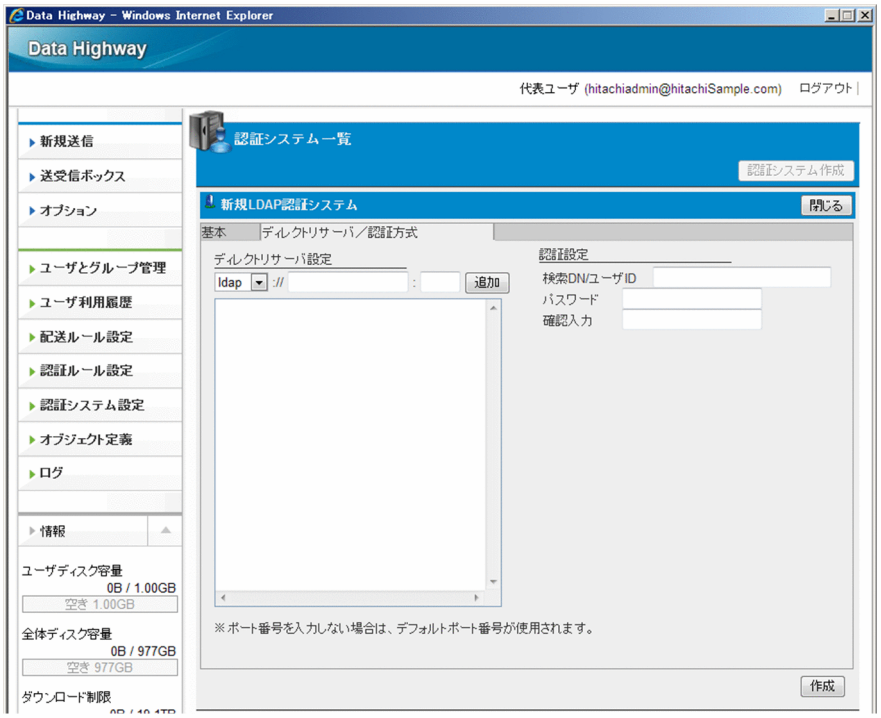


表 3-42　[ディレクトリサーバ/認証方式] タブの設定項目

分類	項目	説明
ディレクトリサーバ設定	プロトコル	次のどちらかを選択します。 • ldap：ディレクトリ・サーバとの通信に通常の LDAP を使用する場合に選択します。なお，通信情報は暗号化されないため，LAN 環境以外での利用は推奨しません。 • ldaps：ディレクトリ・サーバとの通信を SSL によって暗号化する場合に選択します。ディレクトリ・サーバによる LDAPS のサポートが必要となります。

分類	項目	説明
ディレクトリサーバ設定	プロトコル	初期値は「ldap」です。
	ホスト名	ディレクトリ・サーバのホスト名を指定します。
	ポート番号	ディレクトリ・サーバとの通信に使用するポート番号を指定します。入力を省略した場合は，デフォルトポート番号が設定されます。デフォルトポート番号を次に示します。 • プロトコルに「ldap」を指定した場合：389 • プロトコルに「ldaps」を指定した場合：636
	［追加］ボタン	設定した内容でディレクトリ・サーバの URL が組み立てられ，ディレクトリ・サーバ一覧に追加されます。ただし，すでにディレクトリ・サーバが登録されている場合は，追加されません。登録できるディレクトリ・サーバは 1 つだけです。
認証設定	検索 DN/ユーザ ID	ディレクトリ・サーバの DIT を探索する際に使用するユーザの DN，またはユーザ ID を指定します。 探索に使用するユーザは，DIT を探索できる権限を持っている必要があります。［基本］タブの「サーバタイプ」に「LDAPv3（汎用）」を選択した場合は探索に使用するユーザの DN を，「Active Directory」を選択した場合は「ユーザ ID（sAMAccountName）」を指定します。Active Directory の場合は一般に「Administrator」を指定します。 なお，ディレクトリ・サーバの DIT を探索するユーザに適切な権限がない場合，ディレクトリ・サーバを使用した認証が正しく稼働せず，予期しない動作を引き起こすことがあります。
	パスワード	［検索 DN/ユーザ ID］に指定したユーザのパスワードを指定します。
	確認入力	指定したパスワードを確認のために入力します。

5. ［接続確認］ボタンをクリックして，設定したディレクトリ・サーバに接続できることを確認します。
6. ［作成］ボタンをクリックします。認証システムが作成されて，［認証システム一覧］画面に表示されます。

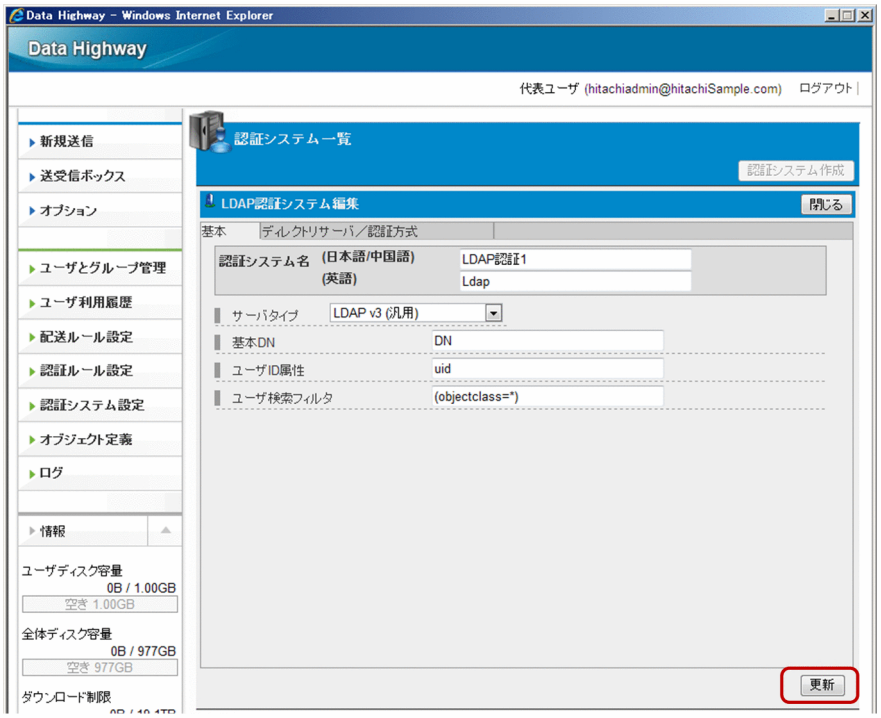
(2) 認証システムを編集する

認証システムを編集する手順について説明します。

1. サイドバー領域の［認証システム設定］をクリックします。
   コンテント領域に［認証システム一覧］画面が表示されます。
2. 編集する認証システムのメニューアイコン（ ）をクリックして，［編集］を選択します。
   ［LDAP 認証システム編集］画面が表示されます。
3. 設定を変更します。項目の内容については「3.5.5(1)認証システムを作成する」を参照してください。
4. ［接続確認］ボタンをクリックして，変更した設定でディレクトリ・サーバに接続できることを確認します。

5. [更新] ボタンをクリックします。

認証システムの設定が更新され，登録完了を確認するダイアログが表示されます。



6. [OK] ボタンをクリックします。

［認証システム一覧］画面が表示されます。

(3) 認証システムを削除する

認証システムを削除する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［認証システム設定］をクリックします。

コンテント領域に［認証システム一覧］画面が表示されます

2. 削除する認証システムのメニューアイコン( )をクリックして，［削除］を選択します。

削除を確認するダイアログが表示されます。

3. [OK] ボタンをクリックします。

認証システムが削除され，［認証システム一覧］画面が表示されます。

> **注 意**
>
> 認証ポリシーで使用されている認証システムは，削除はできません。

3.5.6　オブジェクト定義

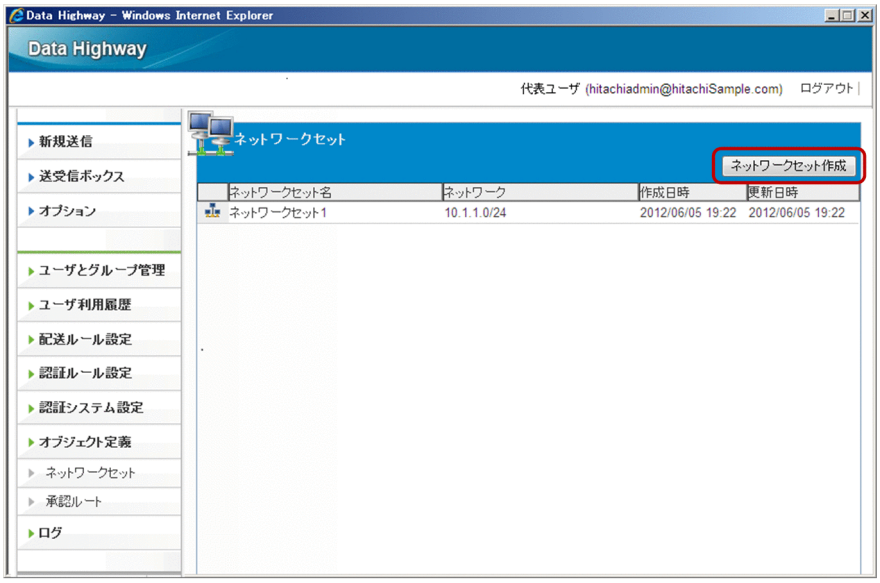
ネットワークセットおよび承認ルートを設定する操作について説明します。

(1)　ネットワークセットを作成する

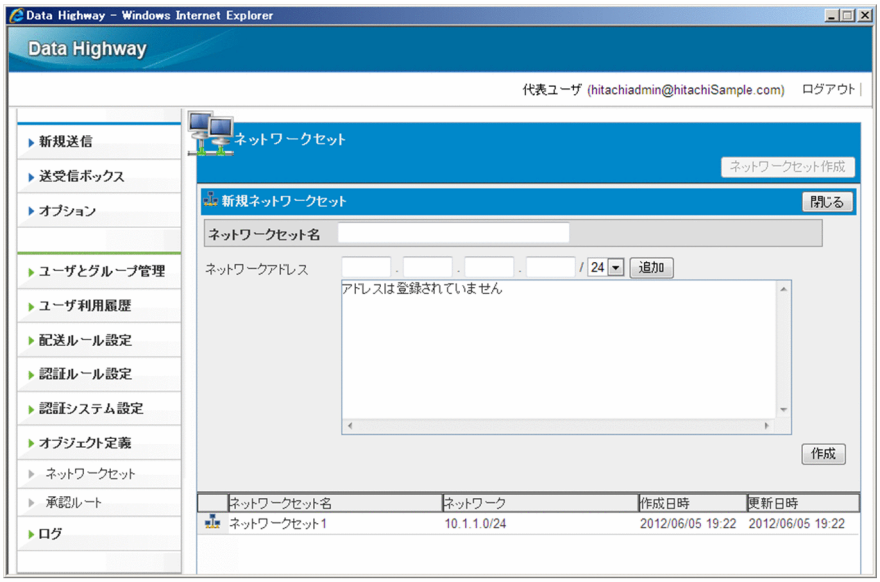
ネットワークセットを作成する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［オブジェクト定義］－［ネットワークセット］をクリックします。
   コンテント領域に［ネットワークセット］画面が表示されます。

2. ［ネットワークセット作成］ボタンをクリックします。
   ［新規ネットワークセット］画面が表示されます。



3. ネットワークセットを作成します。



次の項目を指定します。

表 3-43　ネットワーク設定の設定項目

項目	説明
［ネットワークセット名］テキストボックス	ネットワークセット名を入力します。 入力する文字に記号(/¥?*:|”<>@^)は使用できません。また空白だけ，ピリオド(.)だけの名前は使用できません。 入力できる文字数は 256 文字以内です。
［ネットワークアドレス］テキストボックス	ネットワークアドレスを入力します。 ［追加］ボタンをクリックすると，入力したアドレスが設定されます。 1 つのネットワークセットに複数のネットワークアドレスを設定することができます。 各テキストボックスには，0～255 の整数を入力してください。 1 つのネットワークセットに登録可能なネットワークアドレスの数は 100 件までです。

4. ［作成］ボタンをクリックします。
   ネットワークセットが作成されます。

(2)　ネットワークセットを編集する

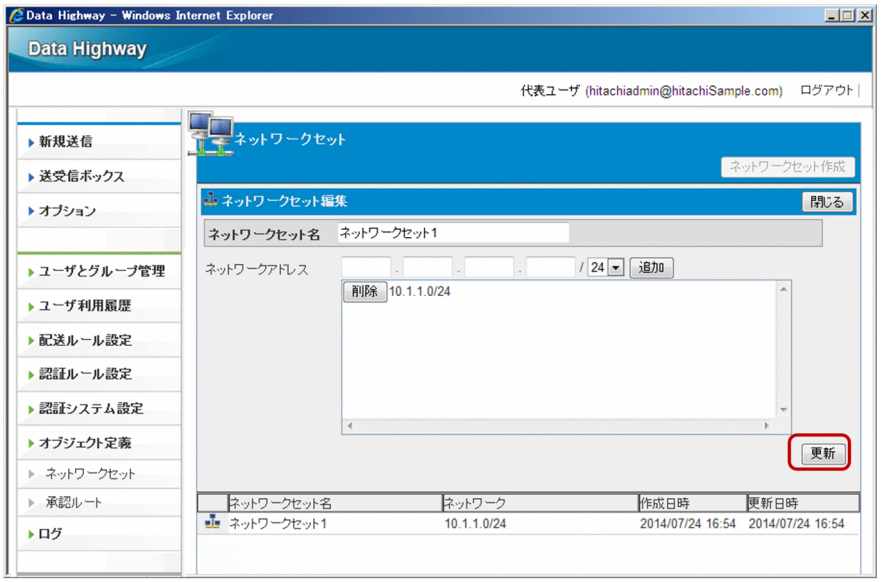
ネットワークセットを編集する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［オブジェクト定義］－［ネットワークセット］をクリックします。
   コンテント領域に［ネットワークセット一覧］画面が表示されます。

2. 編集するネットワークセットのメニューアイコン( )をクリックして，［編集］を選択します。
   ［ネットワークセット編集］画面が表示されます。

3. 設定を変更します。項目の内容については「(1)　ネットワークセットを作成する」を参照してください。

4. ［更新］ボタンをクリックします。



5. ネットワークセットの設定が更新されます。

(3) ネットワークセットを削除する

ネットワークセットを削除する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［オブジェクト定義］－［ネットワークセット］をクリックします。
   コンテント領域に［ネットワークセット］画面が表示されます。

2. 削除するネットワークセットのメニューアイコン( )をクリックして，［削除］を選択します。
   確認ダイアログが表示されます。

3. ［OK］ボタンをクリックすると，ネットワークセットが削除されます。

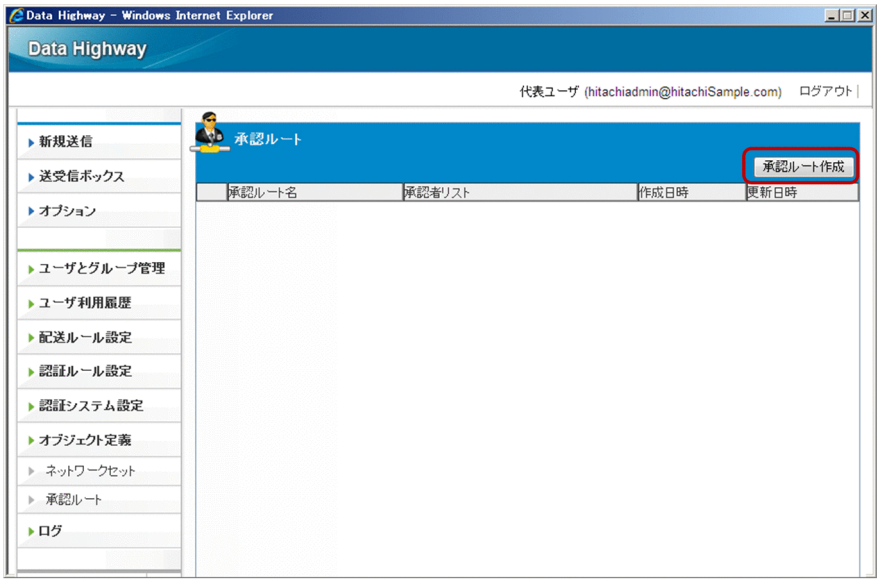
> **注　意**
>
> ネットワークセットを削除すると，削除するネットワークセットを適用している認証ルールも削除されます。

(4) 承認ルートを作成する

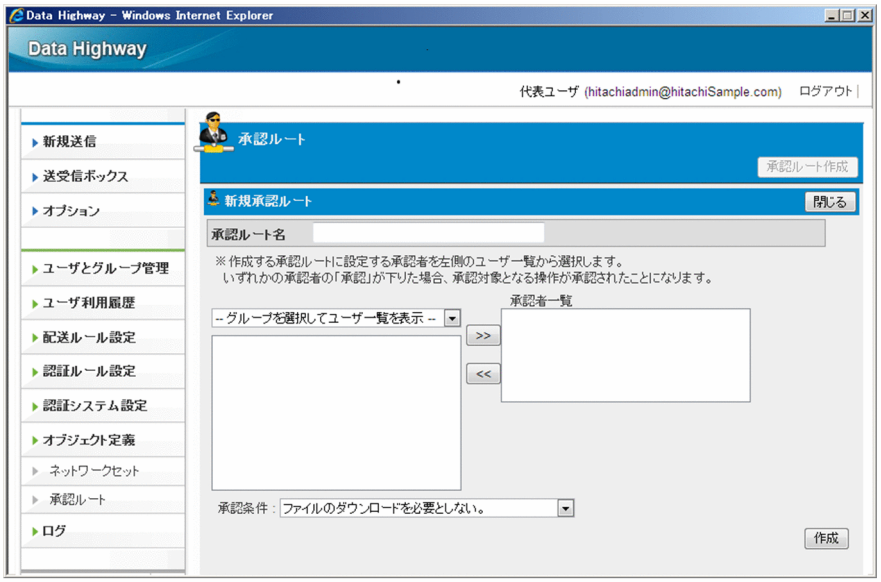
承認ルートを作成する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［オブジェクト定義］－［承認ルート］をクリックします。
   コンテント領域に［承認ルート］画面が表示されます。

2. ［承認ルート作成］ボタンをクリックします。
   ［新規承認ルート］画面が表示されます。



3. 承認ルートを作成します。



次の項目を指定します。

表 3-44　承認ルートの設定項目

項目	説明
[承認ルート名] テキストボックス	承認ルート名を入力します。 入力する文字に記号(/¥?*:|"<>@^)は使用できません。また空白だけ，ピリオド(.)だけの名前は使用できません。 入力できる文字数は 256 文字以内です。
[承認者一覧] リストボックス	承認者となるユーザを登録します。 [>>] ボタンをクリックすると，選択したユーザが登録されます。[<<] ボタンをクリックすると，選択したユーザの登録が解除されます。 この承認者一覧に登録されたユーザの内，いずれか 1 人が承認処理を実施することで，許可／却下が成立します。 招待者は承認者に指定することはできないため，招待者グループ・招待者は選択リストに表示されません。
[承認条件] ドロップダウンリストボックス	承認時の条件を選択します。 • ファイルのダウンロードを必要としない。 承認者がアップロードされたファイルをダウンロードしなくても承認ができる設定です。 • 少なくとも 1 つのファイルのダウンロードを必要とする。 承認者がアップロードされたファイルのうち，少なくとも 1 つ以上をダウンロードしなければ承認ができない設定です。 • 全てのファイルのダウンロードを必要とする。 承認者がアップロードされたファイルをすべてダウンロードしなければ承認ができない設定です。

4. [作成] ボタンをクリックします。

承認ルートが作成されます。

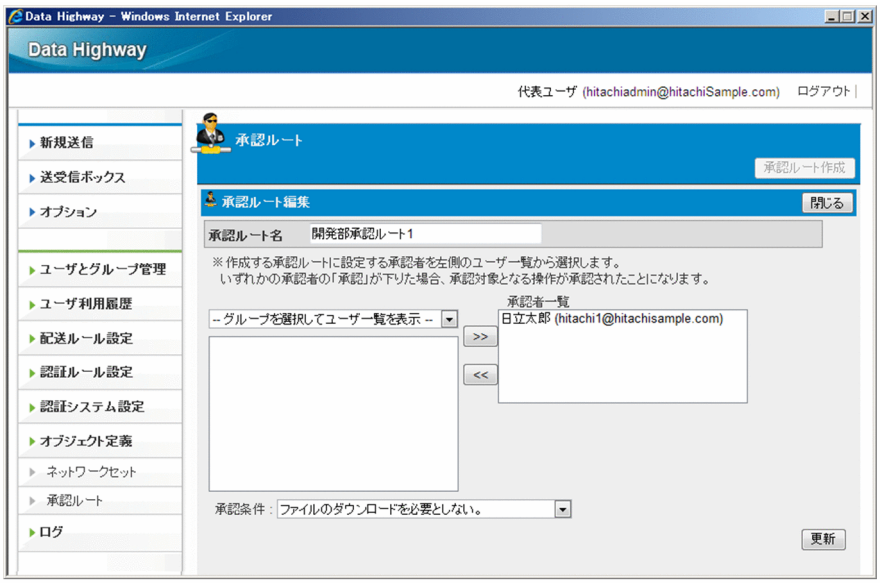
(5)　承認ルートを編集する

承認ルートを編集する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［オブジェクト定義］－［承認ルート］をクリックします。
   コンテント領域に［承認ルート］画面が表示されます。

2. 編集する承認ルートのメニューアイコン( )をクリックして，［編集］を選択します。
   ［承認ルート編集］画面が表示されます。

3. 設定を変更します。項目の内容については「(4)　承認ルートを作成する」を参照してください。



4. ［更新］ボタンをクリックします。
   承認ルートの設定が更新されます。

(6)　承認ルートを削除する

承認ルートを削除する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［オブジェクト定義］－［承認ルート］をクリックします。
   コンテント領域に［承認ルート一覧］画面が表示されます。
   ［承認ルート］画面については「(4)　承認ルートを作成する」を参照してください。

2. 削除する承認ルートのメニューアイコン( )をクリックして，［削除］を選択します。
   確認ダイアログが表示されます。

3. ［OK］ボタンをクリックすると，承認ルートが削除されます。

3.5.7　ログ

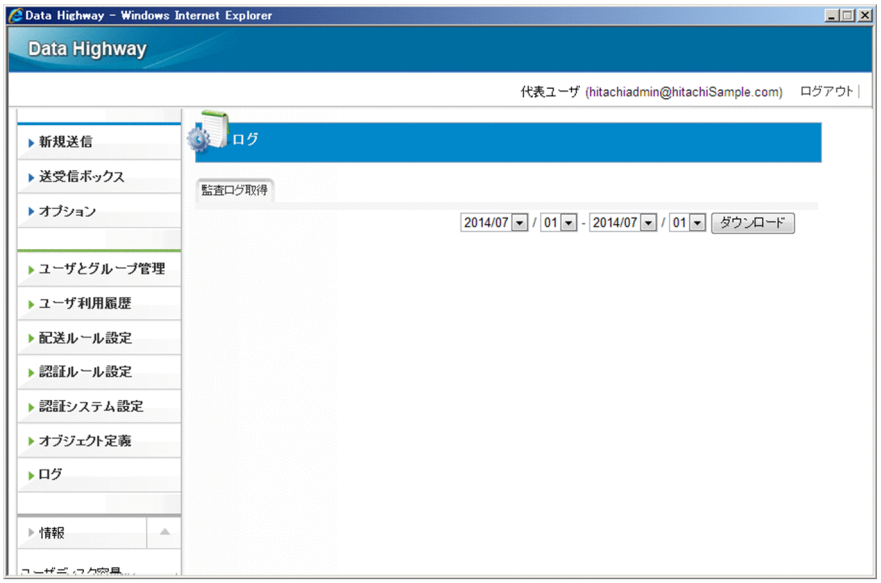
ログの操作について説明します。

(1)　監査ログを取得する

監査ログを取得する手順を次に示します。

1. サイドバー領域の［ログ］をクリックします。

2. コンテント領域に［監査ログ取得］画面が表示されます。



次の項目を指定します。

表 3-45　ログの設定項目

項目	説明
［開始年月日］ドロップダウンリストボックス	取得する監査ログの開始年月日を選択します。
［終了年月日］ドロップダウンリストボックス	取得する監査ログの終了年月日を選択します。 開始年月日よりも前の日付を指定した場合は空のファイルがダウンロードされます。

3. ［ダウンロード］ボタンをクリックします。

監査ログがダウンロードできます。

監査ログの文字コードは UTF-8 です。ご利用のビューアで文字が化ける場合は文字コードを UTF-8 に指定して監査ログを閲覧してください。

4 トラブルシュート

JP1/DH - Server を利用するにあたっての，トラブル解決の手段について説明します。

なお，一般ユーザに関するトラブルシュートは，Web 上から「JP1/Data Highway - Server ユーザーズガイド」をダウンロードして参照してください。

4.1 FAQ

4.1.1 グループ管理者ユーザに関する FAQ

グループ管理者に関する FAQ を以下に記載します。

表 4-1 グループ管理者に関する FAQ

項番	Question	Answer
1	ユーザのアカウントロック状態を手動で解除したい。	[ユーザとグループ管理]画面で，アカウントロック解除対象ユーザを有効にしてください。
2	[新規ユーザ]画面でユーザを作成，または[ユーザ編集]画面でユーザを編集しようとしたところ，「メールアドレス(xxx@xxx.xx)はすでに登録されています。」というメッセージが表示され，ユーザの作成，または編集ができません。	JP1/DH - Server では，メールアドレスを重複して登録することはできません。 代表ユーザや他の招待者に，作成または編集しようとしているメールアドレスが使用中でないかを確認してください。
3	[新規ユーザ]画面でユーザを作成しようとしたところ，「登録可能なユーザ数を超えています。ユーザを削除してから登録を行ってください。」というメッセージが表示され，ユーザが作成できません。	登録可能なユーザ数はシステム管理者がドメインに割り当てたユーザ数までとなります。 ユーザを追加したい場合は，システム管理者に連絡してください。
4	[ユーザとグループ管理]画面でツリー表示にして，長い名前のグループやユーザをクリックしても[編集]などのメニューが表示されません。	さらに右側に表示されています。グループやユーザをクリックしたあと，キーボードの右ボタンを押すと，メニューをクリックできる状態となります。

4.1.2 代表ユーザに関する FAQ

代表ユーザに関する FAQ を以下に記載します。

表 4-2 代表ユーザに関する FAQ

項番	Question	Answer
1	配送ルールなどの各種設定は，最大いくつまで登録可能でしょうか。	各種設定の最大登録数は以下になります。 • ユーザ数：システム管理者が割り当てたユーザ数 • グループ数：1000 個 • ユーザの所属グループ数：10 個 • グループの階層：10 階層 • 配送ルール数：100 個 • 配送ポリシー：100 個 • 認証ルール：100 個 • 認証ポリシー：100 個 • ネットワークセット：100 個 • 承認ルート：100 個

項番	Question	Answer
2	監査ログが文字化けして読めません。	監査ログの文字コードは UTF-8 です。UTF-8 に対応したアプリケーションを使用してファイルを開いてください。
3	エクスポート CSV ファイル，CSV ファイルサンプルが文字化けして読めません。	エクスポート CSV ファイル，CSV ファイルサンプルの文字コードは UTF-8 です。 UTF-8 に対応したアプリケーションを使用してファイルを開いてください。
4	ネットワークセットの登録について，注意する点を教えてください。	ネットワークセットの登録で指定するネットワークアドレスは，インターネット上のグローバルアドレスを指定してください。アクセスを制限したいクライアントが，インターネットへの接続にプロキシサーバを使用している場合は，プロキシサーバのグローバルアドレスを含むネットワークアドレスを指定してください。

4.2　一時的制限事項

JP1/DH - Server には，以下に示す一時的制限事項があります。ご了承ください。

4.2.1　グループ管理者に関する制限事項

グループ管理者に関する制限事項を以下に記載します。

表 4-3　グループ管理者に関する制限事項

項番	制限事項
1	JP1/DH - Server 操作中のユーザの無効化について JP1/DH - Server を操作中のユーザを無効化した場合，対象ユーザがログアウトするまでは JP1/DH - Server の一部の機能を利用できてしまいます。
2	JP1/DH - Server 操作中のユーザの削除について JP1/DH - Server を操作中のユーザを削除した場合，対象ユーザが JP1/DH - Server の画面を操作しようとすると，画面操作にて予期しないエラーが発生するときがあります。
3	[ユーザとグループ管理］画面の選択不可能なドロップダウンリストについて 次の手順で画面操作を行った場合，［ユーザとグループ管理］画面の「(英語)」と表示される部分に選択不可能なドロップダウンリストが表示されます。 1. ［ユーザとグループ管理］画面で，グループを選んで編集をクリックする。 2. ［グループ編集］画面で，［アドレス帳表示管理］タブを選択し，［グループ表示設定］画面を表示したあとで［閉じる］ボタンをクリックする。 3. 再び，［ユーザとグループ管理］画面で，グループを選んで［編集］をクリックする。 ［アドレス帳表示管理］タブを選択してから元のタブを選択すると，上記現象から回復できます。
4	グループの無効化について グループを無効化した場合でも，無効化したグループ以外のグループにも所属しているユーザは無効化されません。無効化されなかったユーザは，無効化したグループの配送ルールなどがそのまま利用できてしまうため，ユーザの所属グループから無効化したグループを外してください。

4.2.2　代表ユーザに関する制限事項

代表ユーザに関する制限事項を以下に記載します。

表 4-4　代表ユーザに関する制限事項

項番	制限事項
1	監査ログ取得時の取得対象期間の範囲指定について 監査ログを取得する際に指定する，ログ取得対象期間の範囲指定について，以下の制限事項があります。 • 実在しない日付を指定した場合，日付の範囲が正しく判定されません。 【例】

項番	制限事項
1	2010/09/31（9 月に 31 日は存在しません。）を期間終了日に指定した場合，2010/10/01 までのログがダウンロードされます。 • 期間開始日よりも古い日付を，期間終了日に指定した場合，空のファイルがダウンロードされます。
2	認証ポリシーの設定について 認証ポリシーを変更した場合，その変更内容がすぐに適用されないときがあります。ログアウト操作を行うと変更内容が反映されますので，認証ポリシーの変更後はログアウト操作を行ってください。
3	[新規送信] 画面で,自動で切り替わったポリシーの宛先数上限が減少した場合について 宛先数の上限が異なるポリシーを作成した場合は，以下の現象が発生するおそれがあります。 [新規送信] 画面で宛先にユーザを追加したあとで配送ポリシーが変更された場合に，変更後の配送ポリシーの宛先上限数がすでに宛先に追加したユーザ数よりも少ないときは，変更後の配送ポリシーの宛先上限数以降に宛先登録したユーザは，宛先一覧から削除されます。
4	配送ポリシー保存期間の設定と海外の時差について 海外で利用する場合，新規送信の保管期間は送信時には海外の時間を基準として設定されますが，実際の保管期間は JP1/DH - Server が配置されているサーバのタイムゾーン設定に従った時間となります。そのため，JP1/DH - Server のタイムゾーン（例：日本）より時刻が遅いタイムゾーン（例：アメリカ）で利用する場合，保管期限に 1 日を設定して送信すると，送信直後に保管期限が切れることがあります。JP1/DH - Server が配置されている地域の時間より時刻が遅い地域で利用する場合は，保管期間に余裕を持たせて運用してください。

付録

付録 A　配送ルール

配送ルール一覧では，上から下に複数の配送ルールの設定一覧が表示されます。

この配送のルールにユーザの配送時の条件がマッチした場合に，該当のポリシーで配送処理が実行できます。条件とは配送元グループと配送先グループです。グループには，そのグループの配下のグループを含みます。

本システムでは，ファーストマッチルールを採用しています。ファーストマッチルールとは，配送元と配送先が同一の場合に，一覧で一番上にあるルールが適応されるというものです。

複数の配送先に配送する場合は，配送先にすべての配送先を包含するルールを設定する必要があります。

配送ルール適用例

■配送先が 1 つの場合

配送元：グループ A に所属する送信者 1

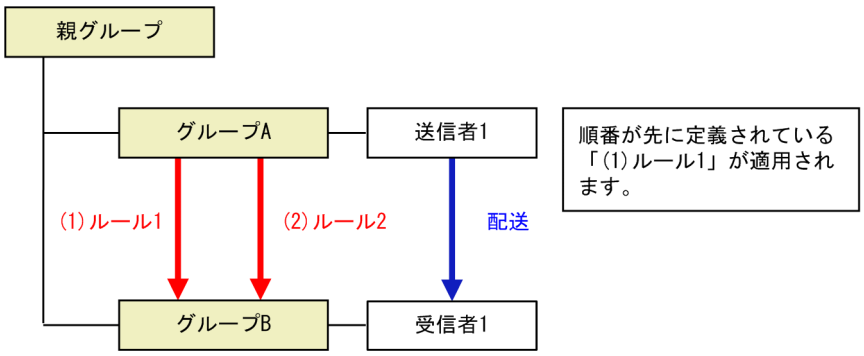
配送先：グループ B に所属する受信者 1

次の表に示す配送ルールが設定されていた場合，ファーストマッチルールを適用すると配送ルール 1 が選択されます。配送ルール 2 は適用されません。

表 A-1　配送ルール設定例

項番	配送元	配送先	配送ポリシー
1	グループ A	グループ B	配送ポリシー 1
2	グループ A	グループ B	配送ポリシー 2

図 A-1　配送例（配送先が 1 つの場合）



■配送先が 2 つの場合

配送元：グループ A に所属する送信者 1

配送先：グループ B に所属する受信者 1 とグループ C に所属する受信者 2

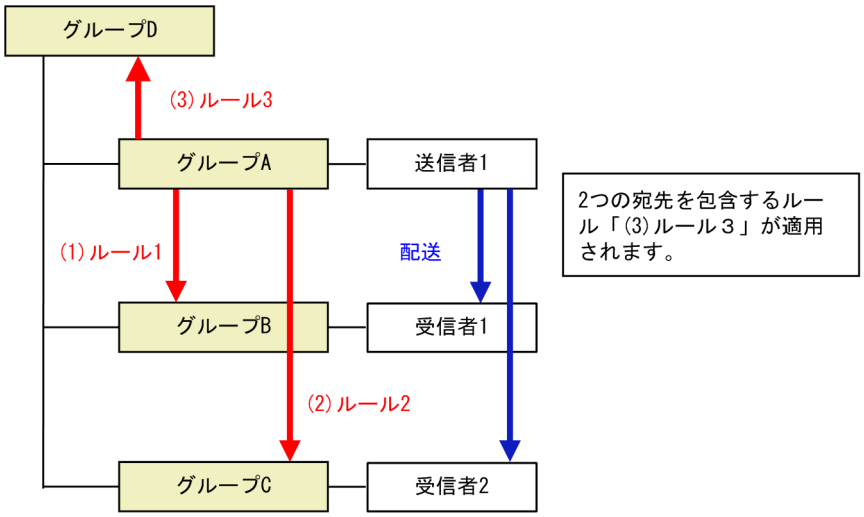
グループ構成：グループ D はグループ B，グループ C の親グループ

次の表に示す配送ルールが設定されている場合，配送元グループ A から配送先グループ B と配送先グループ C を包含する配送ルール 3 がマッチします。

表 A-2　配送可能な配送ルール設定

項番	配送元	配送先	配送ポリシー
1	グループ A	グループ B	配送ポリシー 1
2	グループ A	グループ C	配送ポリシー 2
3	グループ A	グループ D	配送ポリシー 3

図 A-2　配送可能な場合の例（配送先が 2 つの場合）

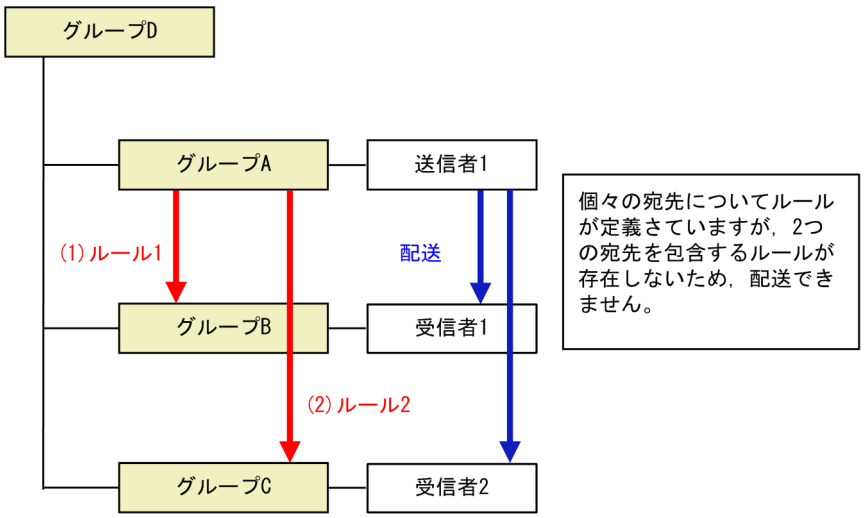


次の表に示す配送ルールが設定されている場合は配送できません。グループ A からグループ B に配送，グループ A からグループ C にそれぞれ配送はできますが，配送先としてグループ B とグループ C 両方を包含するルールが設定されていないためです。

表 A-3　配送できない配送ルール設定

項番	配送元	配送先	配送ポリシー
1	グループ A	グループ B	配送ポリシー 1
2	グループ A	グループ C	配送ポリシー 2

図 A-3　配送できない場合の例（配送先が 2 つの場合）



ユーザが複数グループに所属する場合

ユーザが複数のグループに所属する場合も同様に，ファーストマッチルールが適用されます。ユーザが所属するグループの順序は関係ありません。

グループ構成として，「A」，「B」，「C」が「親」グループの配下に登録されている場合の例を以下に示します。

表 A-4　複数グループ所属時の配送ルール適用例

項番	操作ユーザの所属（上から）	宛先のユーザの所属（上から）	配送ルール定義（上から）	適用されるルール
1	A	C	B → C A → C A → B A → A 親 → 親	A → C
2	A B	C		B → C
3	B A	C		B → C
4	A	A B		A → B
5	A	B A		A → B
6	B A	B A		A → B
7	A B	B A		A → B
8	A B	A		A → A
9	A	A B（1 人目） C（2 人目）		親 → 親

付録 B　認証ルール

認証ルール一覧では，上から下に複数の認証ルールの設定一覧が表示されます。アクションの項目に「ACCEPT」と設定されているルールが，認証の許可を行っているルールです。

この認証のルールにユーザの認証時の条件がマッチした場合に，該当ポリシーでの認証が許可されます。この条件とは，認証グループ，認証ネットワーク（ユーザが接続しているネットワークアドレス）がマッチした場合，該当する認証ポリシーが利用されます。

本システムでは，ファーストマッチルールを採用しています。複数のルールにマッチした場合は，それらのポリシーのどれかが最初に出現したルールを優先して選択します。

ファーストマッチルールとは認証グループ，認証ネットワークが同一の場合に，一覧で一番上にあるルールが適応されるというものです。この際，「ACCEPT」のルールだけが対象となります。

上から下へルールをマッチする走査過程でマッチしたルールが「DENY」の場合は，そのルールに指定されたポリシーが不許可となります。

ただし，この「DENY」より前に同ポリシーが「ACCEPT」されている場合は，不許可とはなりません。

認証ルールの一覧では見通しよく，かつ，合理的なルールの適用のために，先に許可するルールを「ACCEPT」と設定して登録し，最後にデフォルトで固定設定されているすべての条件に対して「DENY」というルールで終了するのが一般的です。これらのルールに例外を加える場合だけ，それらの途中に「DENY」ルールを挿入してください。

なお，どの認証ルールにもマッチしない場合は，JP1/DH - Server のシステム全体のデフォルト値である標準認証ルールが適用されます。

＜ユーザが複数グループに所属する場合＞

ユーザが複数のグループに所属する場合も同様に，ファーストマッチルールが適用されます。ユーザが所属するグループの順序は関係ありません。

グループ構成として，「A」，「B」，「C」が「親」グループの配下に登録されている場合の例を以下に示します。

表 B-1　複数グループ所属時の認証ルール適用例

項番	操作ユーザの所属（上から）	配送ルール定義 （上から）	適用されるルール
1	A	1. B ACCEPT 2. A ACCEPT	2. A ACCEPT
2	A B		1. B ACCEPT
3	B A		1. B ACCEPT

項番	操作ユーザの所属（上から）	配送ルール定義 （上から）	適用されるルール
4	A	1. B ACCEPT 2. A DENY	2. A DENY
5	A B		1. B ACCEPT
6	A	1. B DENY 2. A ACCEPT	2. A ACCEPT
7	A B		1. B DENY

付録 C　CSV エラーメッセージ一覧

CSV ファイルのエラーメッセージ一覧を，次に示します。

表 C-1　CSV ファイルのエラーメッセージ一覧

項番	エラーメッセージ	説明
1.	Unit verification failures exist.	CSV ファイル全体のどこかで不正な行が発見されました。より詳細はエラーメッセージを参考に，不正な行を修正してください。
2.	Joint verification failures exist.	グループの所属が未定義のユーザを作成しようとした場合など，不整合なデータを作成しようとしたときに出力されます。 正しい CSV ファイルを入力してください。
3.	Previous registration failed.	以前の行でエラーが発生しました。 以前の行のエラーを修正してください。
4.	Previous deleting failed.	以前の行でエラーが発生しました。 以前の行のエラーを修正してください。
5.	Users, groups, binders or managers cannot be parsed (usersParsed=XXX,groupsParsed=XXX,bindersParsed=XXX,managersParsed=XXX).	インポート時，どれかの識別子([users],[groups],[binders],[managers])の記述がありません。 XXX には「true」または「false」が出力されます。 • true：記述あり • false：記述なし ある定義部のレコードが 1 件もない CSV ファイルであっても，識別子およびヘッダは必要です。 識別子およびヘッダを記述してください。
6.	A XXX column is too long.Please confirm the number of columns.	入力したレコードの項目数が，規定値よりも多いです。レコードの項目数を確認してください。 XXX は次のどれかが出力されます。 「[users],[groups],[binders],[managers]」
7.	A XXX column is too short.Please confirm the number of columns.	入力したレコードの項目数が規定値よりも少ないです。レコードの項目数を確認してください。 XXX は次のどれかが出力されます。 「[users],[groups],[binders],[managers]」
8.	Unknown XXX's field detected	入力したヘッダの項目に誤りがある場合に出力されます。ヘッダは変更できません。正しいヘッダを入力してください。 XXX は次のどれかが出力されます。 「user,group,binder,manager」
9.	Unexpected problems occured.	予期しない例外が発生しました。サーバに負荷が集中している可能性があります。時間をおいてから再度実行してください。何度実行しても同じエラーとなる場合は，販売代理店または弊社サポート窓口へお問い合わせください。

項番	エラーメッセージ	説明
10.	The number of XXX lines exceeds 300.Please input XXX within 300 lines.	入力したレコードの件数が 300 を超えています。各定義部のレコード件数をそれぞれ 300 以下にしてください。XXX は次のどれかが出力されます。 「users,groups,binders,managers」
11.	A user ID is null or empty. (USER_ID)	ユーザ ID が入力されていません。 ユーザ ID を入力してください。
12.	A user email is null or empty. (EMAIL)	メールアドレスが入力されていません。 メールアドレスを入力してください。
13.	A user password is null or empty. (PASSWORD)	パスワードが入力されていません。 パスワードを入力してください。
14.	An english user name is null or empty. (NAME_EN)	名前(英語)が入力されていません。 名前(英語)を入力してください。
15.	A group english name is null or empty. (XXX)	グループ名(英語)が入力されていません。 XXX が示す項目を入力してください。XXX は次のどれかが出力されます。 「NAME_EN, GROUP_NAME_EN」
16.	Japanese name/Chinese name of the group is null or empty. (NAME_JA)	グループ名(日本語/中国語)が入力されていません。 グループ名(日本語/中国語)を入力してください。
17.	A parent group english name is null or empty. (PARENT_NAME_EN)	親グループ名(英語)が入力されていません。 親グループ名(英語)を入力してください。
18.	Please enter a user ID (includes static ID following @) within 100 characters maximum. (USER_ID)	ユーザ ID が 100 文字を超えています。 ユーザ ID は 100 文字以内で入力してください。
19.	Please enter a user's email address within 256 characters maximum. (EMAIL)	メールアドレスが 256 文字を超えています。 メールアドレスは 256 文字以内で入力してください。
20.	Please enter a user's name within 256 characters maximum. (XXX)	ユーザの名前が 256 文字を超えています。 XXX が示す項目は 256 文字以内で入力してください。XXX は次のどれかが出力されます。 「NAME,NAME_EN,NAME_KANA」
21.	The length of a user password(text:HEX) is wrong. (PASSWORD).	ダイジェスト形式で入力したパスワードの長さに誤りがあります。 ダイジェストは 40 文字で入力してください。
22.	Please enter a memo within 4096 characters maximum. (MEMO)	メモが 4,096 文字を超えています。 メモは 4,096 文字以内で入力してください。
23.	Please enter a group name within 200 characters maximum. (XXX)	グループ名が 200 文字を超えています。 XXX が示す項目は 200 文字以内で入力してください。XXX は次のどれかが出力されます。 「NAME_EN,NAME_JA,PARENT_NAME_EN,GROUP_NAME_EN」

項番	エラーメッセージ	説明
24.	Please enter a user ID. You cannot use a user ID which includes some symbols (/¥? *:|””<>#@^) including white spaces or is a white space or a period only. (USER_ID)	ユーザ ID に使用できない文字が含まれています。 使用できない文字は使用しないでください。
25.	A password includes restricted strings. (PASSWORD)	パスワードに使用できない文字が含まれています。使用できない文字は使用しないでください。
26.	A mismatch in domain part of user ID. (XXX,YYY)	ユーザ ID のドメインに誤りがあります。正しいドメインを入力してください。 XXX は入力したドメインが，YYY は入力すべきドメインが出力されます。
27.	The domain is not included in user ID. Please input user ID including the domain. (USER_ID)	ユーザ ID にドメインが記述されていません。「user@domein」のように，@以降にドメインを入力してください。
28.	Please enter an e-mail address. You cannot use an email string which includes some symbols (/¥?*:|””<>) or white spaces. (EMAIL)	メールアドレスの書式に誤りがあるか，使用できない文字が含まれています。 正しいメールアドレスを入力してください。
29.	You cannot use a name which includes some symbols (/¥)?*:|””<>@^) or is a white space or a period only. (XXX)	ユーザの名前，名前（かな）またはグループ名(日本語/中国語)に使用できない文字が含まれているか，スペースまたはピリオド(.)だけとなっています。 XXX が示す項目に使用できない文字は使用しないでください。スペース，またはピリオドだけでない文字列を入力してください。 XXX は次のどれかが出力されます。 「NAME,NAME_KANA,NAME_JA」
30.	Please enter an english name. You cannot use an english name which includes some symbols (/¥?*:|””<>@^) or is a white space or a period only. (XXX)	ユーザの名前（英語）またはグループ名(英語)に使用できない文字が含まれているか，スペースまたはピリオド(.)だけとなっています。 XXX が示す項目に使用できない文字は使用しないでください。スペースまたはピリオドだけでない文字列を入力してください。 XXX は次のどれかが出力されます。 「NAME_EN,PARENT_NAME_EN,GROUP_NAME_EN」
31.	Unknown user locale (XXX). It should be 'ja', 'en' or 'zh'. (LANG).	ユーザ言語に使用できない文字列が入力されています。 ユーザ言語は「ja」,「en」,「zh」のどれかを入力してください。
32.	A user expire date is after 2031/12/31. (EXPIRE_DATE)	ユーザのアカウント期限に 2031 年 12 月 31 日よりあとの日付が入力されています。 アカウント期限は 2031 年 12 月 31 日までの日付を入力してください。
33.	A group expire date is after 2031/12/31. (EXPIRE_DATE)	グループのアカウント期限に 2031 年 12 月 31 日よりあとの日付が入力されています。 アカウント期限は 2031 年 12 月 31 日までの日付を入力してください。

項番	エラーメッセージ	説明
34.	A user expire date is before the current date & time. (EXPIRE_DATE)	ユーザのアカウント期限に現在の日付以前の値が入力されています。 アカウント期限は現在の日付以降の日付を入力してください。
35.	A group expire date is before the current date & time. (EXPIRE_DATE)	グループのアカウント期限に現在の日付以前の値が入力されています。 アカウント期限は現在の日付以降の日付を入力してください。
36.	A date format may be invalid because of 'The input date does not exist.'. (EXPIRE_DATE).	アカウント期限の日付は存在しません。 アカウント期限には存在する日付を指定してください。
37.	A date format may be invalid because of 'The input is not a date format (yyyy/mm/dd or yyyy-mm-dd).'. (EXPIRE_DATE)	アカウント期限の書式に誤りがあります。 アカウント期限は yyyy/mm/dd または yyyy-mm-dd の形式で入力してください。
38.	A quota size is not a number. (QUOTA)	保管容量が数値ではありません。 保管容量は 0 から 8796093022207 までの数値で入力してください。
39.	A quota size is not a natural number. (QUOTA)	保管容量が自然数ではありません。 保管容量は 0 から 8796093022207 までの数値で入力してください。
40.	A quota size is greater than 8796093022207. (QUOTA)	保管容量が 8796093022207(MB)を超えています。 保管容量は 0 から 8796093022207 までの数値で入力してください。
41.	The format of use_user_option is wrong. Please input 'TRUE' or 'FALSE'. (USE_USER_OPTION)	オプション使用許可の書式に誤りがあります。 オプション使用許可は TRUE または FASLE を入力してください。
42.	The format of use_guest_user is wrong. Please input 'TRUE' or 'FALSE'. (USE_GUEST_USERS)	招待者使用許可の書式に誤りがあります。 招待者使用許可は TRUE または FASLE を入力してください。
43.	The format of for_guest is wrong. Please input 'TRUE' or 'FALSE'. (FOR_GUEST)	グループ種別の書式に誤りがあります。 FOR_GUEST は TRUE または FASLE を入力してください。
44.	The format of user_registerable is wrong. Please input 'TRUE' or 'FALSE'. (USER_REGISTERABLE)	招待者使用許可の書式に誤りがあります。 招待者使用許可は TRUE または FASLE を入力してください。
45.	The format of input_any_address is wrong. Please input 'TRUE' or 'FALSE'. (INPUT_ANY_ADDRESS)	任意の宛先入力許可の書式に誤りがあります。 任意の宛先入力許可は TRUE または FASLE を入力してください。
46.	The format of flag_delete is wrong. Please input 'TRUE' or 'FALSE'. (FLAG_DELETE)	削除フラグの書式に誤りがあります。 削除フラグは TRUE または FASLE を入力してください。
47.	The guest group (XXX) does not allow user registerable. (USER_REGISTERABLE)	ゲストグループの招待者利用許可を TRUE にすることはできません。ゲストグループでは招待者利用許可を FALSE にしてください。

項番	エラーメッセージ	説明
47.	The guest group (XXX) does not allow user registerable. (USER_REGISTERABLE)	XXX には入力したグループ名(英語)が出力されます。
48.	You can not create the root group manager. (GROUP_NAME_EN)	一番上位の階層のグループ管理者を設定することはできません。一番上位の階層以外のグループを指定してください。
49.	You exceeded limits of your number of users. Please delete users before you create this user. (USER_ID)	ユーザ数の上限に達しているため，ユーザを作成することはできません。 ユーザを削除してからユーザの作成を行ってください。
50.	This user(XXX)'s belonging is undefined. Please define this user's belonging in [binders]. (USER_ID)	ユーザの所属が未定義なため，ユーザを削除することができません。 バインダ定義部でユーザの所属を定義してください。XXX には入力したユーザ ID が出力されます。
51.	The user (XXX) already exist. (USER_ID)	同じユーザ ID のユーザがすでに存在するため，ユーザを作成することはできません。別のユーザ ID を指定してください。 XXX には入力したユーザ ID が出力されます。
52.	The e-mail (XXX) already exist. (EMAIL)	同じメールアドレスのユーザがすでに存在するため，ユーザを作成することはできません。別のメールアドレスを指定してください。 XXX には入力したメールアドレスが出力されます。
53.	The group (XXX) already exist. (YYY)	同じグループ名(英語)/グループ名(日本語/中国語)のグループがすでに存在するため，グループを作成することはできません。別のグループ名(英語)/グループ名(日本語/中国語)を指定してください。 XXX には入力したグループ名(英語)/グループ名(日本語/中国語)が，YYY には次のどれかが出力されます。 「NAME_EN,NAME_JA」
54.	There is no parent group. (PARENT_NAME_EN)	指定した親グループ名(英語)が存在しません。存在するグループ名(英語)を指定してください。
55.	The user (XXX) does not exist. (USER_ID)	指定したユーザは存在しません。存在するユーザのユーザ ID を指定してください。 XXX には入力したユーザ ID が出力されます。
56.	The group (XXX) does not exist. (GROUP_NAME_EN)	指定したグループ名(英語)が存在しません。存在するグループ名(英語)を指定してください。 XXX には入力したグループ名(英語)が出力されます。
57.	This user(XXX) already belongs to this group (YYY). (USER_ID)	指定したユーザはすでにそのグループに所属しています。 XXX には入力したユーザ ID が出力されます。
58.	This user(XXX) cannot be removed from the group(YYY) because the user doesn't belong to it. (USER_ID)	指定したユーザがそのグループに所属していないため，ユーザの所属を削除することはできません。 XXX には入力したユーザ ID が，YYY には入力したグループ名が出力されます。
59.	It is not possible to belong to both a general group and a guest group. (USER_ID)	ユーザはユーザグループと招待者グループの両方に同時に所属することはできません。

項番	エラーメッセージ	説明
60.	A guest user can belong to only 1 group. (USER_ID)	招待者は 1 つのグループにだけ所属可能であるため，指定したグループに所属することはできません。
61.	This user(XXX) is already a group manager of this group(YYY). (USER_ID)	指定したユーザはすでにそのグループの管理者です。
62.	You can not create the root group manager. (GROUP_NAME_EN)	最上位の階層のグループ管理者を設定することはできません。
63.	This user(XXX) cannot become the group manager of this group because this user doesn't belong to this group(YYY). (USER_ID)	指定したユーザがそのグループに所属していないため，グループ管理者にすることはできません。そのグループに所属させてから，グループ管理者の設定をしてください。
64.	This user(XXX) cannot become the group manager of this group because this user is already a group manager of another group(YYY). (USER_ID)	指定したユーザはすでに別のグループの管理者となっているため，そのグループの管理者にすることはできません。 すでに管理者となっているグループから管理権限を解除したあとに，グループ管理者の設定をしてください。
65.	You cannot delete yourself. (USER_ID)	自分自身を削除することはできません。
66.	You cannot delete this user (admin@hoge) because some approval routes have only this user as approvers. (USER_ID)	指定したユーザは承認ルート内の唯一の承認者であるため削除することはできません。 別のユーザを承認者に追加してから，ユーザを削除してください。
67.	The user was not deleted since the user does not exist. (USER_ID)	指定したユーザが存在しないため，ユーザを削除することはできません。
68.	The group hierarchical depth is over the limit 10.	グループの階層が 10 を超えています。 グループの階層が 10 以下になるように親グループを指定してください。
69.	User cannot belong to more than 10 groups.	ユーザは 11 個以上のグループに所属することはできません。 ユーザが所属するグループは 10 個以内にしてください。

付録 D　メール一覧

JP1/DH - Server では，配送や承認などの運用にて，メールによる通知を行っています。JP1/DH - Server によって配信されるメールを以下に説明します。

なお，システム管理者の設定によって，メールのタイトルが異なる場合があります。

表 D-1　配信メール一覧

項番	種類	メールのタイトル	説明
1	ファイル配送のお知らせ	［新規送信］画面で件名を設定しなかった場合 【JP1/DH - Server】ファイル配送のお知らせ	ファイルの新規送信を行った際に，配送先ユーザに送付されます。
		［新規送信］画面で件名を設定した場合 【JP1/DH - Server】*任意の件名*	
		［新規送信］画面で件名を設定しなかった場合 【Reminder】【JP1/DH - Server】ファイル配送のお知らせ	指定した日までにファイルがダウンロードされていない際に，配送先ユーザに送付されます。
		［新規送信］画面で件名を設定した場合 【Reminder】【JP1/DH - Server】*任意の件名*	
2	ファイル配送の確認通知	【JP1/DH - Server】ファイル配送の確認通知	ファイルの新規送信を行った際に，配送元ユーザに送付されます。
3	ファイル配送 開封のお知らせ	【JP1/DH - Server】ファイル配送 開封のお知らせ	配送先ユーザがファイルを開封した際に，配送元ユーザに送付されます。 このメールが送信されるようにするには，新規配信にて，［開封された場合に通知する］を設定する必要があります。
4	ファイル配送期限切れ間近のお知らせ	【JP1/DH - Server】ファイル配送期限切れ間近のお知らせ	ファイル配送の期限が残り 1 日となった際に，配送元ユーザに送付されます。 このメールが配信されるようにするには，新規配信にて，［期限前日までに開封されなかった場合に通知する］を設定する必要があります。
5	ファイル配送期限切れのお知らせ	【JP1/DH - Server】ファイル配送期限切れのお知らせ	ファイル配送の期限が切れた際に，配送元ユーザに送付されます。 このメールが配信されるようにするには，新規配信にて，［期限までに開封されなかった場合に通知する］を設定する必要があります。

項番	種類	メールのタイトル	説明
6	メッセージ配送のお知らせ	［新規送信］画面で件名を設定しなかった場合 【JP1/DH - Server】メッセージ配送のお知らせ	メッセージの新規送信を行った際に，配送先ユーザに送付されます。
		［新規送信］画面で件名を設定した場合 【JP1/DH - Server】*任意の件名*	
7	メッセージ配送の確認通知	【JP1/DH - Server】メッセージ配送の確認通知	メッセージの新規送信を行った際に，配送元ユーザに送付されます。
8	承認申請のお知らせ	【JP1/DH - Server】承認申請のお知らせ	ファイル配信にて承認が必要な場合に，承認者へ送付されます。
		【Reminder】【JP1/DH - Server】承認申請のお知らせ	指定した日までに承認者が承認または却下していない際に，承認者に送付されます。
9	配送承認通知	【JP1/DH - Server】配送承認通知	承認者が承認を許可した際に，配送元ユーザに送付されます。
10	配送却下通知	【JP1/DH - Server】配送却下通知	承認者が承認を却下した際に，配送元ユーザに送付されます。

付録 E　各バージョンの変更内容

付録 E.1　10-10 の変更内容

- 次のクライアントの前提 OS をサポートしました。
  - Windows 8
- 次のソフトウェアをサポートしました。
  - Internet Explorer 10.0
  - Java Runtime Environment Version 6.0 (64bit 版)
  - Java Runtime Environment Version 7.0 (32bit 版) (64bit 版)
- 配送ポリシーで圧縮方式を指定できるようになりました。
- JP1/Data Highway - AJE での送信時に，承認ルートをスキップする設定ができるようになりました。
- アイコンのデザインを変更しました。
- JP1/Data Highway - AJE で送信した配送が，エラーとなったことがアイコンでわかるようになりました。
- 新規送信時の保管日数の上限に，システム管理者が設定した値が表示されるようになりました。
- 一度の配送で指定できる宛先数の上限に，システム管理者が設定した値が表示されるようになりました。
- ローカルフォルダ以外のファイル/フォルダや，アクセス速度が遅いドライブ（SD カードなど）に存在するファイル/フォルダを送信する場合に，ローカルにコピーしてから送信する機能をサポートしました。
- ダウンロード時の保存先にローカルフォルダ以外のフォルダを指定する場合に，ローカルに受信してからコピーする機能をサポートしました。
- 受信ボックスに表示する配送データの処理状況を，プルダウンメニューで選択できるようになりました。
- ユーザ作成時に指定できる文字数を変更しました。
- 承認が必要な配送の場合に，送信ボックスの履歴詳細で承認者を確認できるようになりました。
- 複数のファイルを一度に送信した場合に，ファイルごとのダウンロード状況を確認できるようになりました。
- 新規送信時に指定できる保存期間に，システム管理者が設定した値が表示されるようになりました。
- 新規送信時に指定できる配送データ量に，システム管理者が設定した値が表示されるようになりました。
- 認証ルールにマッチしなかった場合の説明を追加しました。
- 次のサーバの前提 OS を追加しました。
  - Windows Server 2012
  - Linux

付録 F　このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 F.1　関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- JP1 Version 10 JP1/Data Highway - Server ユーザーズガイド（3021-3-143）

付録 F.2　このマニュアルでの表記

このマニュアルでは製品名称について次のように表記しています。ただし，それぞれの製品についての表記が必要な場合はそのまま表記しています。

製品名称	略称	
Java™ Runtime Environment	Java Runtime Environment	JRE
JP1/Data Highway - Automatic Job Executor	JP1/Data Highway - AJE	
Red Hat Enterprise Linux 5	Linux	
Red Hat Enterprise Linux 6		

付録 F.3　英略語

このマニュアルで使用する英略語を次の表に示します。

英略語	正式名称
Ajax	Asynchronous JavaScript + XML
CGI	Common Gateway Interface
CN	Common Name
CSS	Cascading Style Sheets
CSV	Comma Separated Values
DIT	Directory Information Tree
DN	Distinguished Name
DOM	Document Object Model
FAQ	Frequently Asked Question

英略語	正式名称
HTTP	HyperText Transfer Protocol
HTTPS	HyperText Transfer Protocol over Secure Socket Layer
ID	Identification Data
JRE	Java(TM) Runtime Environment
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
OS	Operating System
OU	Organization Unit
PC	Personal Computer
PC/AT	Personal Computer/Advanced Technology
SSL	Secure Socket Layer
URL	Uniform Resource Locator
XML	Extensible Markup Language

付録 F.4　デフォルトのインストール先フォルダ

JP1/DH - Server のデフォルトのインストール先フォルダは次のとおりです。

デフォルトのインストール先フォルダ

　　システムドライブ:¥Program Files¥Hitachi¥jp1dh¥server

付録 F.5　このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは，ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザを指します。

付録 F.6　KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト），1MB（メガバイト），1GB（ギガバイト），1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト，$1{,}024^2$ バイト，$1{,}024^3$ バイト，$1{,}024^4$ バイトです。

付録 G　用語解説

（英字）

LDAP 認証システム

JP1/DH - Server にログインする際に，ディレクトリ・サーバを使用して認証する場合の認証システムです。LDAP 認証システムは，インストール時には定義されていません。

（ア行）

一般ユーザ

JP1/DH - Server を利用してファイルの送受信を行うユーザです。

代表ユーザ，またはグループ管理者から権限を割り当てられることで，ユーザの招待と，招待したユーザの管理を行うこともできます。

代表ユーザ，またはグループ管理者によって管理されます。

（カ行）

監査ログ

JP1/DH - Server のシステムの利用履歴を記録した，CSV 形式のテキストファイルです。代表ユーザがダウンロードすることができます。

グループ

ユーザの管理単位です。

代表ユーザまたはグループ管理者によって管理されます。

グループ管理者

代表ユーザまたは他のグループ管理者によって一部のグループの管理権限を与えられたユーザです。

管理対象のグループ内のユーザ／グループの管理と,送受信履歴を参照することができます。

高速通信モード

ファイルの送信を高速に行うことができる設定です。ファイルの新規送信にて選択することができます。ただし，ご利用の環境によっては，プロキシサーバやファイアウォールの設定などの理由により，高速通信モードではファイルを送信できないことがあります。

（サ行）

招待者

招待者作成権限を持つ一般ユーザにより作成された一般ユーザです。JP1/DH - Server を利用してファイルの送受信を行うことができます。ただし，ユーザの招待を行うことはできません。

代表ユーザまたは招待を行った一般ユーザによって管理されます。

承認者

配送を承認する一般ユーザのことです。

承認ルート

ファイル配送の承認者と承認時の条件を定めた規則です。配送ルールに組み込まれます。

承認ルートの承認者は複数設定することが可能です。複数の承認者が設定された場合，いずれかの承認者が承認を許可または却下すると，承認操作が完了します。

代表ユーザによって管理されます。

全体ディスク容量

ドメインに割り当てられたディスク容量です。空き容量を超えてのファイル送信はできません。代表ユーザが設定します。

（タ行）

代表ユーザ

1 つのドメインを管理するユーザです。システム管理者によって管理されます。

ダウンロード制限

1 ヶ月間にダウンロード可能な容量の合計です。代表ユーザが設定します。

ドメイン

JP1/DH - Server の管理単位の 1 つです。ドメインごとに代表ユーザが割り当てられます。

（ナ行）

認証システム

JP1/DH-Server にログインする際に使用する認証基盤の情報を，定義・管理するものです。認証システムには，標準認証システムと LDAP 認証システムがあります。

認証ポリシー

ユーザの認証パスワードの設定規則です。パスワードの設定時に要求される，パスワードの複雑さやパスワード長を定めます。

代表ユーザによって管理されます。

認証ルール

認証ポリシーをどの範囲に適用するかを定めたルールです。範囲の指定は，グループとネットワーク範囲の組み合わせで行います。また，指定した範囲のユーザの認証を許可または拒否することができます。

代表ユーザによって管理されます。

ネットワークセット

ネットワークの範囲を定義したものです。認証ルールや配送ルールで利用します。

代表ユーザによって管理されます。

（ハ行）

配送

ファイルやメッセージ送信することを配送と呼びます。

配送先ユーザ

ファイルやメッセージを受け取る側の一般ユーザのことです。

配送ポリシー

ファイルの最大サイズや，ファイルの保存期間などの，ファイル配信に関する規則です。

代表ユーザによって管理されます。

配送元ユーザ

ファイルやメッセージを送信した一般ユーザのことです。

配送ルール

配送ポリシーと承認ルートをどの範囲に適用するかを定めたルールです。範囲の指定は，送信元のグループと，送信先のグループの組み合わせで行います。指定した範囲の配送を許可することができます。

代表ユーザによって管理されます。

標準認証システム

JP1/DH-Server にログインする際に，本製品が管理するユーザ ID，パスワード，または電子証明書を使用して認証する場合の認証システムです。インストール時に定義されています。標準認証システムの変更，削除はできません。

プライマリグループ

ユーザの作成/編集画面の［所属グループ一覧］において，一番上に表示されているグループです。

ユーザのプロパティ（アカウント期限，保管容量，オプションの使用，招待者の使用）はこのグループから引き継がれます。

プライマリグループは，［ユーザ編集］画面の［所属グループ］タブから変更できます。

プライマリグループおよびその上位階層のグループのグループ管理者は，ユーザを編集，有効化，無効化，または削除できます。

（マ行）

未登録ユーザ

JP1/DH - Server のシステムに登録されていないユーザです。

JP1/DH - Server 上で未登録宛先への送信が許可されているユーザから，開封パスワードが設定されたメールを受信できます。

未登録ユーザはファイルの受信以外の機能は使用できません。

（ヤ行）

ユーザ

代表ユーザ，グループ管理者，一般ユーザ，および未登録ユーザを含めた，JP1/DH - Server の利用者です。

ユーザ言語

配送通知などで送信者に送付されてくるメールの言語です。ユーザとグループ管理，招待者設定，オプションで設定します。差出人に設定されたユーザ言語が［新規送信］画面の送信先の言語としてデフォルトで表示されます。

ユーザディスク容量

ユーザ 1 人当たりの保管容量です。ユーザディスクの空き容量を超えてファイルを送信することはできません。

ユーザの招待

一般ユーザが JP1/DH - Server のユーザを追加する操作のことです。ユーザの招待を行うには，ユーザの招待権限を割り当てられている必要があります。

索引

記号

［電子証明書認証］で JP1/DH - Server にログインする　56
［標準パスワード認証］で JP1/DH - Server にログインする　54

F

FAQ　163

J

JP1/DH - Server からログアウトする　58
JP1/DH - Server とは　14
JP1/DH - Server の運用　24
JP1/DH - Server の運用の流れ　25
JP1/DH - Server の概要　13
JP1/DH - Server の機能概要　17
JP1/DH - Server の特長　15
JP1/DH - Server のユーザ管理情報を使用した認証 31

あ

アイコン一覧　50

い

一時的制限事項　165
一般ユーザが行う操作　60

お

オブジェクト定義　156
オプション　86

か

各バージョンの変更内容　181
画面共通仕様　49
画面構成　49
監査ログ　35
監査ログ機能　19
監査ログのエラーメッセージ　42
監査ログの出力形式　35
監査ログの出力内容　35
監査ログの出力例　45

き

機能別／条件付き前提製品　23
基本操作　54

く

グループ管理者が行う操作　88
グループ管理者に関する制限事項　165
グループ管理者ユーザに関する FAQ　163

し

システムの設定　26
自分の利用履歴を確認／削除する　74
受信ボックスからファイルを受信する　72
招待者設定　81
承認申請管理　78
新規送信　60

す

推奨ハードウェア　21

せ

設定　33
前提ソフトウェア　21
前提ハードウェア　21

そ

操作説明　48
操作の一覧　54, 60, 88, 112

た

代表ユーザが行う操作　112
代表ユーザに関する FAQ　163
代表ユーザに関する制限事項　165

ち

注意事項　53

て

ディレクトリ・サーバと連携した認証　31
ディレクトリ・サーバを使用してログインする　57

と

導入のための前提条件　21
トラブルシュート　162

に

認証システム設定　150
認証システムの設定　25
認証方法　31
認証ルール設定　143

は

配送ルール　168
配送ルール設定　134
配送ルールの設定　28

ひ

表示言語を変更する　58

ふ

ファイル送受信機能　17
ファイルの送受信　29

め

メール一覧　179
メール記載 URL からファイルを受信する　70

ゆ

ユーザ／グループ管理機能　18
ユーザ／グループの管理　27
ユーザとグループ管理　88
ユーザとグループ管理（一括管理）　113
ユーザの種類と権限　47
ユーザの招待　28
ユーザ利用履歴　107

り

履歴の監査　29

ろ

ログ　161